

ソフトピジネスパーク進入路予定地内

すが　た　よこ　あな　ほ　ぐん  
菅　田　横　穴　墓　群  
こも　ざわ　とりで　あと  
薦　沢　砦　跡

2005年3月

松　江　市　教　育　委　員　会  
財団法人 松江市教育文化振興事業団



菅田横穴墓群全景（南東より）



## 例　　言

1. 本書は、松江市都市建設部管理課の依頼を受けて、松江市教育委員会と財團法人松江市教育文化振興事業団が平成15年度と平成16年度に実施した、ソフトビジネスパーク進入路建設事業に伴う菅田横穴墓群、薦沢岩跡の報告書である。

2. 調査の組織は下記の通りである。

依頼者　松江市土地開発公社

主体者　松江市教育委員会

(平成15年度)

事務局　松江市教育委員会 教育長　山本 弘正

文化財課 課長　岡崎雄二郎

係長　飯塚 康行

実施者　財團法人松江市教育文化振興事業団

理事長　松浦 正敬

事務理事　田中寿美夫

事務局長　長野 正夫

調査係長　瀬古 諒子

調査員　石川 崇、広江 光洋(嘱託員)

廣濱 貴子(嘱託員)

補助員　金坂 有史、高橋 真紀子、野津 里佳

(平成16年度)

事務局　松江市教育委員会 教育長　山本 弘正

文化財課 課長　岡崎雄二郎

係長　飯塚 康行

実施者　財團法人松江市教育文化振興事業団

理事長　松浦 正敬

専務理事　田中寿美夫

事務局長　長野 正夫

調査係長　瀬古 諒子

調査員　廣濱 貴子(嘱託員)

補助員　高橋 真紀子、野津 里佳

3. 調査の実施及び報告書の作成にあたっては、下記の方々より、多大な御指導、御教示、御協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。(順不同)

渡辺貞幸(島根大学)、澤田順弘(島根大学)、井上貴央(鳥取大学)、大谷晃二(島根県立松江北高等学校)、中村唯史(島根県立三瓶自然館)、西尾克己(島根県教育庁)、椿真治(島根県教育庁)、柳浦俊一(島根県教育庁)、原田敏照(島根県教育庁)、松尾充晶(島根県教育庁)

深田浩（鳥取県教育庁）、東森晋（鳥取県教育庁）

4. 本遺跡出土人骨の取り上げ、及び鑑定は井上貴央氏（鳥取大学医学部教授）に依頼し、貴重な論稿をいただいたて本書に記載した。

5. 本書挿図中の方位は第Ⅲ座標系X軸、レベルは海拔高である。

6. 本書で使用した造構記号は、以下の通りである。

SK…土壙、SD…溝、SX…墓壙

7. 本書に記載した遺物の実測、浄書は主として下記のものが行った。

(実測) 高橋真紀子、井上亞代女、村田理恵、廣濱

(浄書) 高橋真紀子、松尾澄美、飯野正子

8. 本書に記載した写真は、石川崇、広江光洋、廣濱が撮影した。

9. 本書の執筆、編集は廣濱が行った。

10. 出土遺物、実測図面、写真等は松江市教育委員会で保管している。



第1図 松江市位置図

## 目 次

第 1 章 調査に至る経緯 .....	1
第 2 章 位置と歴史的環境 .....	2
第 3 章 調査の概要 .....	4
菅田横穴墓群	
(1) 横穴墓 .....	5
(2) 後背墳丘 .....	92
(3) 横穴墓出土器について .....	98
(4) 周辺の遺構 .....	101
第 4 章 自然科学分析	
菅田横穴墓群出土人骨について .....	105
第 5 章 菅田横穴墓群 まとめ .....	112
第 6 章 燐沢砦跡 .....	127

## 插図目次

### 菅田横穴墓群

第1図 松江市位置図	例言
第2図 遺跡位置図 (S - I : 25000)	1
第3図 周辺の遺跡 (S = 1 : 25000)	3
第4図 横穴墓模式図と各部名称	4
第5図 菅田横穴墓群地形測量図・這摺配置図 (S - I : 200)	5 ~ 6
第6図 1号横穴墓土断面図 (S - I : 60)	8
第7図 1号横穴墓尖削図 (S - I : 60)	9 ~ 10
第8図 1号横穴墓附塞石・遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	11
第9図 1号横穴墓出土遺物実測図 (S = I : 3)	12
第10図 1号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (S = 1 : 3)	13
第11図 2号横穴墓実測図 (S - I : 60)	14
第12図 2号横穴墓道遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	15
第13図 2号横穴墓墓道出土遺物実測図 (S - I : 3)	16
第14図 2号横穴墓出土遺物実測図 (1) (S = 1 : 3)	17
第15図 2号横穴墓出土遺物実測図 (2) (S - I : 6, I : 2)	18
第16図 3・5・6・7号横穴墓土断面図 (S = 1 : 60)	20
第17図 3・4・5・6・7号横穴墓実測図 (S - I : 60)	21 ~ 22
第18図 3号横穴墓附塞石・玄室内遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	23 ~ 24
第19図 3号横穴墓出土遺物実測図 (S - I : 3, I : 2)	26
第20図 4号横穴墓実測図 (S = 1 : 40)	27
第21図 4号横穴墓出土遺物実測図 (S - I : 3)	27
第22図 5号横穴墓附塞石・玄室内遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	29 ~ 30
第23図 5号横穴墓出土遺物実測図 (S - I : 3)	31
第24図 6号横穴墓附塞石・遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	33 ~ 34
第25図 6号横穴墓出土遺物実測図 (S - I : 3, I : 2)	35
第26図 5・6号横穴墓壁土・堆積土山七箇所実測図 (S = 1 : 3)	35
第27図 7号横穴墓実測図 (S - I : 40)	36
第28図 8号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)	37
第29図 8号横穴墓玄室内右端山形状実測図 (S - I : 30)	38
第30図 8号横穴墓山上遺物実測図 (S - I : 3, I : 2)	38
第31図 9号横穴墓実測図 (S - I : 60)	40
第32図 9号横穴墓遺物山上状況実測図 (S - I : 30)	41
第33図 9号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3, I : 6)	42
第34図 9号横穴墓墓道出土遺物実測図 (S - I : 3)	43
第35図 10・11号横穴墓実測図 (S = I : 60)	44
第36図 10号横穴墓山上遺物実測図 (S - I : 3)	45
第37図 10号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	45
第38図 11号横穴墓遺物出土状況実測図 (S - I : 30)	46
第39図 11号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)	46
第40図 12号横穴墓実測図 (S - I : 60)	47
第41図 12号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)	47
第42図 13号横穴墓実測図 (S - I : 60)	48
第43図 13号横穴墓附塞石・遺物出土状況・出土遺物実測図 (S = I : 30, I : 3)	49
第44図 14号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)	51
第45図 14号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)	52
第46図 14号横穴墓出土遺物実測図 (S - I : 3, I : 2)	53
第47図 15号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)	54
第48図 15号横穴墓附塞石・遺物出土状況実測図 (S - I : 30)	55
第49図 15号横穴墓山上遺物実測図 (S = 1 : 3, I : 2)	57
第50図 15・16・17号横穴墓実測図 (S - I : 60)	59 ~ 60
第51図 16号横穴墓前庭部カメ片出土状況 (S - I : 30)	61
第52図 16号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (I) (S - I : 3, I : 2)	62

第53図	16号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (2) (S - 1:3, 1:6)	63
第54図	16号横穴墓出土遺物実測図 (S - 1:3, 1:2)	64
第55図	16号横穴墓閉塞石・石棺・遺物出土状況実測図 (S - 1:40)	65~66
第56図	17号横穴墓実測図 (S - 1:40)	67
第57図	18号横穴墓実測図 (S = 1:60)	69
第58図	18号横穴墓玄室内遺物出土状況実測図 (S - 1:30)	70
第59図	18号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1:3, 1:2)	71
第60図	21号横穴墓実測図 (S - 1:60)	72
第61図	21号横穴墓出土状況実測図 (S = 1:30)	73
第62図	21号横穴墓出土遺物実測図 (S - 1:3)	73
第63図	19・20・22号横穴墓実測図 (S = 1:60)	75~76
第64図	19・20・22号横穴墓前庭部断面図 (S = 1:60)	77
第65図	19・20・22号横穴墓前庭部遺物出土状況実測図 (S - 1:30)	78
第66図	19・20・22号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (1) (S = 1:3)	78
第67図	19・20・22号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (2) (S - 1:3)	79
第68図	19・20・22号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (3) (S = 1:3, 1:6)	80
第69図	SX-02山土遺物実測図 (S = 1:2)	81
第70図	19号横穴墓閉塞石・玄室内遺物出土状況・出土遺物実測図 (S = 1:30, 1:2)	82
第71図	20号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1:3, 1:2, 1:4)	84
第72図	20号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S - 1:30)	85~86
第73図	22号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S = 1:30)	89~90
第74図	22号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1:3, 1:6)	91
第75図	後背埴丘地形測量図 (S = 1:200)	92
第76図	後背埴丘 (1) 土層断面図 (S - 1:80)	93
第77図	後背埴丘 (2) 北側溝上層断面図 (S = 1:60)	94
第78図	後背埴丘 (1) 北側溝遺物出土状況実測図 (S = 1:30)	95
第79図	後背埴丘 (1) 北側溝出土遺物実測図 (S - 1:6)	95
第80図	後背埴丘 (2) 土層断面図 (S = 1:60)	96
第81図	後背埴丘 (1) 岬辺山土遺物実測図 (S - 1:3)	97
第82図	後背埴丘 (2) 岬辺出土遺物実測図 (S = 1:3)	97
第83図	甕接合関係図 (S - 1:300)	98
第84図	甕実測図 (1) (S = 1:8)	99
第85図	甕実測図 (2) (S = 1:8)	100
第86図	1号埴測量図 (S = 1:60)	101
第87図	1号埴土層断面図 (S - 1:60)	102
第88図	1号埴主体部遺物出土状況実測図 (S = 1:30)	102
第89図	1号埴出土遺物実測図 (S = 1:3, 1:6)	103
第90図	SX-01実測図 (S = 1:40)	103
第91図	SX-01出土遺物実測図 (S = 1:3)	103
第92図	SD-01実測図 (S - 1:60)	104
第93図	邊構に伴わない出土遺物実測図 (S = 1:1)	104
藤沢砦跡		
第1図	藤沢砦跡全体図 (S - 1:300)	127
第2図	上層断面図 (S = 1:80)	128
第3図	SK-01実測図 (S - 1:80)	129
第4図	出土遺物実測図 (S = 1:3, 1:1)	129

## 表 目 次

### 菅田横穴墓群

第1表	菅田横穴墓群一覧表	115
第2表	菅田横穴墓群出土遺物一覧表	116~117

## 図版目次

### 菅田横穴墓群

- 図版 1 菅田横穴墓群測量前東側斜面(南東より)  
　　縦貫前面側斜面(南より)  
　　1号横穴墓側面  
　　1号横穴墓玄室内前壁の割り込み・完掘状況
- 図版 2 1号横穴墓玄室内遺物出土状況  
　　1号横穴墓玄室内前壁の割り込み・完掘状況
- 図版 3 2号横穴墓玄門部・玄室内遺物出土状況
- 図版 4 2号横穴墓玄室内完掘状況・右側天井部ノミ展  
　　1・2号横穴墓全景(東より)
- 図版 5 3号横穴墓前面土削断面(南東より)  
　　3・5・6号横穴墓土削断面(北東より)  
　　3号横穴墓側面石塗出状況(東より)
- 図版 6 3号横穴墓玄室内遺物出土状況・後道から玄室  
　　3号横穴墓玄室内完掘状況
- 図版 7 5号横穴墓側面石・右側出状況・玄門部
- 図版 8 5号横穴墓玄室内・石床・玄室内完掘状況
- 図版 9 4号横穴墓完掘状況  
　　6号横穴墓前面石塗出状況・玄門部
- 図版10 6号横穴墓玄室内遺物出土状況・完掘状況  
　　7号横穴墓完掘状況
- 図版11 3～7号横穴墓全景(東より)  
現地指導会
- 図版12 8号横穴墓玄門部・玄室内  
　　9号横穴墓玄門部
- 図版13 9号横穴墓玄室内遺物出土状況・前壁の割り込み  
　　10号横穴墓玄室内遺物出土状況
- 図版14 11号横穴墓玄室内遺物出土状況  
　　10・11号横穴墓全景(東より)・12号横穴墓全景(東より)
- 図版15 13号横穴墓上面断面(南東より)・墓道閉塞石塗出状況  
　　13号横穴墓玄室内遺物出土状況
- 図版16 14号横穴墓玄室内遺物出土状況・玄門部  
　　14号横穴墓玄室内完掘状況
- 図版17 15号横穴墓上面断面・閉塞石塗出状況  
　　15号横穴墓玄室内遺物出土状況
- 図版18 16号横穴墓前面石塗出状況(南より)  
　　16号横穴墓玄道から玄門部・閉塞石塗出状況  
　　16号横穴墓玄室内右側横断面状況・復原した右側
- 図版19 16号横穴墓玄室内完掘状況
- 図版20 17号横穴墓完掘状況  
　　18号横穴墓玄門部・玄室内遺物出土状況
- 図版21 18号横穴墓玄室内完掘状況(西より)  
　　21号横穴墓玄室内遺物出土状況(南より)  
　　21号横穴墓玄室内完掘状況(北より)
- 図版22 19・20・22号横穴墓全景(南西より)・上層断面(北東より)  
　　19・20・22号横穴墓前面石塗出状況(北西より)
- 図版23 19号横穴墓玄室内右側横断面状況  
　　20号横穴墓閉塞石塗出状況
- 図版24 20号横穴墓大刀出土状況・玄室内遺物出土状況
- 図版25 22号横穴墓閉塞石塗出状況・玄門部  
　　22号横穴墓玄室内遺物出土状況
- 図版26 16号横穴墓から後背埴丘(1)(南より)  
　　後背埴丘(1)東西土層断面(北西より)
- 図版27 22号横穴墓(1)北側溝道物出土状況(北西より)  
　　後背埴丘(1)完掘状況(南西より)  
　　後背埴丘(2)北側溝土層断面遺物出土状況(東より)  
　　後背埴丘(2)全景(北東より)
- 図版28 1号埴遺物出土状況・主体部完掘状況(南より)

- 図版29 1号埴完掘状況(南西より)  
　　SX-01遺物出土状況(南より)  
　　SD-01完掘状況(北東より)
- 図版30 1号横穴墓出土遺物
- 図版31 1号横穴墓出土遺物
- 図版32 1号横穴墓前面部出土遺物  
　　2号横穴墓道出土遺物
- 図版33 2号横穴墓道出土遺物  
　　2号横穴墓出土遺物
- 図版34 2号横穴墓出土遺物
- 図版35 2号横穴墓出土遺物
- 図版36 3号横穴墓出土遺物
- 図版37 4～6号横穴墓出土遺物
- 図版38 6号横穴墓出土遺物
- 5・6号横穴墓埋土・堆積土出土遺物
- 図版39 5・6号横穴墓埋土・堆積土出土遺物
- 8号横穴墓出土遺物
- 図版40 9号横穴墓出土遺物
- 図版41 9号横穴墓出土遺物
- 図版42 9号横穴墓出土遺物・墓道出土遺物
- 10号横穴墓出土遺物
- 図版43 11～14号横穴墓出土遺物
- 図版44 14号横穴墓出土遺物
- 図版45 14号横穴墓出土遺物
- 15号横穴墓出土遺物
- 図版46 15号横穴墓出土遺物
- 図版47 15号横穴墓出土遺物
- 16号横穴墓前面部出土遺物
- 図版48 16号横穴墓前面部出土遺物
- 図版49 16号横穴墓前面部出土遺物
- 図版50 16号横穴墓出土遺物
- 18号横穴墓出土遺物
- 図版51 18号横穴墓出土遺物
- 図版52 21号横穴墓出土遺物
- 19・20・22号横穴墓前面部出土遺物
- 図版53 19・20・22号横穴墓前面部出土遺物  
　　19号横穴墓出土遺物
- SX-02出土遺物
- 図版54 20号横穴墓出土遺物
- 22号横穴墓出土遺物
- 図版55 22号横穴墓出土遺物
- 後背埴丘(1)北側溝出土遺物・周辺出土遺物
- 図版56 22号横穴墓出土遺物
- 後背埴丘(2)周辺出土遺物
- 横穴墓群出土堆
- 図版57 横穴墓群出土堆
- 図版58 1号埴出土遺物
- SX-01出土遺物
- 遺構外出土遺物

### 鷹沢砦跡

- 図版1 鷹沢砦跡調査前全景(北西より)  
　　SK-01完掘状況(南東より)  
　　調査後全景(東より)
- 図版2 出土遺物

## 第1章 調査に至る経緯

島根県では、地方産業の高度化、創造的展開を支援するために産業支援機関、企業の研究開発部門、産業支援サービス業等を集積した拠点づくりを計画し、島根大学工科系学部との連携も考慮して島根大学の北側丘陵約87haを「ソフトビジネスパーク」として整備することとし、平成13年に完成した。

一方松江市では、ソフトビジネスパークと市街地とのアクセスを確保することによって企業の進出を促すために進入路の整備を計画した。その後埋蔵文化財の有無について照会があり、平成13年2月15日付け松土開公第172号で松江市教育委員会あてに埋蔵文化財分布調査依頼書が提出された。

これを受け平成13年6月26日及び平成14年2月26日に区域内の踏査を行い、横穴墓推定地や古墳推定地などの要試掘箇所が合計5箇所発見された。その後試掘調査を平成15年1月9日～1月31日にかけて行い、その結果丘陵部斜面で横穴墓2穴、尾根筋上で遺物散布地1箇所、山城関連の跡跡1例所が確認され、それぞれ「菅田横穴墓群」「菅田遺跡」「西沢砦跡」と命名された。

これらの遺跡の取り扱いについて松江市都市建設部管理課と協議を行った結果、ルート変更による遺跡の現状保存は困難であるとの結論に至り、全面発掘調査を実施することとなった。発掘調査は平成15年4月7日～平成15年12月19日まで実施した。平成16年の造成工事において横穴墓が2穴発見され、平成16年7月26日～8月26日まで緊急調査を行った。



第2図 遺跡位置図 (S = 1 : 25000)

## 第2章 遺跡の位置と歴史的環境

菅田横穴墓群は松江市菅田町に所在し、標高28mの小高い丘陵に位置する。南側には県道が通り、周辺には住宅が多い。西沢古墳は松江市法吉町に所在する。山の尾根上に位置し、標高46.30mを測る。北側には北山山地が広がっている。本遺跡周辺にも横穴や古墳などの遺跡が存在するが、本遺跡よりやや離れた東側には金崎古墳群や島根大学構内遺跡、西川津遺跡などの遺跡が多く存在している。

旧石器時代の遺跡は今のところ知られていない。しかし、西川津遺跡やタテチョウ遺跡において、尖頭器や細石核を考えられる石器が出土しており、付近に旧石器時代の遺跡が存在していた可能性も考えられる。

縄文時代の遺跡としては西川津遺跡、タテチョウ遺跡、島根大学構内遺跡、金崎遺跡、城ノ越遺跡がある。金崎遺跡の深鉢土器、西川津遺跡の縄文早割末の織錐土器、島根大学構内遺跡の縄文早期末から前中期の遺物包含層から出土した丸木舟などがあるが、他にも多くの縄文土器が出土しており、縄文時代の生活を知る上で貴重な遺跡と考えられる。

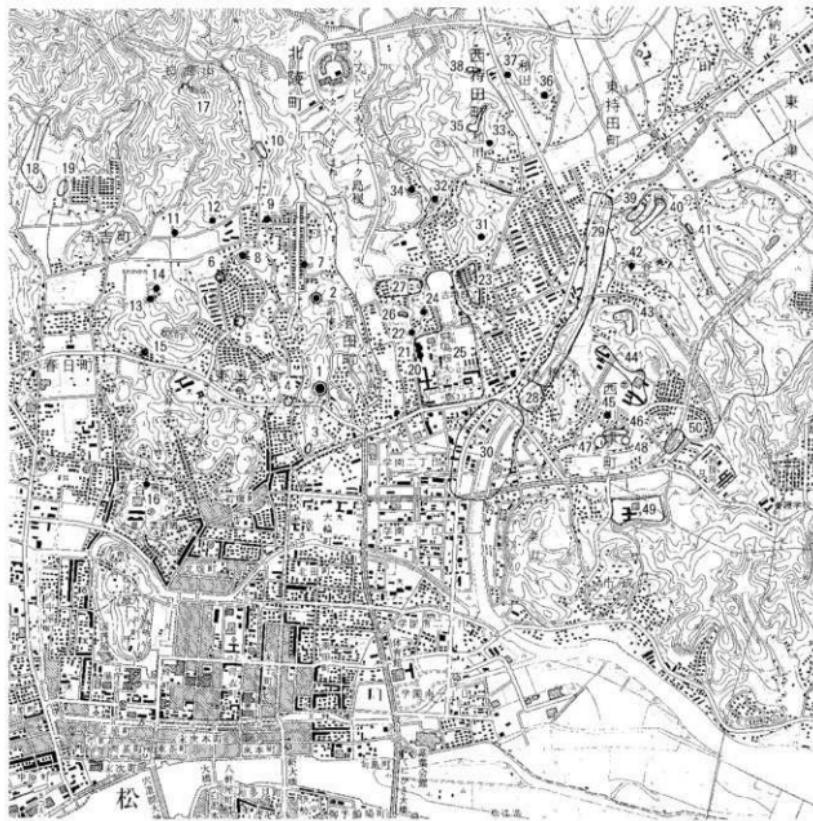
弥生時代の遺跡としてはタテチョウ遺跡、西川津遺跡、貝崎遺跡が知られている。タテチョウ遺跡、西川津遺跡からは多量の七器や木製品、石製品が出土している。瀬戸内型甕や古備系の土器が出土し、他地方との交流が行われていたと推測される。人面付土器は胎土や焼成状況から弥生時代前期の遺物と考えられている。

古墳時代の中期になると古墳が多く造られるようになり、西川津周辺では多くの古墳が確認されている。2基の前方後方墳と9基の方墳を有し、仿製内行花文鏡が出土した金崎古墳群、仿製四乳鏡が出土した菜師山古墳、割竹形木棺を複数埋めた山崎古墳など多くの古墳が確認され、有力な首長の存在を物語っている。住居跡としては堤廻遺跡や柴遺跡が確認されている。古墳時代後期になると、大型の古墳が造られなくなり、各地で小規模な古墳造られるようになる。その後横穴墓も多く築造されるようになる。本遺跡周辺にも赤崎切通横穴墓群、ひのさん山横穴群、桜崎横穴などが確認されている。また北側には深澤横穴が所在し、朝鈴川周辺の古墳群の西から北側にかけて横穴墓が点在している。ひのさん山横穴群は松江市奥谷町に所在し、20穴が確認されている。人骨、須恵器、刀子、大刀など多くの遺物が出土している。赤崎切通横穴墓群のなかには石棺を有する横穴も確認されている。

奈良時代以降の遺跡は数が少ない。原の前遺跡からは奈良、平安時代の河道が検出され土器や木製品が出土している。室町時代の遺跡としては茶罈跡が8ヶ所検出された二反田古墳、朝鈴川左岸の丘陵にあり、2基の古墳とくわらけや焼成骨が出土した馬込山古墳群が確認されている。北山山地にある白鹿城は毛利氏と尼子氏の激戦の山城として知られている。

### 参考文献

- (1)『山陰古墳文化研究』山木清(昭和46年)
- (2)島根県土木部河川課、島根県教育委員会『西川津遺跡VII』(2001年)
- (3)島根大学埋蔵文化財調査研究センター『島根大学構内遺跡(横錐手地区)発掘調査概要』(1994年度)
- (4)島根大学考古学研究会『菅田考古』第11号(1969年)
- (5)松江市教育委員会『山崎古墳』(1984年)
- (6)島根県教育委員会『馬込山古墳群』『島根県埋蔵文化財調査報告書』第Ⅲ集(昭和46年)
- (7)松江市教育委員会『二反田古墳』(1987年)



第3図 周辺の遺跡 (S = 1 : 25000)

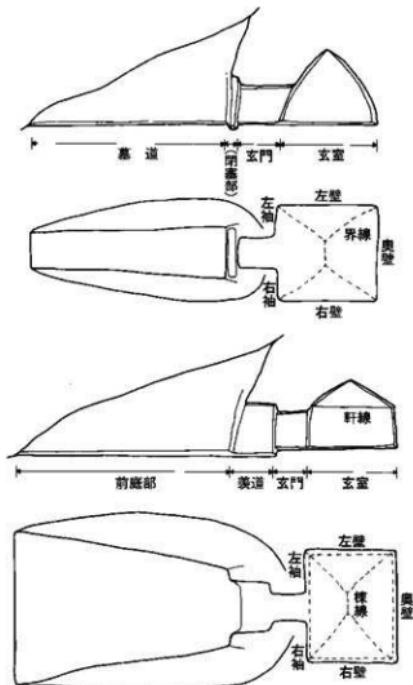
- |             |             |            |           |
|-------------|-------------|------------|-----------|
| 1 菅田横穴墓群    | 14 楢元横穴     | 27 上浜弓占墳群  | 40 貝崎古墳群  |
| 2 鷺沢岩跡      | 15 煙硝倉古墳    | 28 原の前遺跡   | 41 日崎B遺跡  |
| 3 赤崎切通横穴墓群  | 16 赤山横穴群    | 29 西川津遺跡   | 42 古屋敷古墳  |
| 4 桜崎横穴      | 17 白鹿城跡     | 30 タテチョウ遺跡 | 43 大内谷古墳群 |
| 5 ひのさん山横穴群  | 18 田中谷遺跡    | 31 福山古墳群   | 44 馬込山古墳群 |
| 6 折越古墳群     | 19 下がり松遺跡   | 32 深町古墳群   | 45 山崎古墳群  |
| 7 松ヶ峰古墳     | 20 美跡山古墳    | 33 宮ノ前遺跡   | 46 柴占古墳群  |
| 8 岡田菜跡古墳    | 21 芦田ヶ丘古墳   | 34 深町横穴    | 47 柴II遺跡  |
| 9 二反田古墓     | 22 菅田小丸山古墳  | 35 宮原古墳群   | 48 柴III遺跡 |
| 10 白鹿谷遺跡    | 23 金崎古墳群    | 36 人跡古墳    | 49 堀廻遺跡   |
| 11 長谷成徳神古墳  | 24 宮田古墳群    | 37 尾山横穴群   | 50 柴遺跡    |
| 12 なつめ谷荒神古墳 | 25 烏根大學構内遺跡 | 38 国石古墳群   |           |
| 13 楢元古墳     | 26 浜弓古墳群    | 39 貝崎A遺跡   |           |

### 第3章 調査の概要

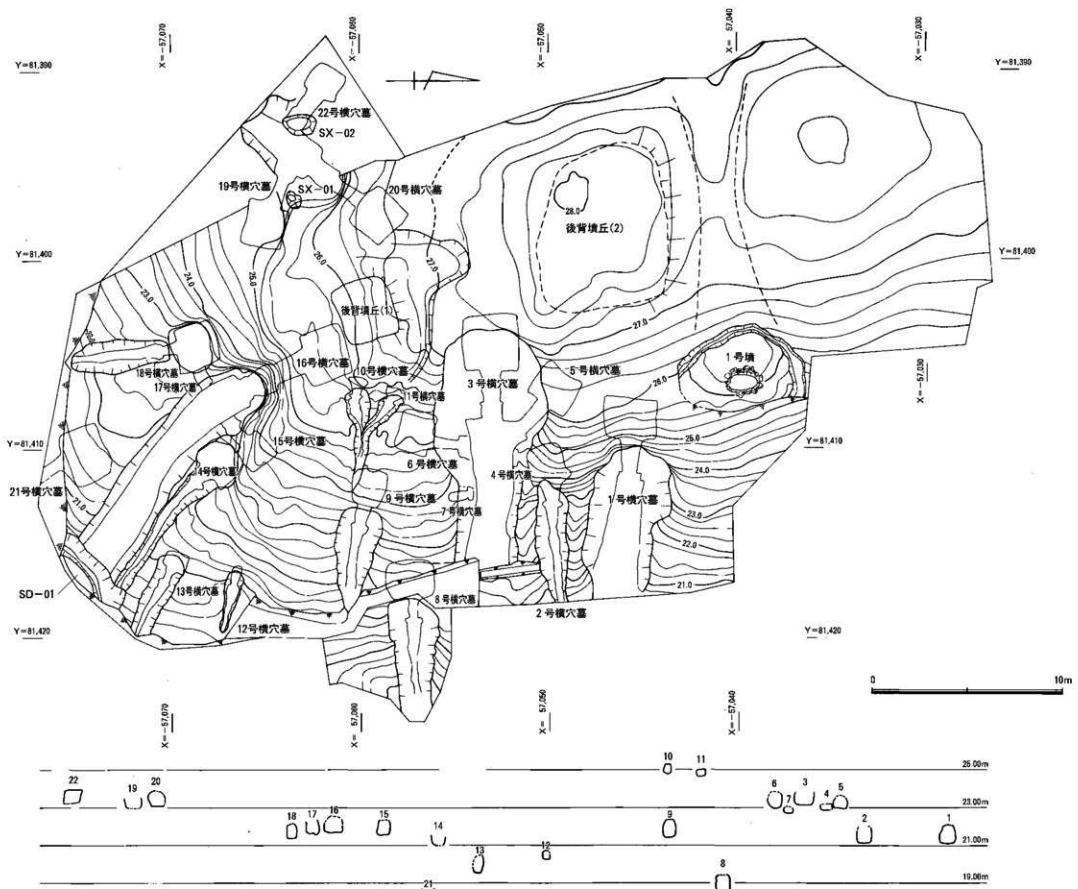
菅田横穴墓群は松江市菅田町に所在し、標高28mの小高い丘陵に位置する。平成15年1月の試掘調査によって、斜面に横穴墓2基、尾根上に遺物散布地が確認された。同年5月から重機と人力により表土掘削を行い、試掘の際に横穴が発見された箇所から調査に着手した。調査が進むにつれ、東側から南側の斜面にかけて18基の横穴墓が次々と発見され、また西側斜面の調査区境からは2基の横穴墓が検出され、横穴墓は全部で20基となった。また尾根上には小高い高まりが3ヶ所確認され、北側からA区、B区、C区とした。それぞれ千鳥状にトレンチを入れ、土層観察を行った結果、尾根上のB、C区には盛土が確認され、古墳である可能性が考えられたが、A区は自然地形であると判断した。調査は8ヶ月間を要し、平成15年12月に一旦終了した。

ところが、平成16年7月、造成工事中に排土置き場にしていた南側斜面から1基の横穴墓が開口し、急遽調査を行うことになった。また工事範囲が西側に拡張された為、立会調査を行ったところ、西側斜面からも1基発見され、横穴墓は全部で22基となった。同年8月26日をもってすべての調査を終了した。

齒沢跡は平成15年4月から5月にかけて調査を行った。跡としての明瞭な遺構や遺物は発見できなかったが、周辺の地形、位置的環境から跡の可能性が考えられた。



第4図 横穴墓模式図と各部名称



第5図 菅田横穴墓群地形測量図・遺構配置図 (S = 1 : 200)

# 菅田横穴墓群

## (1) 横穴墓

### 1号横穴墓（第7図）

1号横穴墓は試掘調査時に確認された横穴墓である。横穴墓群の最も北側の東側斜面に位置し、N-94°-Eに開口している。

**前庭部** 地山面を削り込んで広い前庭部を作り出している。閉塞部から前方に向かって「ハ」の字状に開く平面形を呈し、規模は長さ7.0m、幅は閉塞部側で1.58m、前端側で2.6mを測る。閉塞部から前方に向かって緩やかに傾斜している。前庭部前端付近の床面には炭が多量に入った深さ5cm程度の不整形な窪みが確認されたが、土器や焼土は含まれていない。

**玄門** 規模は奥行き1.80m、幅0.9~1.1m、高さ0.9~1.0mを測る。床面は玄室側に向かって緩やかに傾斜し、玄室側がやや高くなっている。天井の一部に崩落がみられるが、断面形態は釣鐘状を呈する。

**玄室** 奥行き2.44m、奥幅2.80m、袖側2.47m、天井部の最も高い所で1.67mを測る。四隅の床面からは界線が立ち上がり棟線へと続く。軒線も観察され、玄室形態はテント系家形である。床面はやや横広の長方形を呈し、四周と中央を縦断するように溝が掘られている。溝の幅は5~15cm、深さ5cmを測る。中央の溝は中軸線よりやや右壁側に掘られている。

右側床面の袖側から4個、奥壁側から5個の自然礫が検出された。これらの石はやや動いている感もあるが、棺台として用いられていたと推測される。

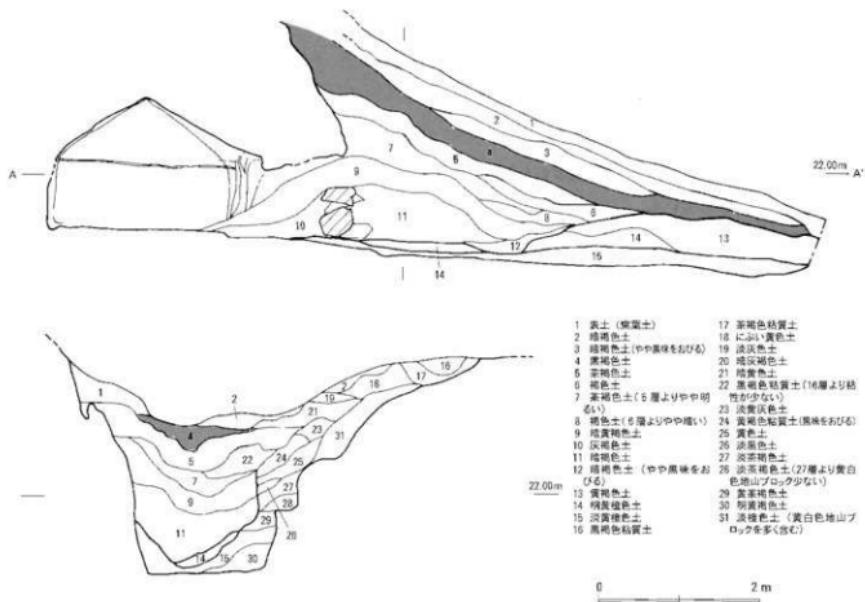
玄室の前壁側には閉塞部に見られるような割り込みが確認された。玄門と袖壁の境に平坦面を作り、アーチ状の割り込みが設けられているが用途は不明である。

**堆積状況（第6図）** 15、23~30層は初葬時の埋土と考えられる。横断上層の切り合いから、15層上面が2次葬面と考えられ、前庭の15層上面からは遺物が出土している。13、14層は2次葬時の埋土で、縦断上層の切り合いから13、14層上面が侵入面と考えられ、3次葬面と推測される。閉塞石は14層上面に置かれ、3次葬時の所産と考えられる。12層はその時の搔き出し土であろう。

**閉塞状況（第8図）** 玄門入口に自然礫を積んで閉塞している。礫は40~60cm大を測り、床面から70cm程上まで積まれ、天井との間には土砂が埋められている。玄門前面の両側壁には割り込みが施されていた。初葬時には木蓋などの板材で閉塞し、最終侵入時に石で閉塞したと考えられる。

**遺物の出土状況（第8図）** 玄門、玄室内からは須恵器14点（1~7、9~15）、畿内系土師器の壺1点（8）が出上している。玄室内の出土遺物は中央付近に多く、左右の壁側からは出土していない。遺物はすべて床面直上である。遺物には時期差がみられ、最終侵入時に床面を精査しそれまでにあった遺物も一緒に置いたと推測される。長頸壺（14）は焼き壺でおり、2、3片に割れた状態で出土している。畿内系土師器の壺（8）は奥壁側中央の溝上から出土した。

前庭部15層上面からは高台付壺が出土しており、2次葬面に伴う遺物と思われる。28層の内側（侵入面側）からは、高壺と擬宝珠つまみの蓋が伏せた状態で並んで出土しており、祭祀に伴う遺物と考えられる。玄門前の9層埋土中からは広口壺が出土しており、最終閉塞時に土砂を埋め戻す際に一緒に埋められたと推測される。

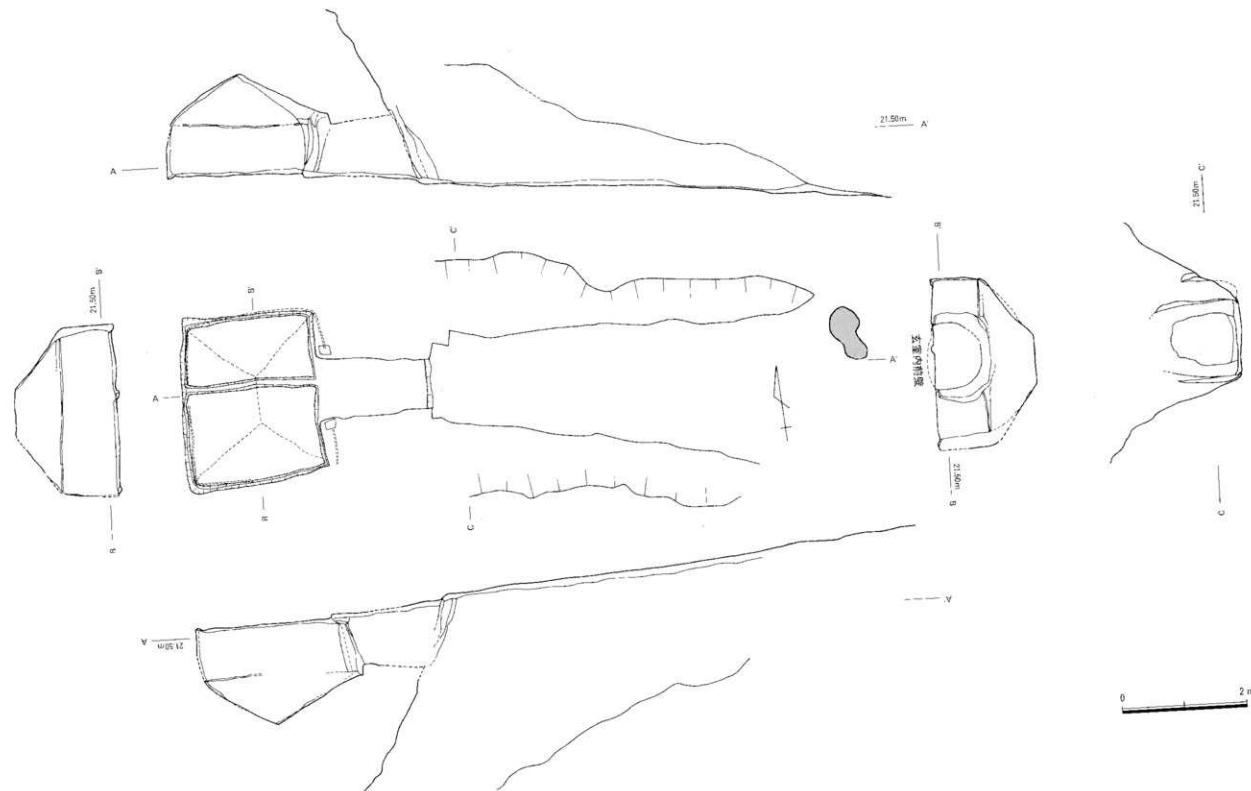


第6図 1号横穴墓土層断面図 (S = 1 : 60)

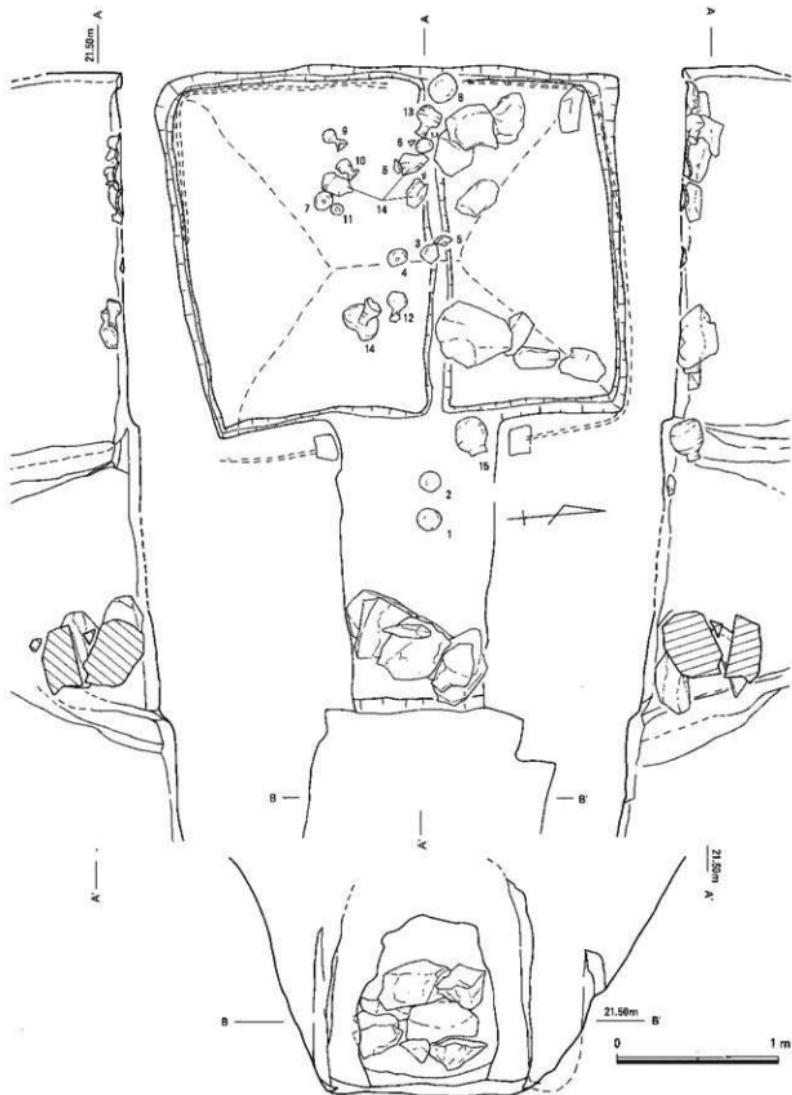
前庭出土遺物（第10図） 1、5は堆積上層から出土した遺物である。1は壺身で口径10.0cm、器高3.2cmを測る。5は器高21.2cm、口径8.5cmの提瓶である。把手は瘤状で胴部は丸く、外側は平行叩き後、カキ目を施す。2の高台付环は口径12.3cm、器高4.1cmを測る。高台は低く、体部はやや直線的に立ち上がり、底部はヘラ切りである。3は内側にかえりのある擬宝珠つまみの蓋で、口径11.9cmを測る。6は閉塞部近くの埋土から出土した短頸壺で、底部にはヘラ記号が確認される。

玄門・玄室内出土遺物（第9図） 1、2、15は玄門から出土した遺物で、1、2は口径10cm前後の壺身、15は器高24.0cmを測る直口壺である。4～7はつまみを有する壺蓋で口径8～9cmを割り、口縁の内側にかえりをもつ。10、11は器である。10は頸部と体部に1条の沈線を廻らせ、底部はやや丸く回転ヘラ削りを施す。11は頸部と体部の境が不明瞭で体部に1条の沈線を施す。13、14、15は長頸壺で口頸部はやや内湾しながら直立していく直口のもので、頸部に1条ないし2条の沈線がみられる。9は畿内系土師器の壺で口径17.3cm、器高4.8cmを測る。淡黄色で内面には2段の放射状暗文と半円状の暗文が、外側にも不定方向の暗文が施されている。これは飛鳥3～4期の様相を呈し、出雲6期末～7期に相当すると思われる。

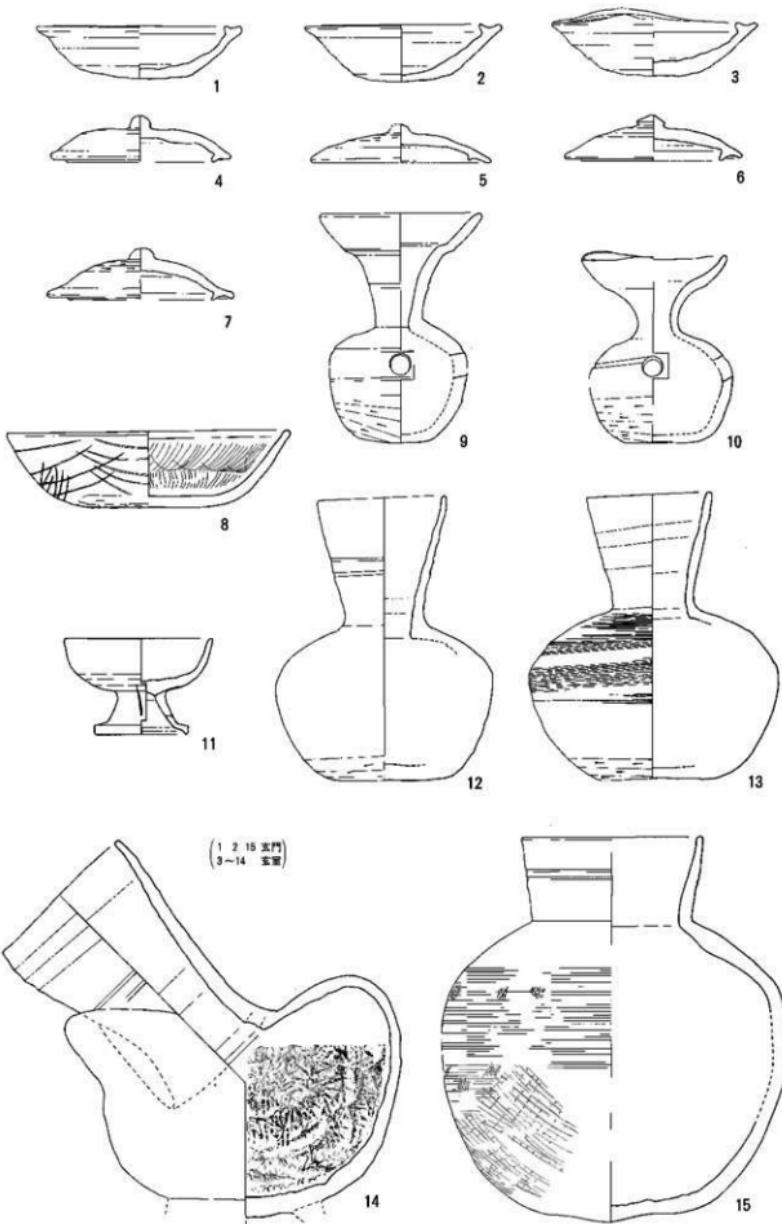
時期 上層観察の結果3回の埋葬が行なわれたと考えられる。玄室の遺物は出雲6b・c期と6d期に相当すると考えられる。2次葬面、最終侵入面（3次葬面）からは出雲6d期の遺物が出土しており、1号横穴墓は初葬から最終閉塞まで6期のうちに終了したと推測される。



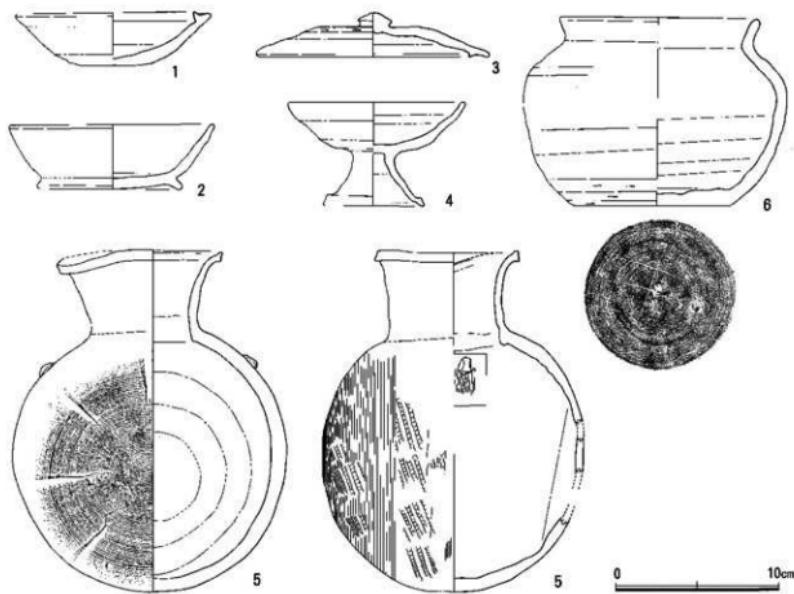
第7図 1号横穴墓実測図 ( $S = 1 : 60$ )



第8図 1号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 ( $S = 1 : 30$ )



第9図 1号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3$ )



第10図 1号横穴墓前庭部出土遺物実測図 (S = 1 : 3)

## 2号横穴墓（第11図）

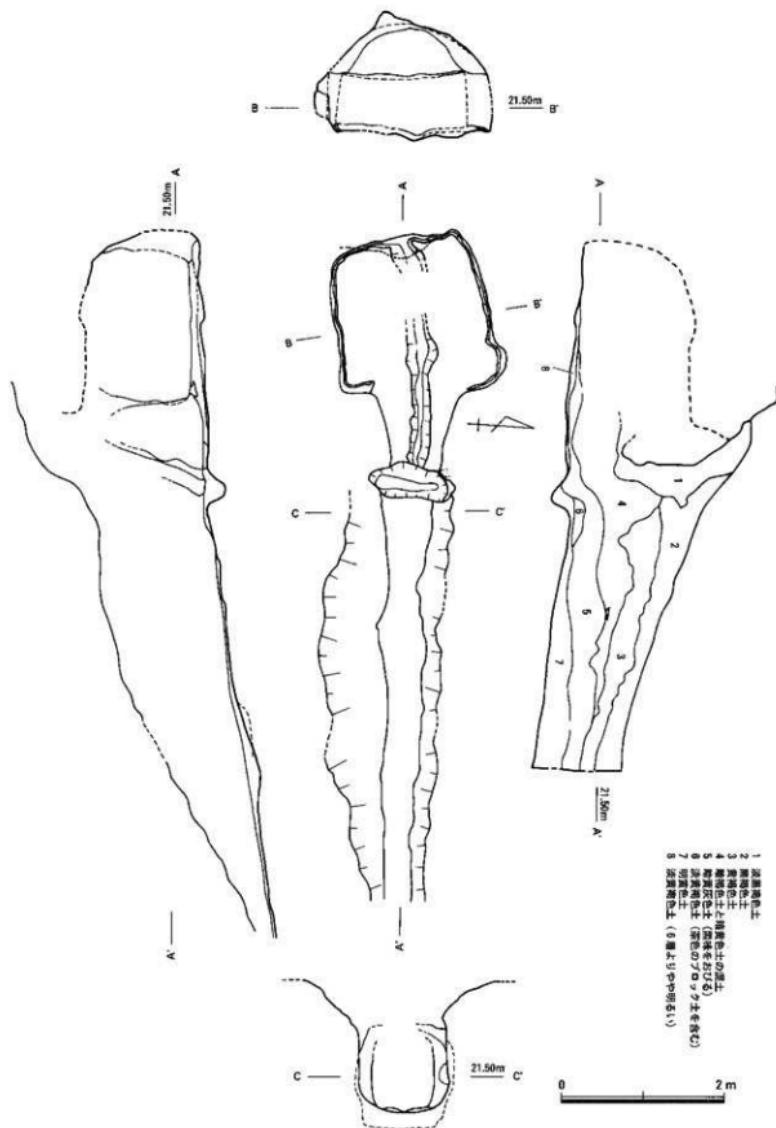
丘陵の東側斜面、1号横穴墓の南隣に位置し、玄室床面の標高は約21mを測る。

**墓道** 幅は閉塞部側0.63m、前端側0.34m、長さ1.9mを測り、平面的には狭長な墓道である。横断面はU字状で、床面は前端側に向かって傾斜している。

**玄門** 床面幅は玄門入口で0.63m、玄室側で1.10mを測り、玄室側に向かって広くなっている。天井部は崩落しており、断面形態、高さは不明である。床面には玄室から続く幅25cmの浅い溝が認められる。玄門前面には30~40cmの幅で閉塞用の削り込みが設けられ、閉塞材を安定させる為の幅40cm、深さ20cmの溝が掘り込まれている。玄門上部や右側の削り込みには小動物の穴が認められる。

**玄室** 規模は奥行き2.02m、幅1.88m、高さ1.37mを測り、平面形はやや縦長の長方形を呈する。主軸をN~80°~Eにとり、奥壁側が玄門側より南に掘られている。横際には幅7cm、深さ3~4cm程度の溝が走る。床面中央には玄門に続く溝が掘られているが、一部崩壊している。横面と天井には部分的に棟線と軒線が確認され、アーチ系切妻家形と推測される。右側天井部には表面調整のノミ痕が明瞭に観察される。玄室内壁面にも動物穴があり、軒線辺りまで爪跡が確認された。床面が凸凹しているのは動物による搅乱の可能性も考えられる。

**土層堆積状況** 7層は初葬時の埋土と考えられる。7層上面からは遺物が出土しており2次葬面と推測される。5、6層は2次葬時の搔き出し土および埋土で、5層上面からも遺物が出土している。3、4層は暗褐色土と暗黄色土の混合土で、埋め戻し土と思われる。

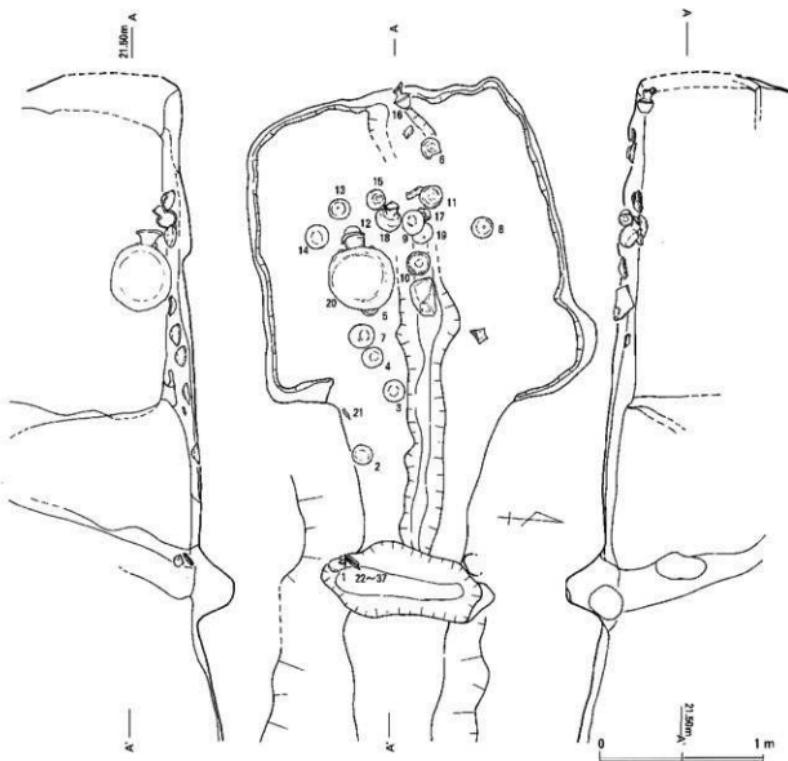


第11図 2号横穴墓実測図 (S-1 : 60)

**遺物出土状況（第12図）** 墓道の7層上面からは、土師器の壺、蓋坏が出土した。1、2の蓋坏は7層上面の墓道の東端に伏せた状態で置かれ、同じ土層の墓道中央からは上器器の壺が出土している。5層上面からは高台付坏、長頸壺、土師器の坏が出土した。長頸壺は頸部と胴部を別々にした状態で並べて置かれていた。

玄門左側壁の削り込みの5層上面、玄室入口左袖側から鉄錠（21～37）が出土している。玄室内の遺物は主に中央付近から出土しており、四隅には遺物の存在しない空間が存在する。玄室内からは蓋坏14点（2～14）、高台付坏1点（15）、提瓶2点（19、20）、疊2点（16、17）、壺類2点（1、18）が出土した。遺物は8層上面から出土している。大型提瓶が口縁部を奥壁側にして置かれていた。

**墓道出土遺物（第13図）** 1～3は蓋坏で、1の坏蓋は口径12.8cm、器高3.8cmを測る。天井部外向に回転ヘラ削り、肩部に2条の浅い沈線を施す。5、6は高台付坏で底部に低い高台を有し、体部はやや直線的に口縁と続く。底部外面はヘラ切りである。9の長頸壺は器高21.5cm、9.5cmを測る。口縁は直立しやや内湾するが、一部外反し注ぎ口のようになっている。4、8は土師器で、8の坏は口



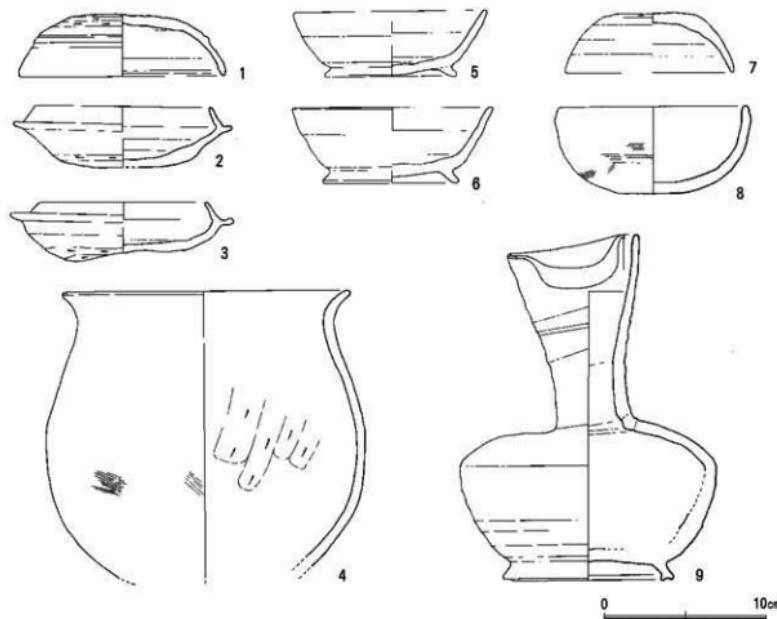
第12図 2号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)

径10cmを測り、内外面に僅かに赤色顔料が残る。

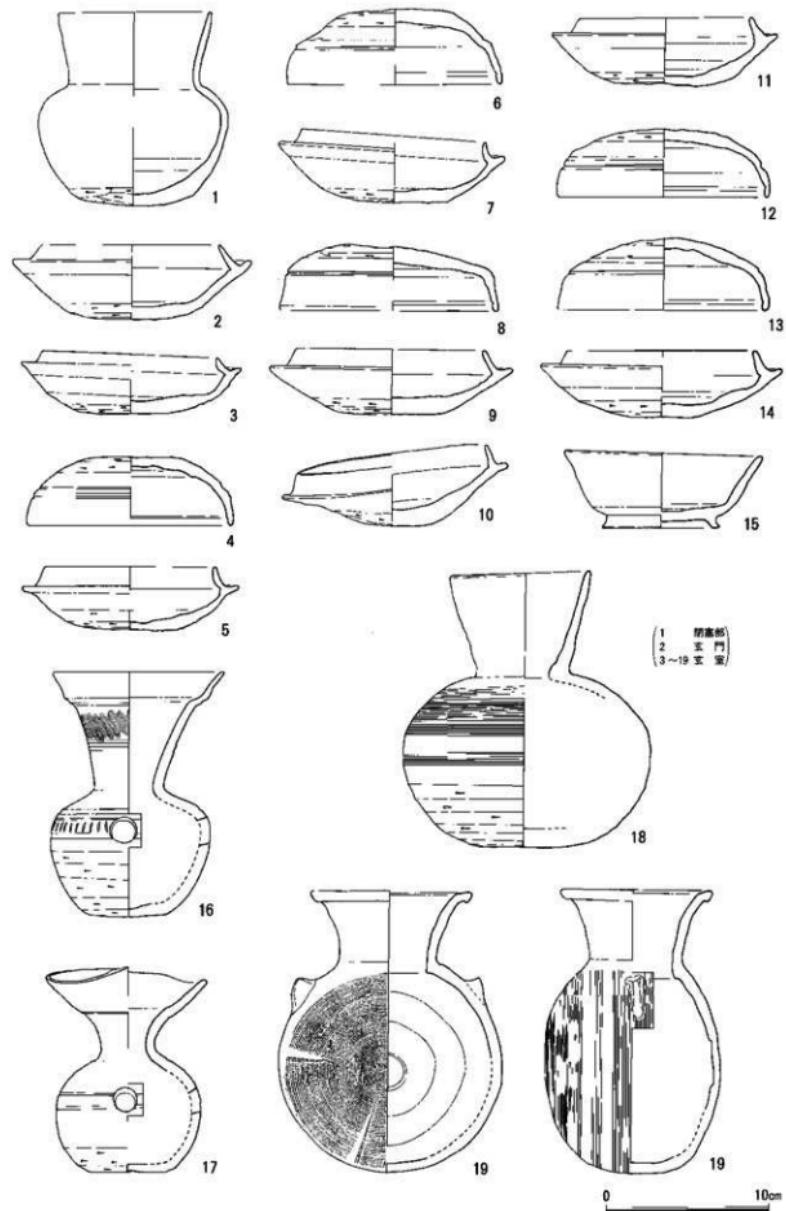
閉塞部～玄室内出土遺物（第14、15図） 21～37は鉄鎌である。21～23は長頭鎌で鎌身部は繫箭式、関部は無闇である。茎部には木質、樹皮が残存し、紐巻き痕も観察される。

2～14は蓋坏で、蓋坏は口径13cm前後を測る。天井部外面に回転ヘラ削りを施す。13だけは部分的に回転ヘラ削りを施し、時期差が認められる。15は高台付坏で底部外面にヘラ切り後ナデを施す。出雲6d期と思われる。16、17は處で16は口頸部に2条の沈線と波状文、体部に2条の沈線と刺突文を施し平底を呈する。17は頸部が短く、平底で文様が施されていない。16は出雲4期、17は出雲6期後半～7期に相当する。提瓶も2点出土している。19は器高17.6cmを測り、口縁は外反し、平坦面をつくる。把手は三角状で、内面には回転ナデ、外面には回転ヘラ削り後カキ目が施されている。20は大型の提瓶で器高45.6cm、最大径41.8cm、最大幅38cmを測る。胴部は片方が僅かに扁平で、環状の把手がついている。外面調査は背面が縱方向の平行タタキ、腹面が縦横両方向の平行タタキ後カキ目を施している。内面に押当具痕がみられる。胴部内面には他の提瓶のように製作時に粘土板で蓋をした跡がみられず、外側のタタキの跡も左右違う為、通常の提瓶とは違う方法で作られた可能性も考えられる。

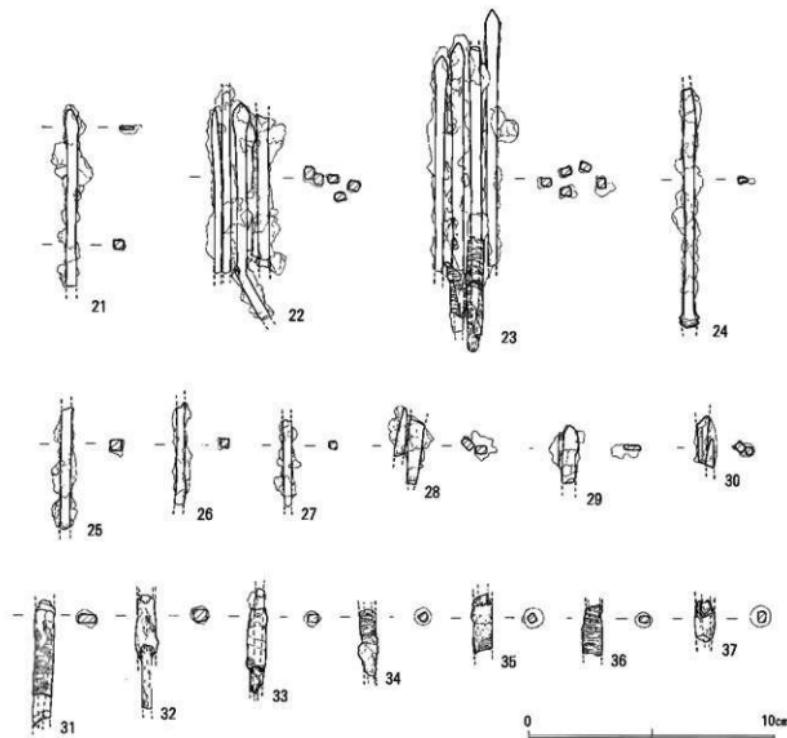
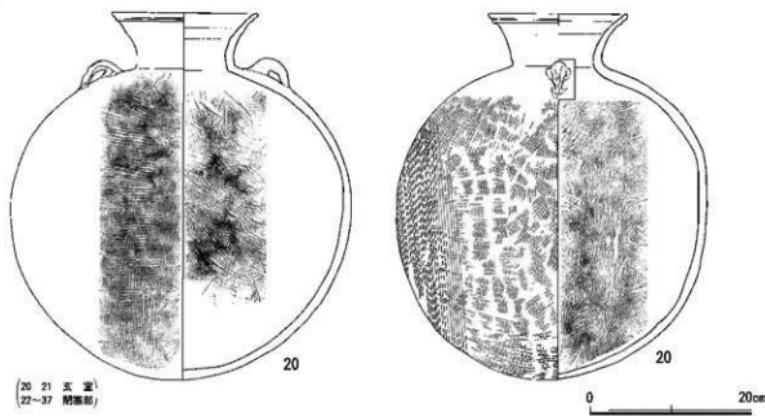
時期 玄室の遺物は出雲4期、出雲6期末～7期に相当する。また4期の遺物も2時期に分けられる。墓道の追葬面に伴う出土遺物も同時期と考えられ、土層観察と遺物の出土状況から出雲4期の早い段階に初葬、2次葬が為され、6期末から7期に最終埋葬が行われたと推測される。



第13図 2号横穴墓道出土遺物実測図 (S = 1 : 3)



第14図 2号横穴墓出土遺物実測図(1) (S = 1 : 3)



第15図 2号横穴墓出土遺物実測図(2) (S = 1 : 6, 1 : 2)

### 3～7号横穴墓全体の構造（第17図）

3～7号横穴墓は1つの前庭部を共有して5穴の横穴墓が開口する構造をしている。奥壁に1穴開口、他の4穴は両側壁にそれぞれ2穴ずつ開口している。奥壁の3号横穴墓に近い両側壁の5、6号横穴墓は通常の横穴墓と同様の規模であるが、前庭部前方両側壁の4、5号横穴墓は小形な横穴墓である。

試掘調査時に3号横穴墓は確認されており、1穴のみであると思い前庭部にトレンチを入れて調査を行った。調査が進むにつれ他の横穴墓が次々発見されたが、トレンチ掘削によって土層の重要な部分を失っており、堆積状況、切り合い関係について不明な点も多い。

**前庭部** 地山を削り広い前庭を造り出している。開窓部から前方に向かって「ハ」の字状に聞く平面形を呈し、規模は長さ7.2m、幅は奥壁側で2.5m、前端側で2.2mを測る。3号横穴墓から前庭端に向かって傾斜し、高低差は1.8mを測る。

**前庭部土層堆積状況（第16-1、4図）** 第16-1図から3、5号横穴墓の切り合い関係が明瞭に観察され、3号横穴墓の大井が崩落し、埋まつた後に5号横穴墓の埋葬が行われたと考えられる。36層から39層は3号横穴墓の前庭埋土で、4号横穴墓の埋土は38層であった。したがって4号横穴墓は3号横穴墓と一緒に存在した可能性が高い。

第16-4図観察すると6～9層は第16-1図土層断面の36～39層に対応するが、1～4層には対応しない。前庭部左側床面には掘削した痕跡がみられ、円弧状に窪んでいる。3号横穴墓の埋土を掘削して5、6号横穴墓の墓道を造った可能性が窺われる。

### 3号横穴墓（第17図）

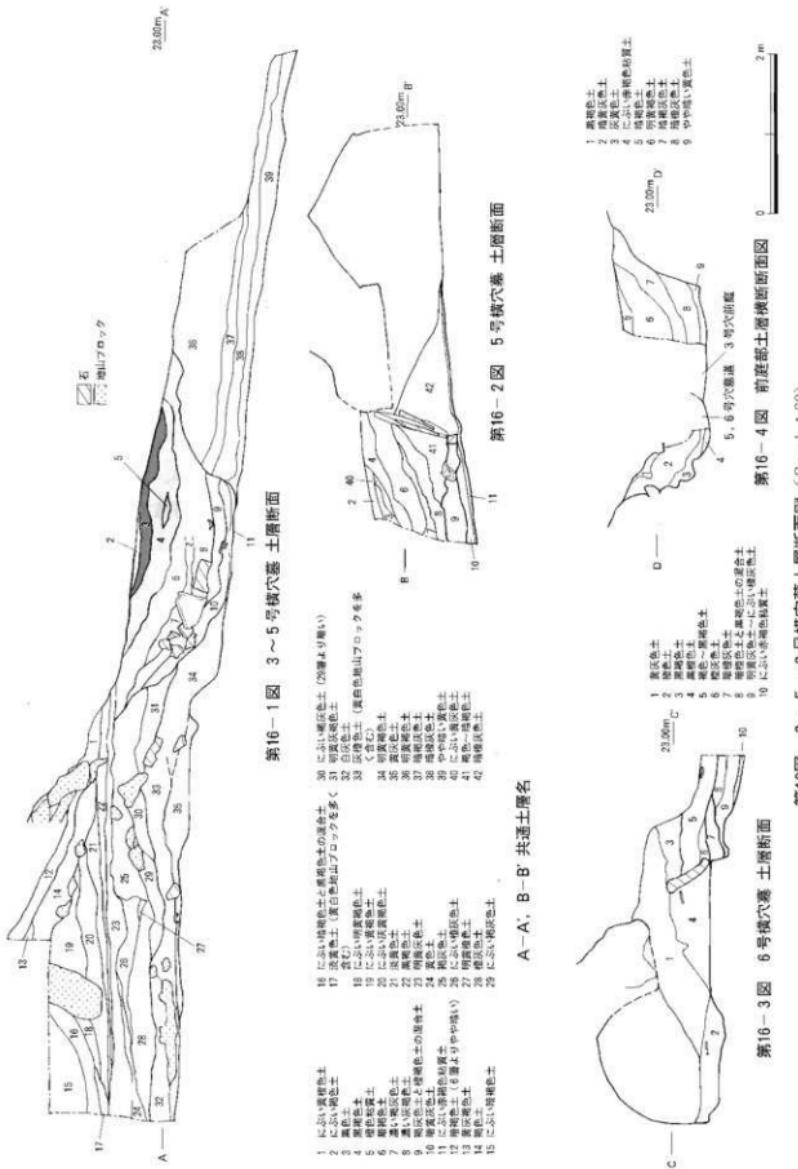
**羨道・玄門** 玄門の前方に羨道がつく石格式石室と同様の構造をもつ。羨道は前庭より30cm程高く、長さ0.5m、床面幅1.0mを測る。

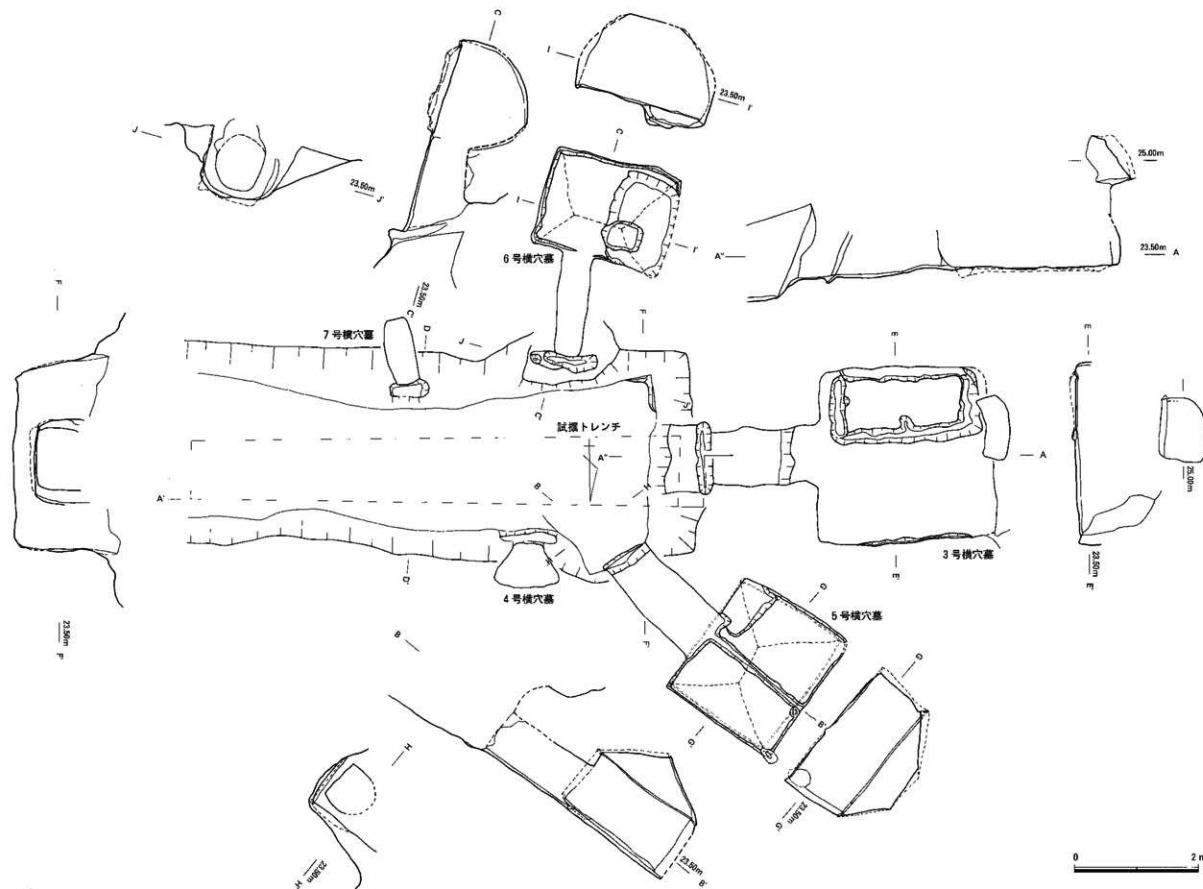
玄門は長さ1.8m、床面幅0.85mを測る。玄門途中に緩やかな段を造っている。羨道、玄門の天井は崩落していた為、高さ断面形態は不明である。

**玄室** 床面の規模は奥行き2.83m、幅2.70～2.80mを測り、ほぼ正方形の平面形を呈する。壁面から天井部にかけて崩落しており形態、規模とも不明であるが、僅かに残存する壁面は外傾気味に立ち上がり内傾し曲線を描くようでありドーム形の可能性が高い。

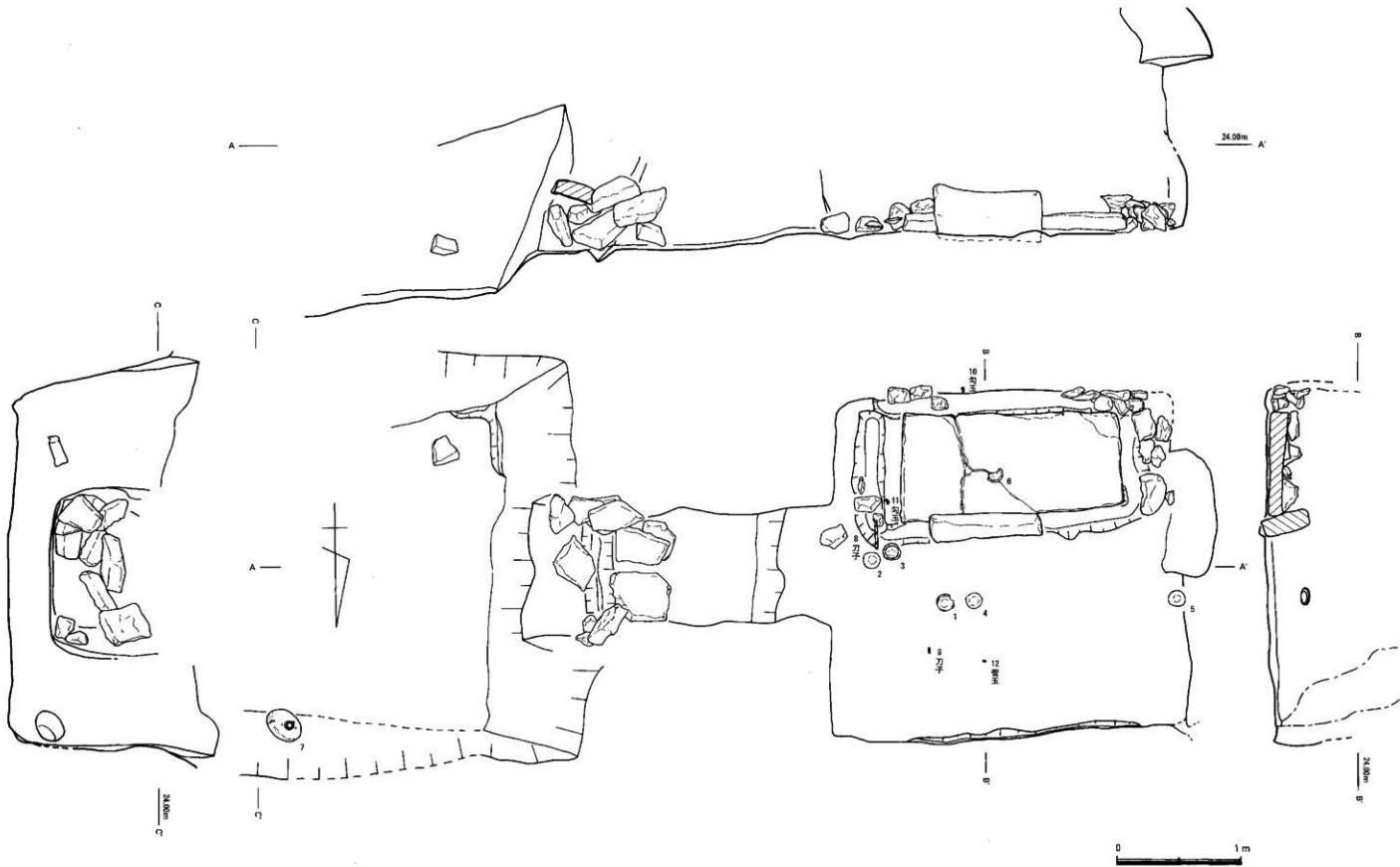
玄室内左壁に平行して床石と長手側の切石を検出した。床石は3個に割れていたが、本末は1枚の切石であったと考えられる。長手側の石は床石の手前に1枚立てて置かれていた。床石の四周床面には幅20～30cm、深さ10～18cmの溝が掘られ、この2枚の石は初葬時に設置された右棺のもので、床石の下から玉類が出土しており2次葬時に置き直されたと推測される。床石は長さ1.74m、幅0.8m前後、厚さ10cm、切石は高さ約40cm、幅86cm、厚さ14cmを測り、石材は粗粒砂岩を使用している。手前側の石は小口側の溝の横幅と同じで、置き換えられた可能性も考えられる。床石の左壁側と奥壁側には20～40cm大の地山ブロックや床石と同じ石材が置かれており、右棺側石の裏込めに使用されたものと考えられる。

奥壁の床面より1.34m上方に掘り込みが確認された。この掘り込みは3号横穴墓の復元天井高より上位に位置する様相を呈し、3号横穴墓とは別の遺構であると考えられた。規模は奥行き0.38m、幅約1.0m、高さ0.7～0.8mを測り、形態からすると一見横穴墓の残存部にも見えるが、土層断面からそ





第17図 3・4・5・6・7号横穴墓実測図 (S = 1:60)



第18図 3号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S=1:30)

の侵入面や3号横穴墓との前後関係は確認できず、遺物も皆無であることから確かな性格は不明である。

**土層堆積状況（第16-1図）** 玄室内は流入土と崩落土（23～30層）で埋め尽くされていた。上層中には大型の地山ブロックが多い。35層は羨道側の初葬時埋土が、閉塞物が無くなった為に玄室内に流れ込んだものと推測される。この層の上面からは閉塞石、遺物が出土しており、2次葬面と考えられる。32～34層は2次葬後の埋土で、33層上面からは動かされた閉塞石が、奥壁側の32層上面からは遺物が出土しており、3次葬面と考えられる。31層は搔き出し土と思われる。22、23層上面は水平面を呈しており、人為的に加工された可能性も窺われる。

**閉塞状況（第16-1、18図）** 玄門前面から十数個の石を検出した。これらの右は35層上面から33層上面にかけて確認され、大半の石に動かされた形跡が何われた。閉塞石を取り除くと床面に幅1.05m、奥行き0.23m、深さ0.1mの溝を検出した。両壁面には削り込みが設けられ、初葬時には木蓋などの板材で閉塞していたと推測される。2次葬時に右で閉塞を行い、3次葬時に一部を取り除いて侵入したと考えられる。

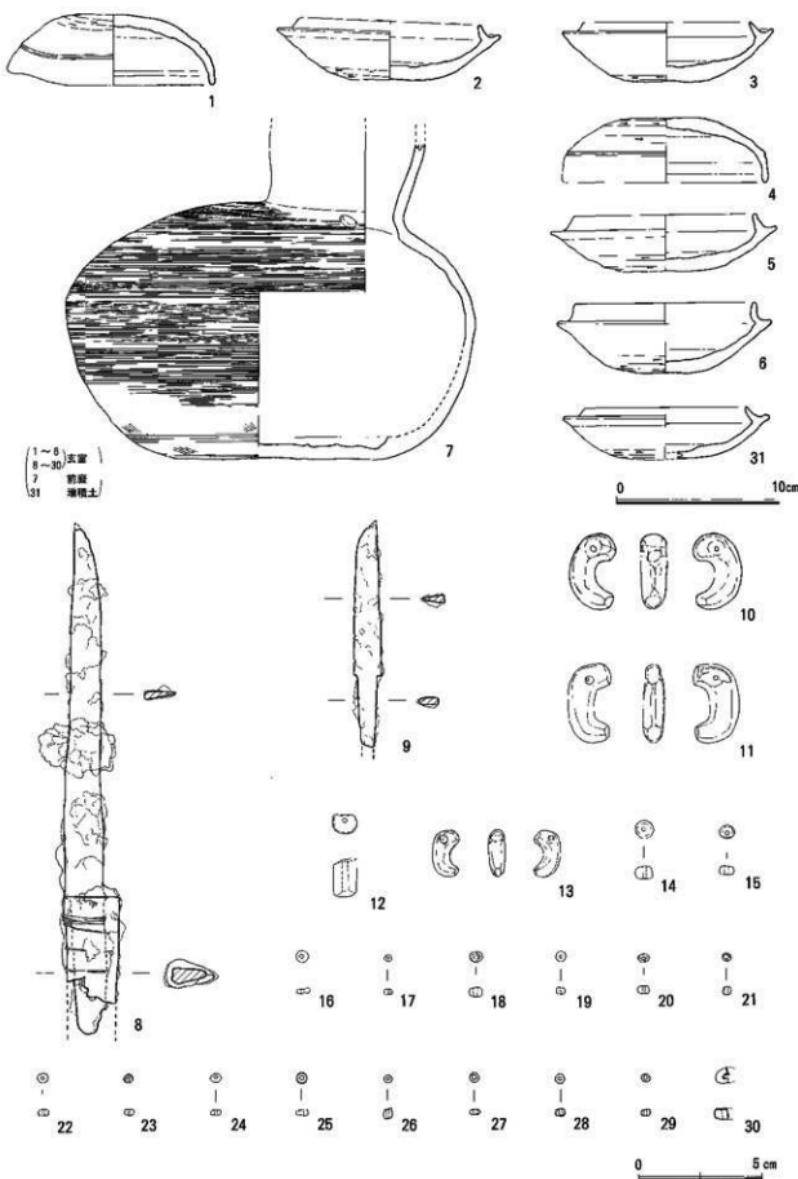
**遺物出土状況（第18図）** 玄室内からは蓋坏6点、鉄器2点、玉類21点が出土している。蓋坏1、2、3は床面からやや浮いた位置で、6は床石直上から出土している。4、5は床面から20～30cm浮いた位置で32層上にあり追葬に伴うものと考えられる。床面に掘られた右棺の玄門側溝付近と左側床面から刀子（8、9）が出土している。玉類の勾玉（10、11）は床石近くや左壁側から出土しているが、勾長（13）や小玉の多くは遺存する床石の下から出土しており、床石が置き直された際に入り込んだものと推測される。閉塞部から前庭端に約2m行った右壁側に平瓶（7）が置かれていた。この平瓶は5号横穴墓の羨道右壁近くにあり5号横穴墓に伴うものと考えられたが、上層観察の結果3号横穴墓の遺物であると判断した。

**出土遺物（第19図、巻頭カラー）** 1～6は蓋坏である。1の坏蓋は口縁に痕みが見られるが、推定口径約11.9cm、器高4.4cmを測り、外面と内面の口縁端部に1条の沈線を施す。人井部外縁はヘラ切り後難な回転ヘラ削りである。4の坏蓋は口径12.4cm、器高4.0cmを測り、外面に1条の沈線を施す。人井部外縁には部分的に浅い回転ヘラ削りを施す。11は口縁部を欠損する平瓶で残存高20.5cm、胴部最大径25.0cmを測る。肩部にボタン状の粘土を貼り付け、胴部にはカキ目を施す。

8、9は刀子で8は残存長20.7cm、9は残存長10.2cmを測る。8は切先を僅かに欠き、両闘である。茎部には柄木を2枚合わせ、素木に漆を塗り、撫糸を巻いている。目釘穴の径は0.3cmを測る。

10は碧玉、11は瑪瑙、13は水晶の勾玉でいずれも片面から穿孔している。11の勾玉は10、13に比べると形態がやや「コ」の字状である。12はガラス製の管玉で内端を欠いている。14～30はガラス製の小玉で長径は0.3～0.7cmを測る。

**時期** 十層観察の結果、3回の埋葬があったと考えられる。玄室内の遺物は出雲4期に相当し、初葬から最終埋葬まで4期のうちに終了したと推定される。前庭から出土した平瓶は出雲5期以降の遺物と考えられている為、玄室内の遺物との間に時期差がみられる。平瓶に伴う侵入時期は出雲4期から5期の過渡期と考えられないだろうか。出雲4期に構築され4期から5期の過渡期まで埋葬が行われた可能性も考えられる。



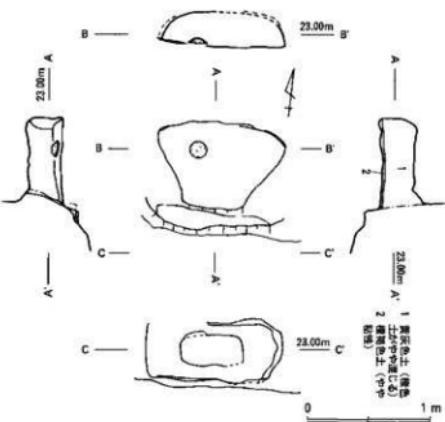
第19図 3号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3, 1 : 2$ )

#### 4号横穴墓（第20、21図）

3号横穴墓前庭部奥端部から約1.7m前方の右壁に穿たれた小形の横穴墓で、ほぼ南向きに開口する。玄室の正面は丸みを帯びた横長の長方形で幅50cm、高さ25cmを測る。玄室は奥行き0.71m、高さ27cm、幅は入口側45cm、奥壁側1.03mを測り、平面形は撥形を呈する。天井部は崩落が著しいが、残存部から丸天井と推測される。玄室入口には床面より23cm下に幅90cm、奥行き10~18cmの段が作られ、左右の壁には例込みが設けられていた。

玄室内は埋土で埋まり、その埋土は3号横穴墓前庭埋土の38層とよく似ている。3号横穴墓に伴う付随施設と推測される。

玄室床面のやや右側から壺身が1点出土した状態で出土している。この壺身は口径11.5cm、器高4.0cmを測り、底部にはヘラ切り後回転ヘラ削りを施す。出雲4期に相当する。



第20図 4号横穴墓実測図 ( $S = 1 : 40$ )

#### 5号横穴墓（第17図）

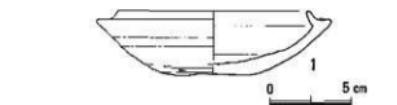
3号横穴墓の共有前庭部奥端部からすぐの右側壁に穿たれた横穴墓である。

**墓道** 明確な墓道は確認されていない。閉塞部前1m程に墓道の形跡がみられ、右壁は3号横穴墓前庭の壁面を加工して造っている。左壁には人頭大よりやや大きめの石が積み上げられ、石積構造を呈する。左壁は3号横穴墓の軟弱な埋土であった為、石を積み重ねて補強したと思われる。

**玄門** 床面の規模は奥行き1.7m、幅0.72~0.81mを測り、玄室側がやや広い。高さは70~80cmを測り、断面形態は釣鐘状を呈する。

**玄室** 床面規模は奥行き2.03m、幅は玄門側で2.14m、奥壁側で2.27mを測り、ほぼ正方形の平面形を呈する。主軸をS-48°-Eにとり、玄門の主軸より少し西に振れている。床面の四周と中央を縦断する様に溝が掘られ、四周の溝は、幅2~5cm、深さ2~4cm、中央の溝は幅20cm前後、深さ4cmを測る。四隅の床面からは界線が立ち上がり、そのまま天井部の棟線へつながる。天井部の最も高い所で1.65mを測る。四壁の床面から約1.0m上部に軒線を加工しており、玄室の形態は整正家形である。玄室の左側には板状の敷石が5枚並べられ、高さを調整する為に床面が削られていた。右側からは棺台に使用したと思われる石が4個出土している。

**土層の堆積状況**（第16図） 10、11層は初葬時の埋土である。11層は玄門まで続き、木蓋などが朽ちた為に入り込んだと思われる。玄門入口の右は10、11層上面に置かれていた。この層の上面には十器



第21図 4号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3$ )

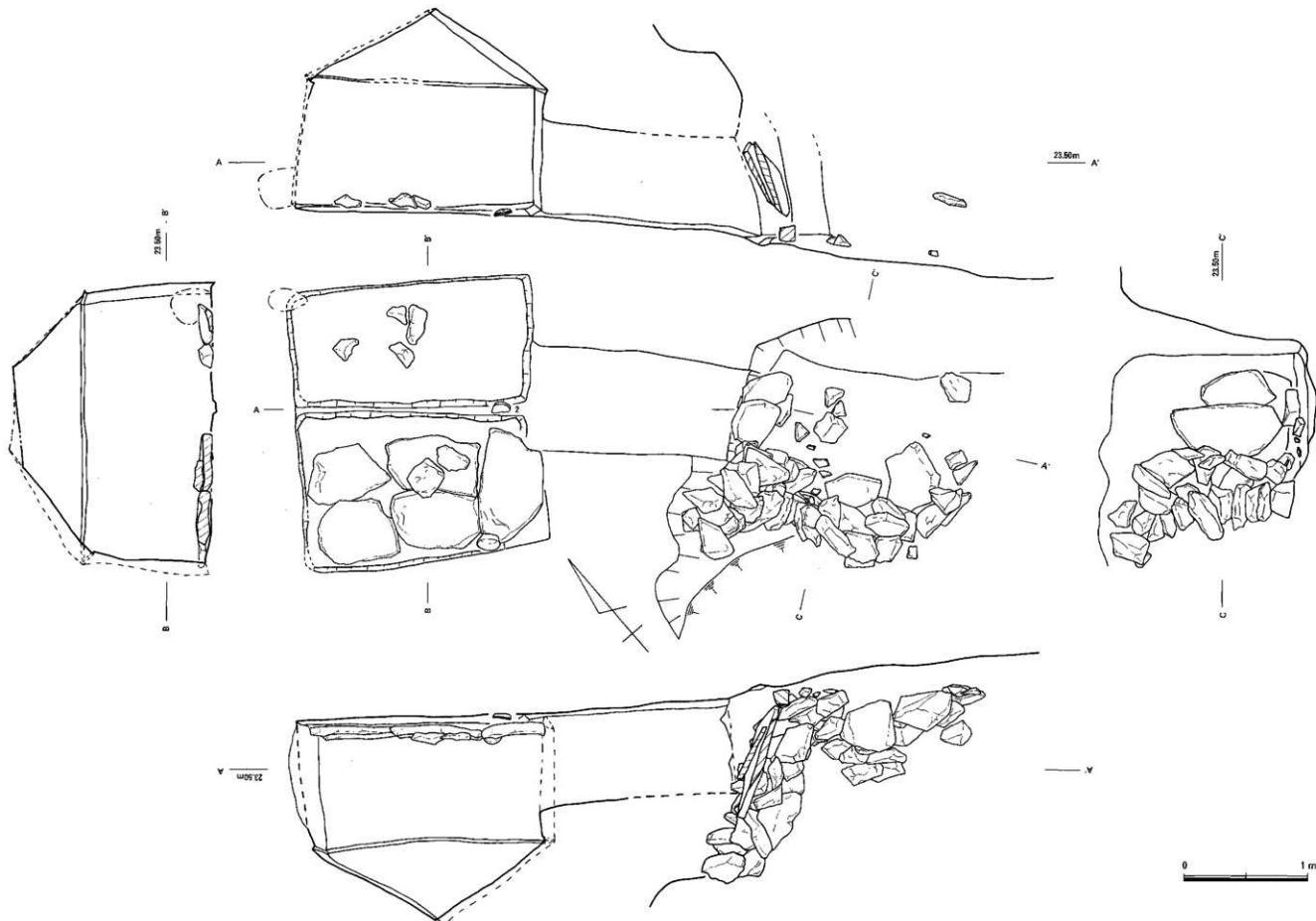
が置かれ 2 次葬面と推測される。9 層は 2 次葬後の埋土で、9 層上面からも石や土器が出土しており、侵入面（3 次葬面）と考えられる。41 層は 3 次葬後の埋土、42 層は流入土と思われ、8 层より上の層は堆積土である。土層観察の結果、3 回の埋葬が行われたと推定される。

**閉塞状況**（第22図） 高さ60cmと90cm、厚さ約10cmの安山岩の閉塞石が2枚玄門入口に立てかけられた状態で出土した。2枚の閉塞石は一部をやや重ねあわせたようになっており、閉塞石の下側や墓道からは石が数個出土している。閉塞石の下から出土した石は土層観察から2次葬時の閉塞に用いられたもので、墓道の9層から出土した石は3次葬時に除去されたものと考えられる。玄門前面には浅い溝があり、右側にも削り込みがあることから、初葬時には木蓋などの板材で閉塞していたと推測される。

**遺物出土状況**（第22図） 墓道の右壁の10～11層にかけて1個体分の横瓶片が出土。1個体に復元された。閉塞部に近い9層上面からは高台付坏（4）と短頸壺（5）が出土している。これらの遺物は追葬面に伴うものと考えられる。玄室の左袖側に近い敷石の上から土師器の坏（1）が、玄門に近い中央溝の中から皿（2）が出土している。

**出土遺物**（第23図） 1は土師器の坏で口径16.2cm、器高4.5cmを測る。口縁は僅かに外反し、底部外面に静止糸切り後回転ヘラ削りを、内面底部に螺旋状の暗文、口縁部に放射状暗文を施す。2は土師器の皿で口径19.1cm、器高2.2cmを測り、内面底部に螺旋状の暗文、口縁部に不定方向の暗文を施す。底部外面は静止糸切り後回転ヘラ削り、静止ナデを行う。これらの土師器は全面に丹塗りしており、畿内系土師器の模倣品とみられる。飛鳥のⅢ～Ⅳ期に相当し、7世紀末から8世紀前半の様相を呈する。4の高台付坏は口径11.7cm、器高4.2cmを測る。高台は「ハ」の字開き、坏部は内湾する。底部外面は静止糸切り後ナデを施す。5の短頸壺は口径7.0cm、器高8.5cmを測る。底部外面から胴部下面に回転ヘラ削りを施し、底部外面に竹管状工具による刺突文を1個付ける。6の横瓶は口径11.7cm、器高21.2cm、胴部最大幅約30cmを測る。口縁部は外反し、端部に内傾する面を作る。胴部外面は平行叩きの後にカキ口を施し、内面には当て具痕が認められる。3は墓道の堆積土上層から出土した高台付坏で、底部外面に回転糸切り後ナデを施す。

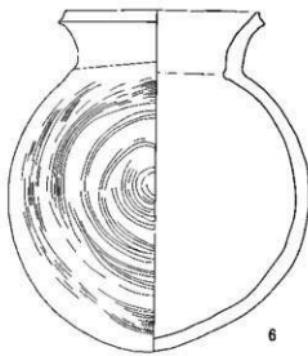
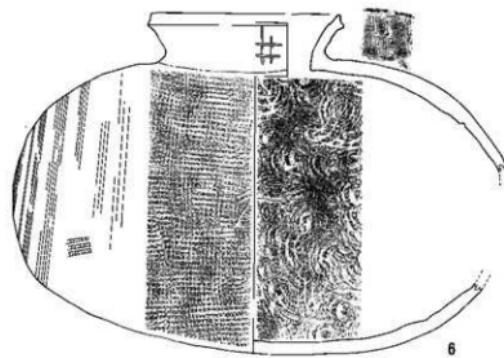
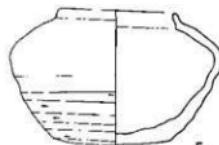
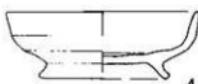
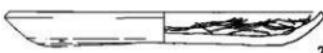
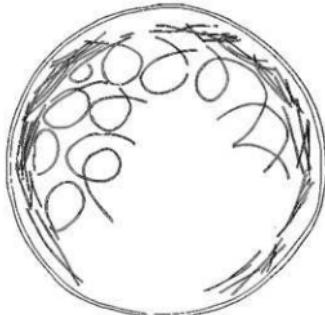
**時期** 土層の切り合いから3号横穴墓より後と考えられ、初葬は出雲4期以降と推定される。最終侵入面の遺物は出雲8期、8世紀頃に相当し、玄室から出土した土師器と同時期と考えられる。出雲8期頃まで埋葬が行われたと推測される。



第22図 5号横穴墓閉塞石・玄室内遺物出土状況実測図 (S-1:30)



(1~2 空器  
3~6 高溫土  
3 塗料土)



0 10cm

第23図 5号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)

## 6号横穴墓（第17図）

3号横穴墓の前庭奥の左壁に穿たれた横穴墓でN-11°-Eに開口する。墓道は前述したように3号横穴墓前庭部の埋土を掘削して造られた可能性はあるが、明確な確証は得られていない。

**玄門** 床面の規模は奥行き1.66m、幅0.43~0.54mを測り、玄室側がやや広い。天井部は崩落しているため高さは不明であるが、形態は残存部から橢円形を呈すると推測される。

**玄室** 床面の規模は奥行き1.60m、幅2.15m、高さ1.38mを測り、平面形は横長の長方形を呈する。奥壁の二隅の床面からは棟線が立ち上がり天井部へ続く。前壁側は崩落が著しく明瞭な棟線は認められないが玄室の形態は平入りのテント形と考えられる。床面の壁際には幅10cm、深さ5cmの溝が掘られているが、右側と右袖側は床面に掘られた奥行き1.5m、幅1.0m、深さ20cmの掘り込みによって途切れている。この掘り込みは少なくとも初葬時には存在していなかった可能性が高い。壁面はかなり風化しているが、右壁においてはU字状の工具痕が明瞭に確認される。

**土層の堆積状況**（第16-3図） 1、2層は流入土または埋土であろう。8、9、10層は初葬時の埋土と考えられ、切り合いかから7層下面が2次葬面と推測される。7層は2次葬時の埋土である。7層上面に閉塞石は置かれており、遺物も出土していることから3次葬面と考えられる。5、6層は3次葬後の埋土で5層の上面から閉塞石の一部を除去して侵入したと推測される。4層は閉塞石の裏込め土と思われる。土層観察の結果、6号横穴墓では4回の埋葬が行なわれたと考えられる。

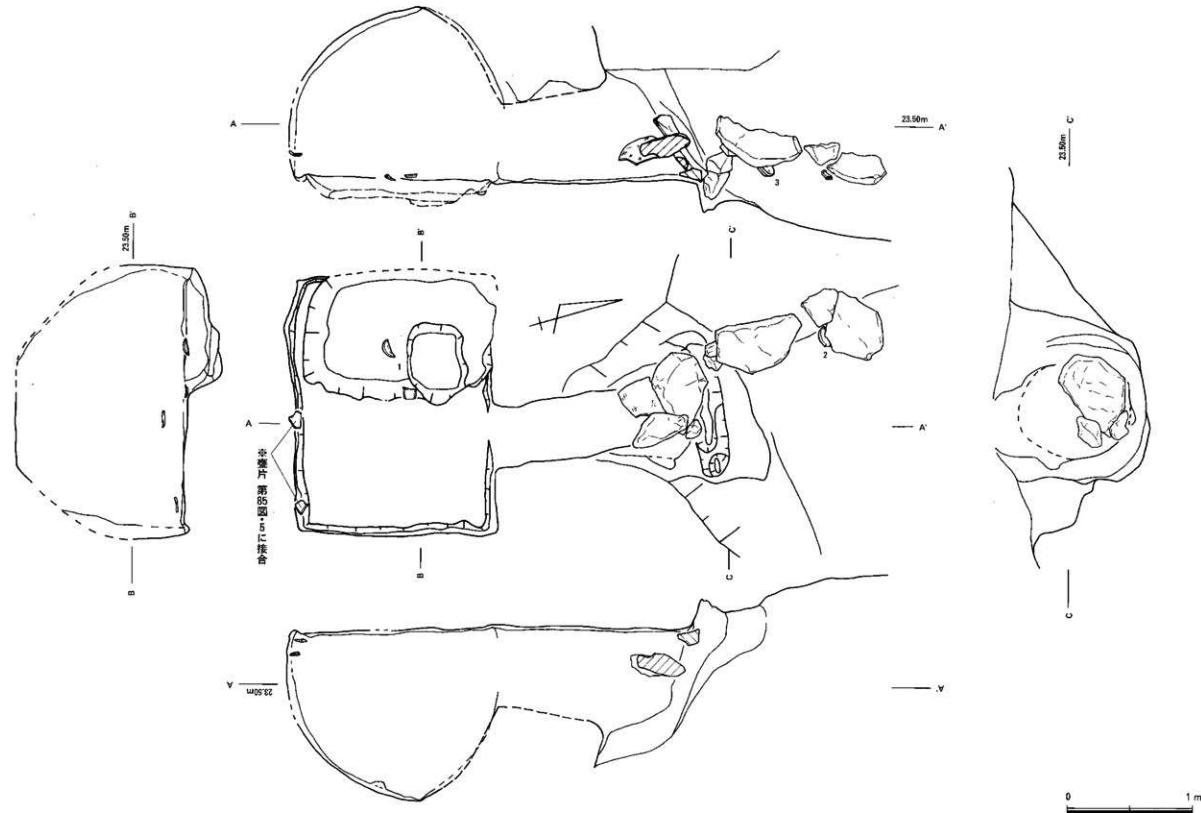
**閉塞状況**（第24図） 玄門入口の左側に立てかけたような状態で閉塞石を検出した。閉塞石は高さ70cm、幅43cm、幅10cmを測り、板状で下側に石を置き安定させている。閉塞部前方の埋土からは板状の石が2枚と石が数個出土しており、閉塞に使用されていたが侵入の際に取り外されたと考えられる。玄門前面には割り込みが設けられ、玄門前面の床面から20cm下には幅1.05m、深さ10cmの溝が掘られていた。

**遺物出土状況**（第24図） 玄室内からは壺片3片と天井部外面に回転糸切り痕をとどめる坏蓋片（1）が出土している。また床面の埋土をふるいにかけた際に鉄製品の一部が出土した。坏蓋片は周辺にあつたものが、十層中に入り込んだと考えられる。右側の取り外された閉塞石の下側からは底部に回転糸切りを施す土師器の壺、高台付皿、坏蓋、追縁面と考えられる7層上面からは蓋（2）と高台付壺（3）が出土している。初葬後の埋土中からは内側にかえりのある坏蓋が出土している。

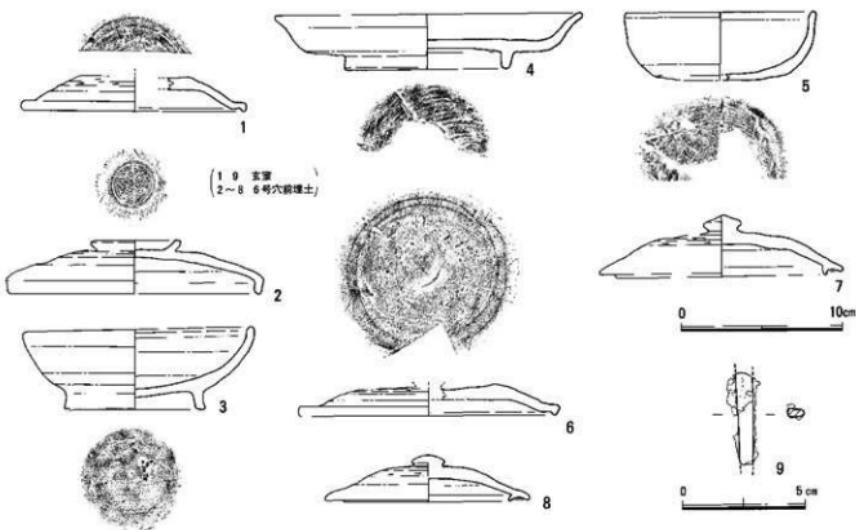
**出土遺物**（第25図） 1は玄室内から出土した坏蓋でつまみ部分を欠損している。口縁部に平坦面をもち端部はわずかに下方に垂れている。天井部外面には回転糸切り痕が残る。2の輪状つまみの蓋は3の高台付壺とセットである。2は口径15.3cm、器高3.4cmを測り、口縁端部は垂直に下方に垂れている。3は口径13.8cm、器高5.0cmを測り、底部外面には静化糸切り後ナデを施す。4は高台付の皿で口縁は外反し、底部外面に回転糸切り痕が残る。口径18.6cm、器高3.4cmを測る。5は七節器の壺で底部外面に回転糸切り痕を残し、口径11.5cmを測る。7、8は口縁部の内側にかえりをもつ坏蓋である。7は擬宝珠、8は扁平な乳頭状のつまみを有する。9は鐵鏹の茎部と思われる。

**時期** 初葬後の埋土に出雲6期の遺物が含まれており、初葬は同時期と推定される。最終侵入面に伴う遺物は8世紀中頃以降と考えられ、7世紀から8世紀中頃にかけて埋葬が行われたと推測される。

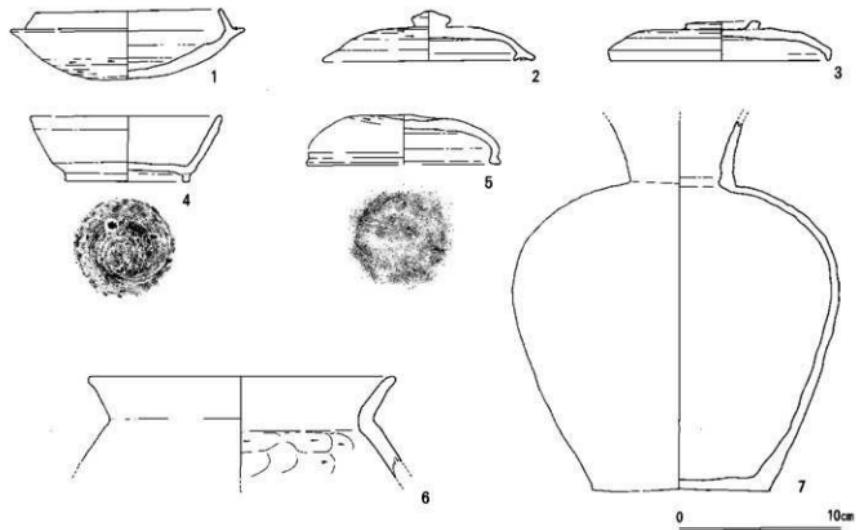
**5・6号横穴墓、墓道出土遺物**（第26図） 1～5、7は5、6号横穴墓前の堆積土上層から出土した遺物である。器種も様々で、時期も出雲4期から中世の壺まで出土している。6は3号横穴墓前庭部から出土した十節器の壺であるが、土層の切り合いかから5、6号横穴墓の墓道遺物と思われる。



第24図 6号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S=1:30)



第25図 6号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3, 1 : 2$ )



第26図 5・6号横穴墓埋土・堆積土出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3$ )

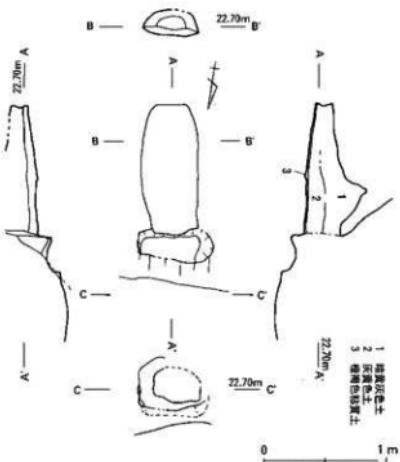
## 7号横穴墓（第27図、第16図）

7号横穴墓は3号横穴墓の前庭、6号横穴墓の左壁側に穿たれた小横穴墓である。閉塞部から玄室にかけて天井部は崩落している。主軸をS-10°-Eにとり、ほぼ北向きに開口する。

閉塞部は3号横穴墓前庭床面より25cm上方に幅62cm、奥行き15~20cm、深さ5cmの溝を掘り、左壁に削り込みを設けていた。

玄室の床面は奥行き1.05m、幅25cm~47cmを測り、中太りの長方形を呈する。残存する天井の一一番高い所で21cmを測り、奥側に向かって低くなっている。奥壁の形態からアーチ形と推測される。

3号横穴墓に伴う付随施設とも考えられるが、遺物も皆無である為、時期、性格は不明である。



第27図 7号横穴墓実測図 (S-1:40)

## 8号横穴墓（第28図）

8号横穴墓は重機による表土掘削中に発見された横穴墓である。東向きに開口し、標高は玄門入口で18.50mを測り、他の横穴墓に比べると一段低い所に位置する。

**墓道** 床面は長さ4.0m、前端幅30cm、奥幅70cm、左右の壁の高さは玄門側で約2.0mを測り、狭長な墓道である。床面は前端側に向かって緩やかに傾斜している。

**玄門** 玄門前面には削り込みが設けられ、床面には幅85cm、深さ4cm程の溝が掘られていた。閉塞石などは検出されておらず、木蓋などの板材で閉塞されていたと思われる。

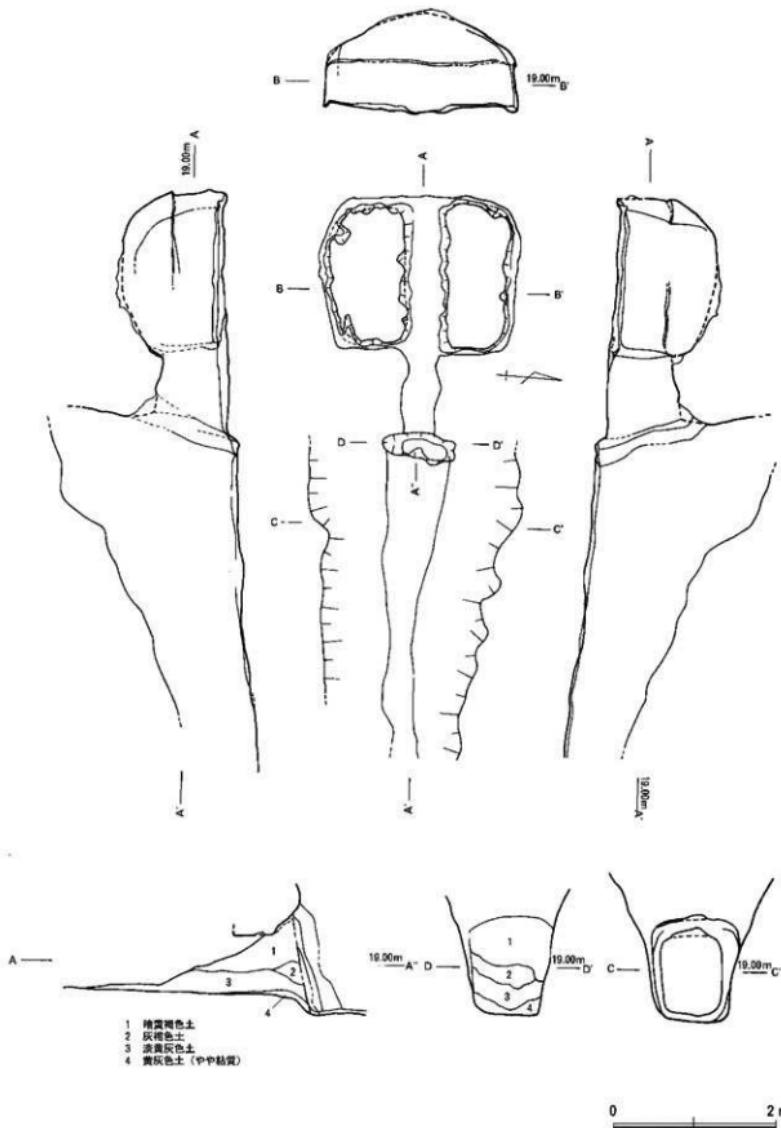
玄門は奥行き1.0m、幅40cm、88cmを測る。入口の天井はやや崩落しているが、断面形態はアーチ形を呈する。

**玄室** 幅は前壁側で2.04m、奥壁側で1.90m、奥行き1.93mを測る。床面は前壁から奥壁に向かってやや幅広なところもあるが、平面形は横長の長方形を呈する。天井は一部崩落しており、残存する所で1.23mを測る。床面の4隅からは界線が立ち上がり、奥壁側は横線へと続いている。前壁側では明瞭な棟線は確認されなかった。軒線は奥壁と左壁の壁の一部に認められ、玄室形態はドーム系家形である。4壁沿いには幅15cm、深さ5cm、中央には幅50cm、深さ5cmの溝が掘られていた。右側床面には右袖側に2個、奥壁側に2個石が横に並べられ、左側には左袖側に1個、奥壁側に3個石が置かれていた。左奥壁側の石は動かされた形跡が伺われ、これらの石は棺台に用いられたと考えられる。

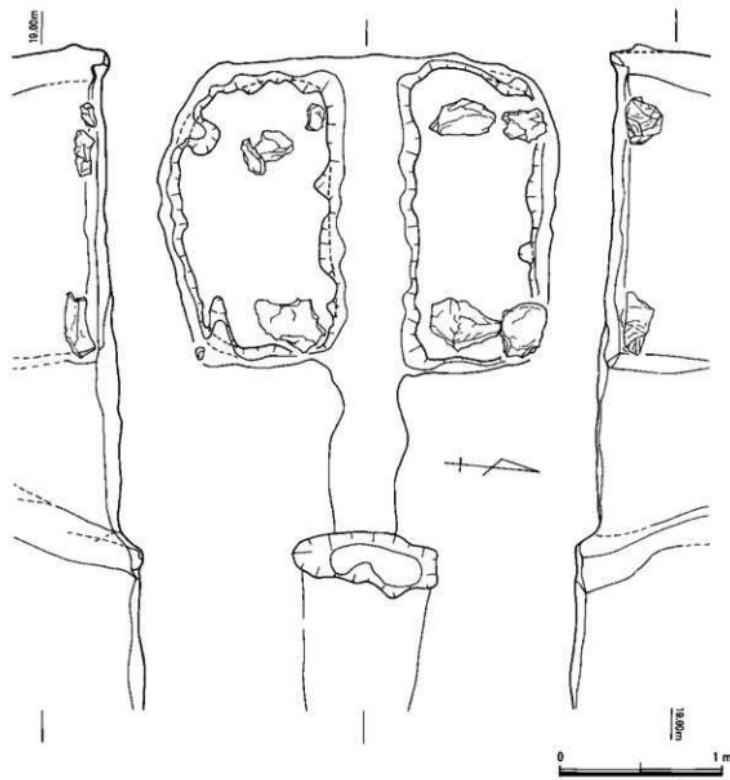
**土層堆積状況** 墓道の上層は重機による表土掘削の際、木や竹の根と一緒に掘り起こされ確認できなかった。玄門の上層しか確認できず、追葬、侵入面については不明である。

**遺物出土状況** 玄室内から床面の土をふるいにかけた際に小玉2個が出土し、墓道からは漆の底部、高杯、長頭壺が出土している。

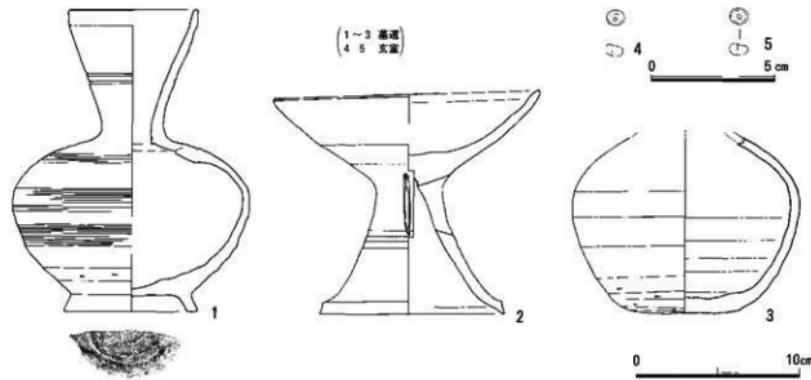
**出土遺物（第30図）** 1は長頸壺で口径7.7cm、器高推定18.8cm、底径8.2cmを測る。口縁は内湾して立ち上がり、外面に2条の沈線を廻らす。底部はヘラ切り後ナデを施し、ヘラ記号が認められる。2



第28図 8号横穴墓実測図 (S-1 : 60)



第29図 8号横穴墓玄室内石検出状況実測図 ( $S = 1 : 30$ )



第30図 8号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3, 1 : 2$ )

は長脚無蓋壺で口径16.2cm、器高13.9cm、底径11.3cmを測る。胸部の中央には2条の浅い沈線が廻り、上側に2方向の切れ目状の透かしを施す。4、5は斑状輝石安山岩の小片である。長径4mm、短径3mmを測る。

**時期** 初葬の時期は不明であるが、墓道から出土した遺物は出雲5、6期の様相を呈しており、その時期に埋葬を行ったと考えられる。

#### 9号横穴墓（第31図）

東側斜面、8号横穴墓の上方に位置し、標高は玄門入口で約21.50mを測る。

**墓道** 床面の規模は奥行き3.1m、幅0.4~0.6mを測り、狭長な墓道である。玄門側から前端側に向かって緩やかに傾斜し、主軸は前端側がやや北に振れている。

**玄門** 玄門は奥行き0.9m、手前幅0.6m、奥幅0.76cmを測る。天井の高さは約85cmを測り、断面形態はアーチ形を呈する。玄門前面の床面には横幅88cm、深さ14cm程の溝が設けられ、前面の壁には削り込みが掘られ、木蓋で閉塞していたと考えられる。

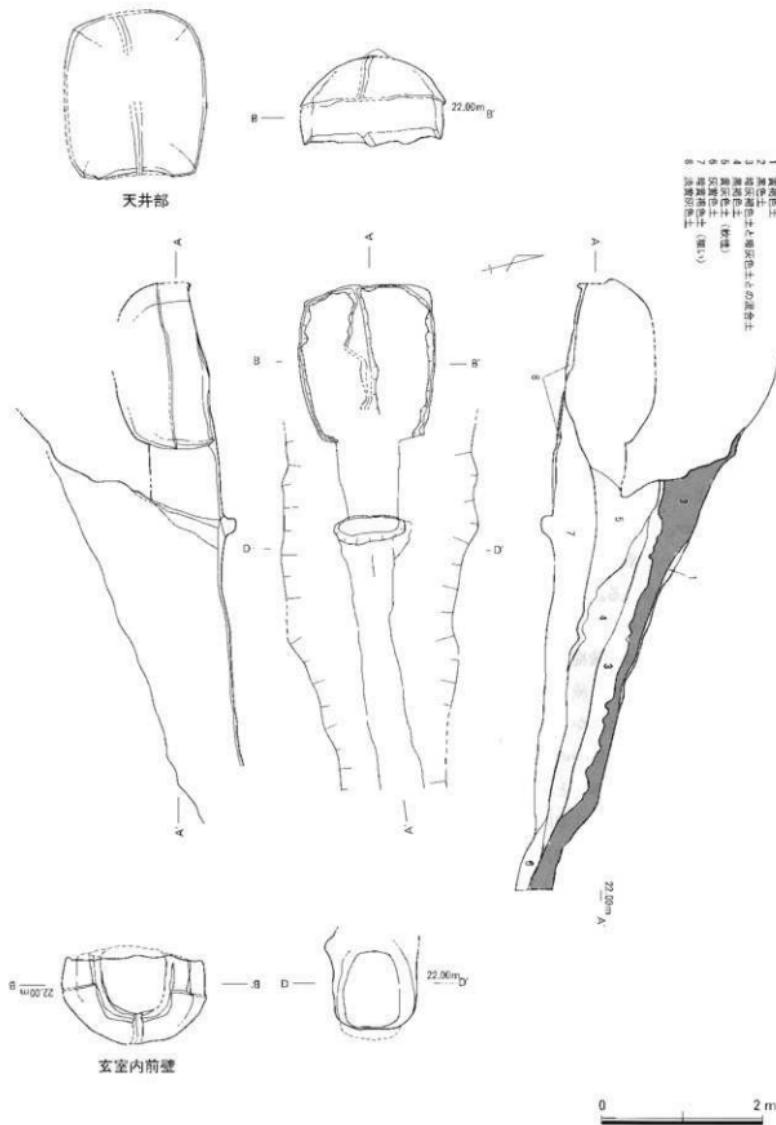
**玄室** 規模は幅が奥壁側で1.56m、前壁側で1.30m、奥行き2.0mを測り、紙長方形を呈する。S-76°-Eに開口し、墓道の中軸線に対して玄室の中軸線が僅かに南に振れている。床面の四周には幅4~10cm、深さ4cmの溝が掘られ、中央の溝は玄門側では確認できなかった。床面も凸凹しており、人の侵入によって溝が不正形になった可能性も考えられる。床面の四隅からは界線が立ち上がり棟線と続いているが、天井頂部が崩落している為、途中までしか確認できない。四壁には軒線が認められ、玄室の形態はアーチ系家形と推測される。天井部の奥壁から玄門側にかけて深さ10cm程度の「八」状の削り込みが認められる。また、玄室入口の前壁には1号横穴墓同様削り込みが掘られているが、用途や意味は不明である。

**土層堆積状況** 8層は淡黄褐色上で玄室内の風化による堆積上、または初葬時に木蓋をし、それが朽ちたことによって玄室内に流れ込んだ上層と思われる。8層上面から出土した遺物には時期差がみられ、2次葬時に玄室内に置かれていた初葬時の遺物を2次葬時の遺物と一緒に置きなおした可能性が考えられる。7層は2次葬時の堆土と思われる。7層上面から出土した玄室内と墓道の遺物が接合したため、7層上面は3次葬面と考えられる。2~5層は埋め戻し上、1は堆積上である。

**遺物出土状況（第32図）** 玄室内の遺物は大きく2群に分けられる。1群は8層上面の遺物で、玄室中央と右袖側から蓋壺（10~18）、翫（19）、直口壺（20）が出土している。他の1群は7層上面の遺物で、左右袖側から壺蓋（1~7）、直口壺（8）、提瓶（9）、甕の口縁（21）が出土している。

墓道の7層上面からは子持壺の子壺、長頸壺、多数の壺片が出土している。

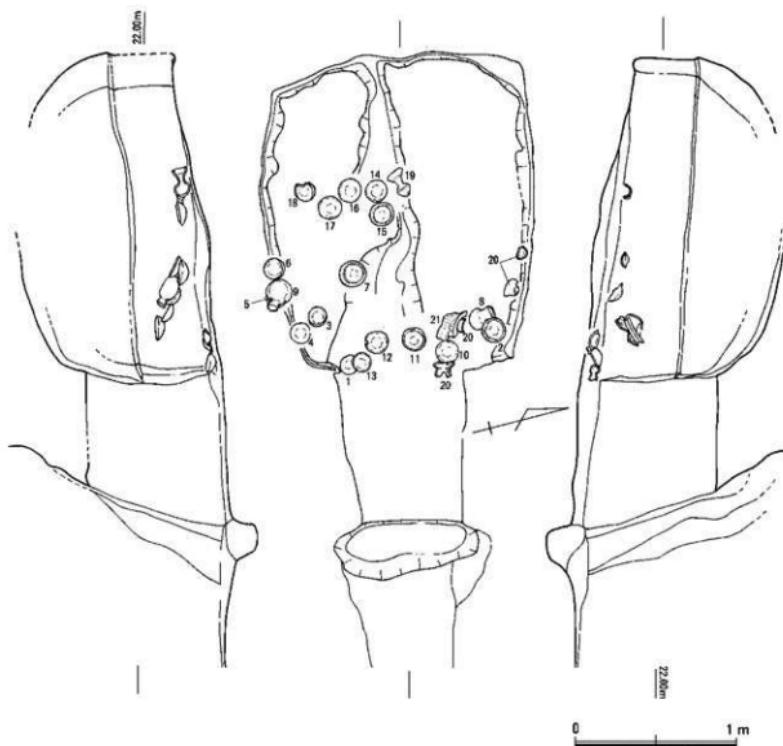
**出土遺物（第33、34図）** 第33図1~7、10~18は蓋壺である。蓋壺1、4、6、13、14は口径12.5cm~13.0cm、器高4.0cm~4.6cmを測る。天井部にヘラ切り痕を残し、外面肩部に回転ヘラ削りを施す。肩部に1条ないし2条の沈線、内面の口縁端部に1条の沈線を廻らせる。3は口径12.9cm、器高4.1cmを測り、天井部外面に浅い回転ヘラ削りを施す。肩部に沈線はなく、口縁端部はまるい。18は口径11.7cm、器高4.4cmを測り、肩部に細い沈線を廻らせ、天井部外面に浅い回転ヘラ削りを施す。壺身は口径10.4cm~11.3cm、器高4.0~4.6cmを測り、底部外面にヘラ切り痕を残す。蓋壺はすべて出雲4期に相当するが、3と18は新相の様相を呈する。9の提瓶は口径6.0cm、器高19.7cm肩部最大径15.8cmを測る。肩部にカギ状の把手が貼り付けられていたと思われるが先端は欠損している。背面は回転ヘラ



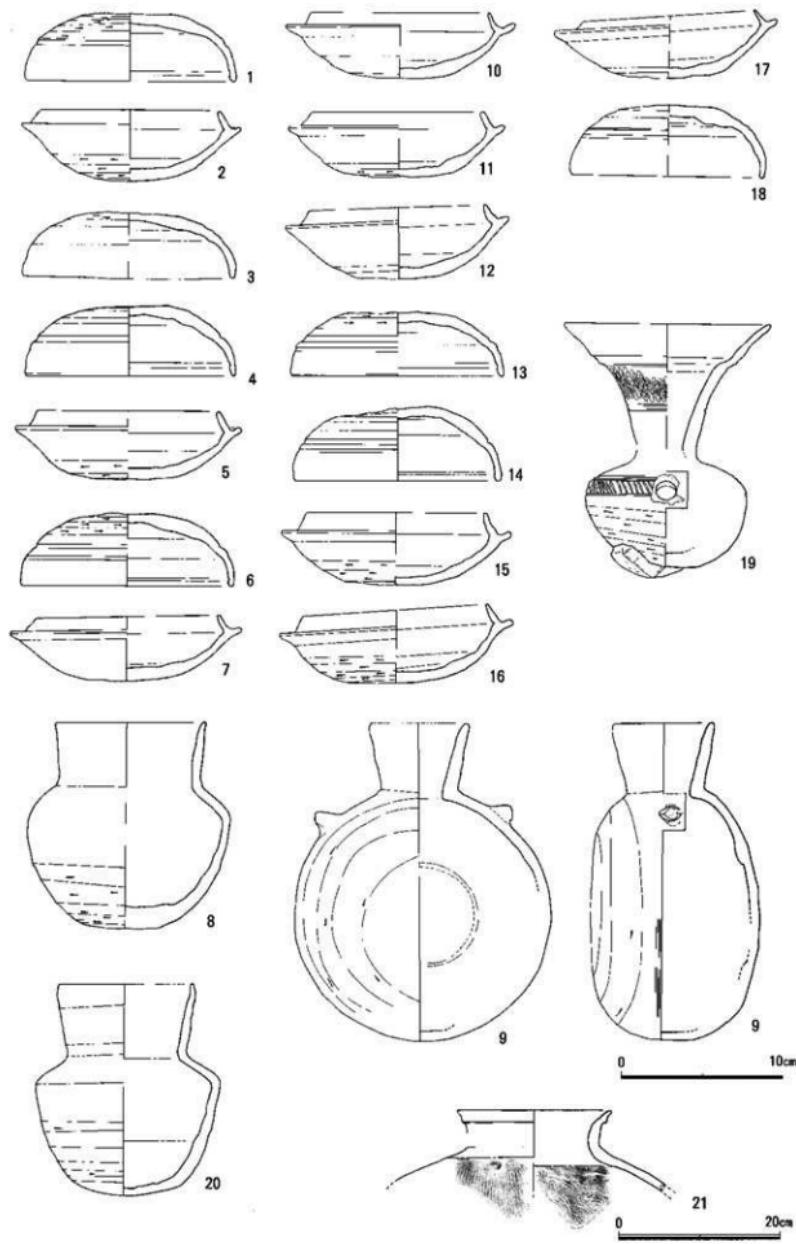
第31図 9号横穴墓実測図 ( $S = 1 : 60$ )

削りを、腹面にはカキ目の後に回転ナデを施す。19の縁は口径12.4cm、器高15.2cmを測り、口頸部に波状文、胸部に刺突文を施す。第34図1は子持壺の子壺で口径9.2cm、器高8.7cmを測る。底部は穿孔され、底部外面には親壺との接合時の指押さえの痕がみられる。2は長頸壺で口径7.4cm、器高18.4cmを測る。口縁は直線的に立ち上がり、口頸部に1条の細い沈線を施す。

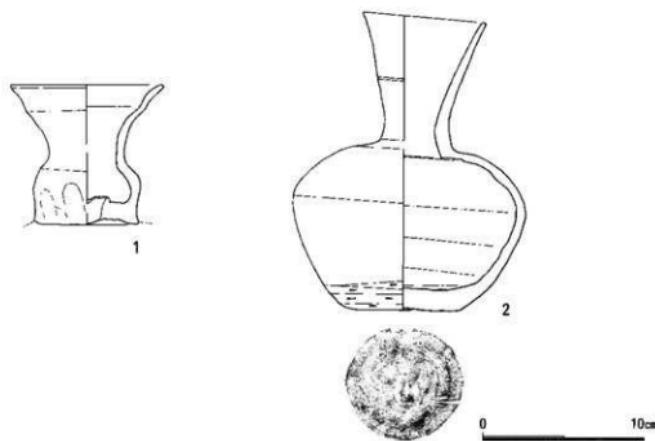
時期 十層観察から少なくとも2回の追葬が行われたと推定される。玄室内から出土した遺物は出雲4期の範疇であるが、時期差が認められる。最終侵入面から出土した長頸壺も4期末以降の遺物である。9号横穴墓は出雲4期の古い段階に初葬が為され、4期末～5期のうちに最終埋葬行なわれたと推測される。



第32図 9号横穴墓遺物出土状況実測図 (S - 1 : 30)



第33図 9号横穴墓出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3, 1 : 6$ )



第34図 9号横穴墓道出土遺物実測図 (S-1:3)

#### 10・11号横穴墓

10、11号横穴墓は東側斜面の南寄りに位置している。標高は玄室人口で10号横穴墓24.8m、11号横穴墓24.6mを測り、菅原横穴墓群のなかで一番高い場所に位置する。両横穴墓は奥行き1m程の小横穴墓で玄門はない。墓道の一部を共有し、平面的にみると「Y」字状を呈する。墓道の上層断面B-E'の2層は11号横穴墓の墓道埋土(B-B')2層と同じである。E-E'の3層は10号横穴墓の墓道埋土で、11号横穴墓の墓道が後に造られたと考えられる。

#### 10号横穴墓（第35図）

**墓道** 玄室側では主軸をS-83°-Eにとる。主軸を北に振りながら玄門から1.8mのところで11号横穴墓の墓道にあたり、下方(東側)に続いている。床面の規模は玄室側で45cmを測り、徐々に狭くなっている。断面形態はU字状を呈する。

**閉塞部** 玄室前面には奥行き10~30cm、幅66cm、高さ70cmの削り込みが設けられ、床面には幅20cm、深さ4cmの溝が掘られていた。閉塞用の石材などは出土していない。

**玄室** 床面の規模は奥行き88cm、幅は閉塞部側で40cm、奥壁側で1.05cmを測り、平面形態は撥形を呈する。天井は丸天井で、一番高いところで43cmを測る。床面の中央には幅5~10cm、深さ2cmの溝が掘られていた。床面には明瞭な溝状加工痕が認められる。

**遺物出土状況（第37図）** 玄室内左側床面からは蓋壺(1、2)がセットで出土した。右側床面からは壺蓋(3)と壺身(4)が伏せた状態で出土しており、枕として置いた可能性も考えられる。奥壁側の溝上からは直口壺(5)が出土している。

**出土遺物（第36図）** 1の壺蓋は口径13.8cm、器高4.0cmを測る。天井部外側に回転ヘラ削りを、施し、肩部に2条の沈線を廻らす。一部焼き歪んでいる。2の壺身は口径11.8cmを測り、全体に焼き歪んでいる。底部外側にヘラ切り後回転ヘラ削りを施す。3の壺蓋は口径11.9cm、器高3.9cmを測る。

天井部外側に丁寧な回転ヘラ削りを施し、肩部に2条の沈線を残す。口縁を故意に注ぎ口状に変形させた可能性も窺われる。4の环身は口径9.8cm、器高4.3cmを測る。5は直口壺で口径9.0cm、器高12.6cmを測り、胴部上半にカキ口を施す。

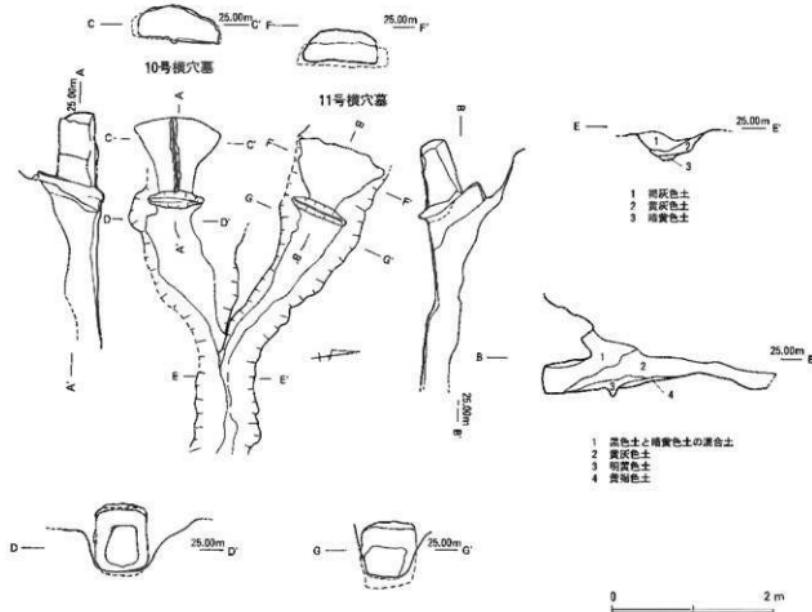
時 期 蓋坏1、2と3、4は形態、船上からセットと考えられる。同じ山雲4期の範疇の遺物と思われるが、時期差がみられる。3、4が1、2より新しく、1、2を動かして3、4を置いたと推測され、埋葬が2回行われた可能性が窺われる。山雲4期の間に埋葬が終了したと考えられる。

### 11号横穴墓（第35図）

墓 道 11号横穴墓の墓道は先にも述べたが、一部10号横穴墓と共有している。床面の規模は玄門側で60cmを測り、徐々に狭くなっている。床面の標高は閉塞部側で24.61mを測り、途中高くなり再び下方へ傾斜していく。

閉塞部 玄室前面には奥行き15cm、幅72cm、高さ70cmの削り込みが設けられていた。床面には幅16cm、深さ10cmの溝が掘られ、板材などで閉塞されていたと推測される。

玄 室 床面の規模は奥行き75cm、幅は閉塞部側で34cm、奥壁側で1.09mを測る。奥壁側が内凹しているが平面形は楔形を呈する。床面は閉塞部側が高く奥壁にむかって低くなっている。天井の高さは閉塞部側で床面より42cm、奥壁側で27cmを測り、断面形態はやや丸みをおびた台形を呈する。天井部



第35図 10・11号横穴墓実測図 (S - 1 : 60)

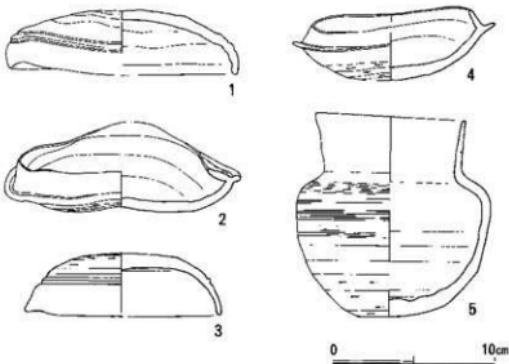
には明瞭なノミ痕が確認される。

土層堆積状況 2、3層から出土した遺物が接合している為、2、3層は同時に埋めたと考えられる。1層も2、3層と同じく埋め上と思われる。

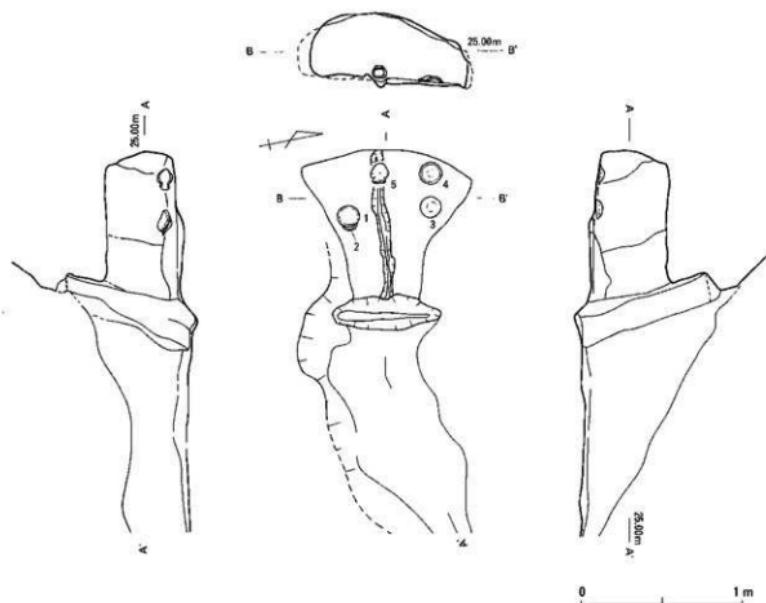
遺物出土状況（第38図） 玄室内

の左壁側と奥壁側の床面から壊身（1、2）が伏せた状態で出土している。玄室入口埋土の2、3層からは壊身と直口壺が出土している。

出土遺物（第39図） 1の壊身は口径11.1cm、器高4.5cmを測り、底部に回転ヘラ削りを施す。2の壊身は口径11.5cm、器高4.8cmを測り、焼きが悪く軟質で表面は風化している。1、2とセットになる壊蓋は口径が12.5cm～13cm前後と考えられ、1、2は出雲4期の



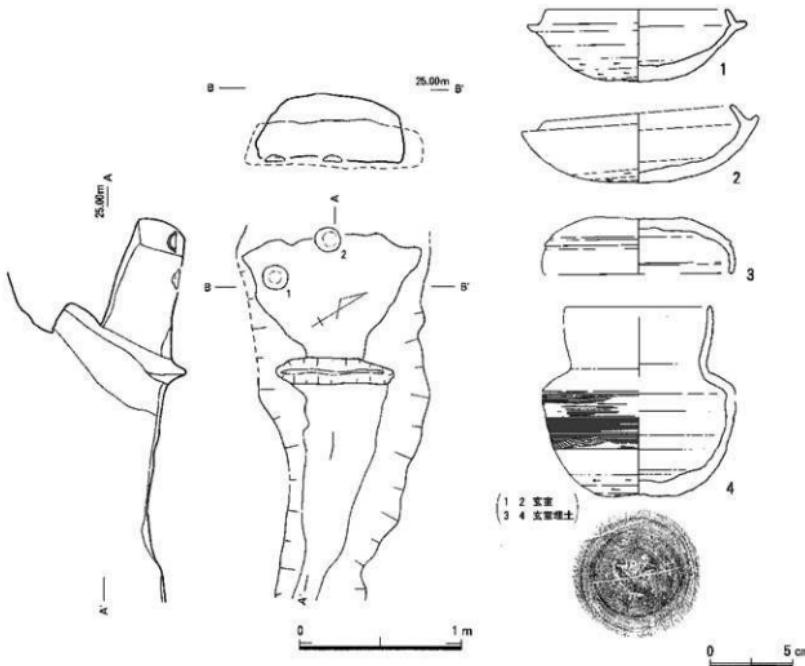
第36図 10号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)



第37図 10号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)

遺物と思われる。3の壺蓋は口径11.5cm、器高3.6cmを測る。天井部外面に部分的に回転ヘラ削りを施し、肩部に2条の沈線、内面の口縁端部に浅い1条の沈線を廻らす。4は口径8.9cm、器高11.8cmを測る直口壺で、胴部上半にカキ口を施す。

時期 出土遺物は山雲4期の遺物である。時朋斧がみられるが、埋葬は山雲4期の範疇で終了したと考えられる。3の壺蓋は10、11号横穴墓の出土遺物の中では最も新規のもので、10号横穴墓より11号横穴墓が後まで埋葬が行われたと推測される。



第38図 11号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)

第39図 11号横穴墓出土遺物

実測図

(S = 1 : 3)

## 12号横穴墓（第40図）

丘陵の南東側に位置する小横穴墓でS-76°—Eに開口する。標高は玄室入口で20.25mを測る。

**墓道** 前端側は重機によって削平されていた。残存する床面の規模は長さ2.36m、幅は玄室側で0.72m、前端側で0.22mを測る。床面はほぼ平坦であるが部分的に溝みがみられる。

**閉塞部** 玄室前面には奥行き10~18cm、幅70cm、高さ57cmの割り込みが設けられている。床面に溝はない、また閉塞用の石材なども検出されていない。

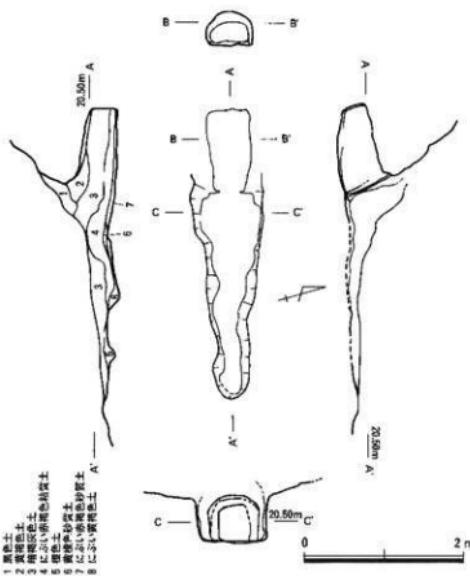
**玄室** 床面の規模は奥行き1.0m、幅は閉塞部側で0.37m、奥壁側で0.52mを測り、平面形は縦長の長方形を呈する。天井の高さは入口側で45cm、奥壁側で23cmを測り奥壁側に向かって低くなっている。玄室の形態はアーチ形を呈する。

**土層堆積状況** 1層、黒色土は検出時には3層上面にも存在していた。土層断面から追葬が行われた可能性は低いと考えられる。3、4層は初葬後の埋土で閉塞材が朽ちた為、玄室内に流れ込んだと推測され、2層は流入土と思われる。7層は床面上の硬くしまった土層で、床面を整える為に敷かれたと考えられる。

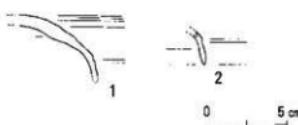
**遺物出土状況** 閉塞部近くの3層、玄室内の4層から壺蓋片が出土している。

**出土遺物（第41図）** 1は壺蓋片である。大井部には回転ヘラ削りが施され、肩部には浅い沈線がみられる。2は壺蓋の口縁片である。2つの口縁片は胎上が同じで同一個体と思われる。

**時期** 出土した遺物は出土4期と考えられ、この時期に埋葬が行われたと推測される。



第40図 12号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)



第41図 12号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)

### 13号横穴墓（第42図）

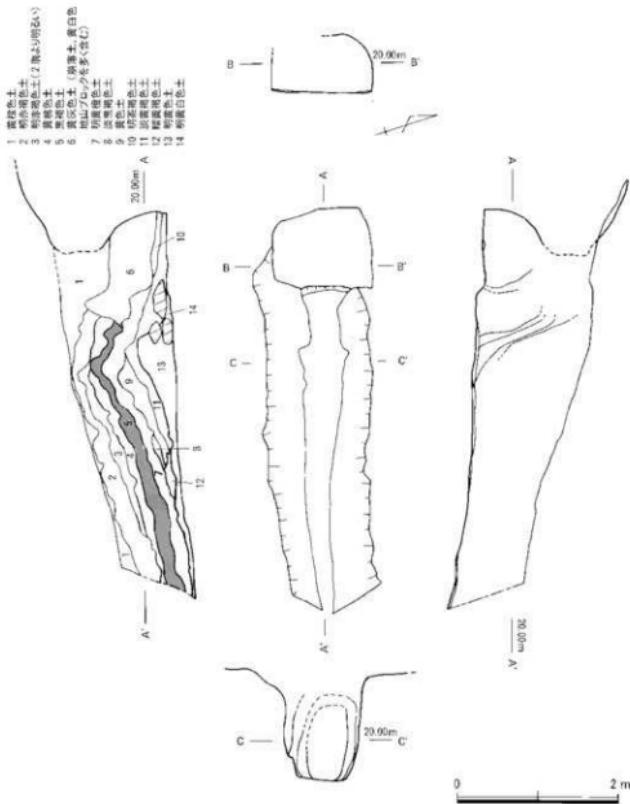
丘陵の南東側に位置する横穴墓でS-59°-Eに開口する。標高は玄門入口で19.56mを測る。

**墓道** 重機による掘削で前端部分は失われている。検出した床面の規模は長さ3.15m、幅は玄門側で0.55m、前端側で0.14mを測る。墓道の前端側に向かって緩やかに傾斜し、断面形態はU字状を呈する。

**玄門** 床面の規模は奥行き0.62m、幅は玄室側で0.60m、墓道側で0.32mを測る。天井部は崩落しており、断面形態、高さは不明である。

**玄室** 床面の規模は奥行き0.96m、幅1.26mを測り、横長の長方形を呈する。床面の前側の両隅からは界線が立ち上がる。天井は崩落しているが、奥壁は比較的残りが良く、玄室の形態はドーム形と推測される。床面は玄門床面より8cm高く、溝などの痕跡は認められない。

**閉塞状況** 狹い玄門入口から嵌め込んで積み上げた閉塞石を検出した。石は自然石で、床面から積ま



第42図 13号横穴墓実測図 (S-1 : 60)

れていた。下に角礫を2段2列積み、その上にやや大き目の石を縦に置いていた。左側の石は玄室側に落ちていた。玄門入口には奥行き20cm、幅63cmの削り込みが設けられ、初葬時には板状閉塞材で閉塞し、2次葬時に石で閉塞を行ったと推測される。

**土層の堆積状況** 1~4層は堆積土で、5は黄白色地山ブロックを多く含み、天井部の崩落土である。

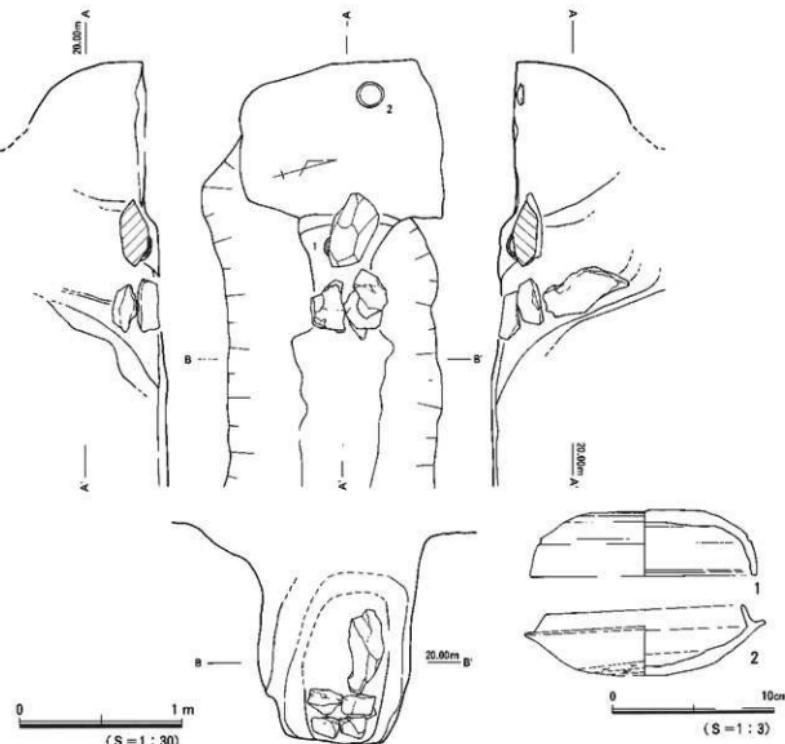
閉塞状況でも述べたが、2次葬時に石で閉塞したと考えられ、5~13層は2次葬時の埋土であろう。

初葬時の埋土を清掃し追葬を行ったと推測される。14層は石で閉塞する際の裏込め土と思われる。

**遺物出土状況（第43図）** 玄室入口の閉塞石の下からは壙蓋（1）が、奥壁側の床面からは壙身（2）が出土している。

**出土遺物（第43図）** 1の壙蓋は口径13.6cm、器高4.2cmを測る。天井部外面に回転ヘラ削りを施し、肩部には1条の沈線を廻らして稜を作り出す。内面の口縁端部にも沈線を廻らせる。2の壙身は口径12.0cm、器高4.4cmを測る。1、2は胎土や調整からセッティングされた。

**時期** 出土遺物は出雲4期に相当し、4期に埋葬が為されたことは確かであろう。



第43図 13号横穴墓閉塞石・遺物出土状況・出土遺物実測図 (S - 1 : 30, 1 : 3)

#### 14号横穴墓（第44図）

14号横穴墓は丘陵の南側斜面に位置し、S-42° Eに開口している。標高は玄門入口で21.0mを測る。玄門から玄室の大井部は崩落していた。

**墓道** 床面の規模は長さ6.90m、幅は玄門側で0.5m、前端側で0.2mを測り、狭長な墓道である。断面はじ字状を呈し、前端側に向かって緩やかに傾斜している。

**玄門** 床面は奥行き0.6m、幅0.5~1.0mを測り、玄室側がやや広い。大井部が崩落している為、高さや形態は不明である。床面には玄室内から続く幅18~35cm、深さ5cm程度の浅い溝が認められる。

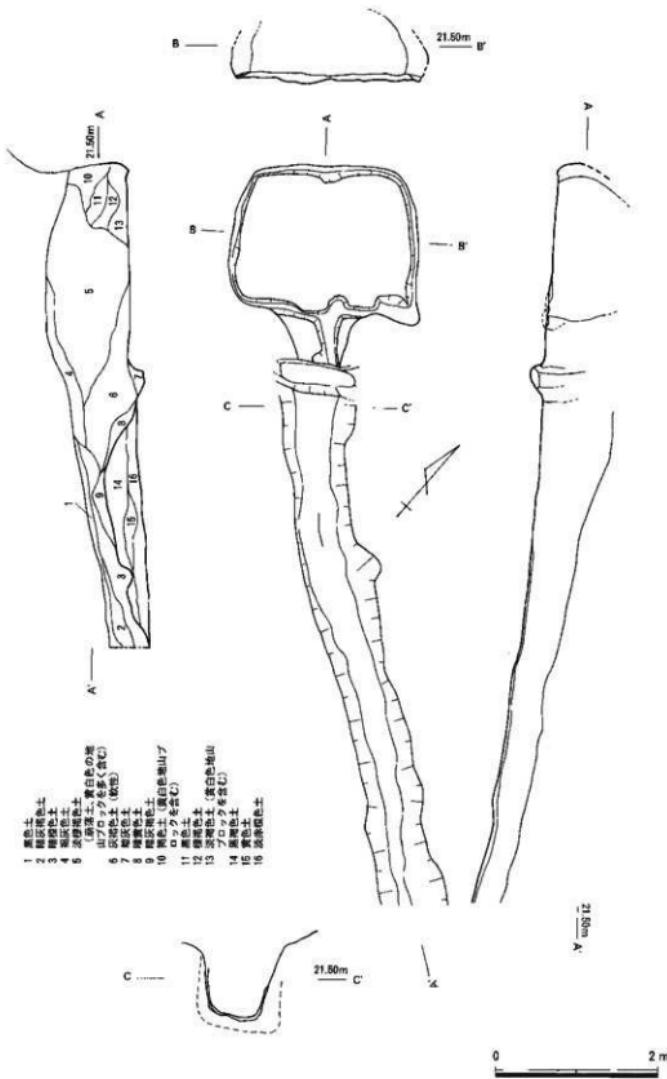
玄門前面の両面には削り込みが設けられ、床面には奥行き40cm、幅90cm、深さ10cmの溝が掘られていた。

**玄室** 床面の規模は奥行き1.87m、幅は奥壁側で1.85m、前壁側で2.23mを測り、平面形はやや横広の長方形を呈する。四周には幅7~20cm、深さ4cm程度の浅い溝が廻り、玄門の溝へと続く。大井部は崩落しており、高さは不明である。床面の匹隅からは界線が立ち上がり、その角度から形態はドーム形と推測される。

**土層堆積状況** 14、15、16層は初葬時の埋土と考えられる。14層、黒褐色土上面は切り合いから侵入面（2次葬面）と推定される。8、9層は搔き出し土であろう。6層は2次葬後の埋土と考えられ、閉塞材が打ちた後に流れ込んだと推測される。5層は崩落土で黄白色の地山ブロックを多く含んでいる。10~13層は崩落以前の土層と考えられ、11層は黒色土、10、13層は地山ブロックを含んだ土層である。

**遺物出土状況（第45図）** 玄室の遺物はすべて床面から出土している。遺物は奥壁側、中央、右袖側の3つに大別される。奥壁側の中央より左に壺蓋6点（12~17）、右に3点（8~10）がまとまつた状態で出土した。中央付近からは蓋坏5点（5~7、11、18）、十輪器の壺（19）が出上している。右袖には蓋坏（1~3）が重ねられ、伏せた状態で置かれていた。右壁側に立てた状態で壺身（4）が出土している。右奥からはガラス製の小玉2点（21、22）が、右袖からは大刀または刀の鋒先が出土している。玄室の崩落土からは鍋の破片が出土しており、崩落の際に入り込んだと思われる。壺は墓道の堆積土上層から出土している。

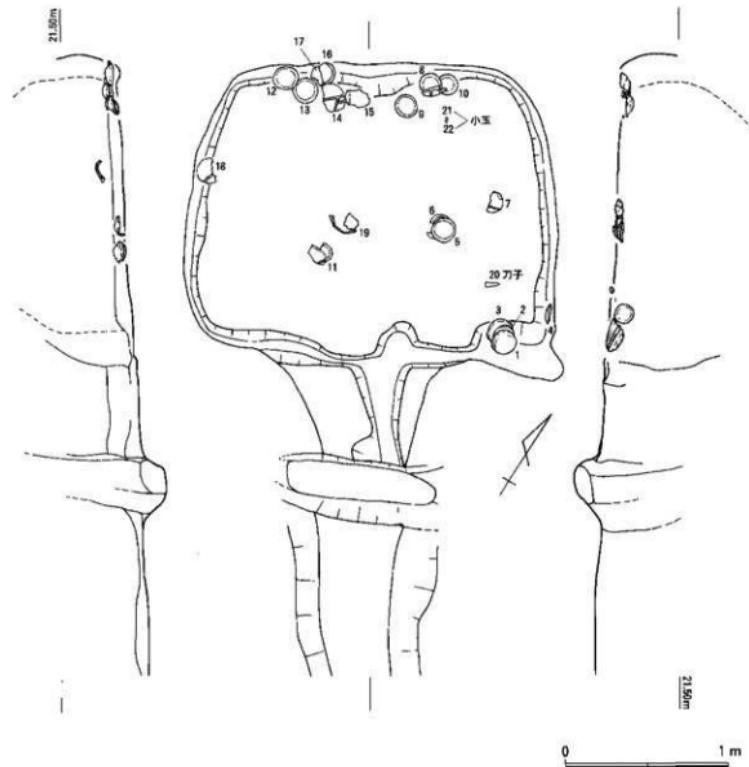
**出土遺物（第46図、巻頭カラー）** 1~18は壺蓋である。1は口径12.8cm、器高4.5cmを測る。大井部外面にヘラ切り後、回転ヘラ削りを施す。肩部には沈線を2条削らしている。口縁端部は僅かに外反し、内面に浅い沈線を廻らす。2は口径12.7cm、器高4.0cmを測る。肩部に2条の沈線を廻らし、稜を作り出している。口縁端部を丸く仕上げる。3~6は壺身で口径10.8~11.7cm、器高3.8~4.4cmを測る。底部外面に粗い回転ヘラ削りを施す。7は口径12.4cm、器高3.9cmを測り、大井部外面に回転ヘラ削りを施す。肩部には稜を作り出している。8は口径12.7cm、器高4.0cmを測る。大井部外面は変形し、「×」のヘラ記号が施されている。12は口径13.4cm、器高4.1cmを測る。大井部外面にヘラ切り後、丁寧な回転ヘラ削りを施す。肩部には2条の沈線で稜を作り出す。14は口径13.9cm、器高4.3cmを測り、12と同様な作りである。16は口径13.6cm、器高5.0cm、18は口径14.0cm、器高5.2cmと器高の高い壺蓋である。口縁端部内面に浅い1条の沈線を施す。13、15、17は口径11.1~12.3cm、器高4.2~4.6cmを測る壺身である。8と9、12と13、14と15、16と17は胎上、焼成などからセットと考えられる。11~18の焼成は不良である。19は口径11.2cm、器高13.7cmを測る十輪器の壺で、外面に丹塗りを施す。20は残存長3.5cm、幅2.4cmを測り、大刀または刀の鋒先と思われる。21、22は径が4~5mm



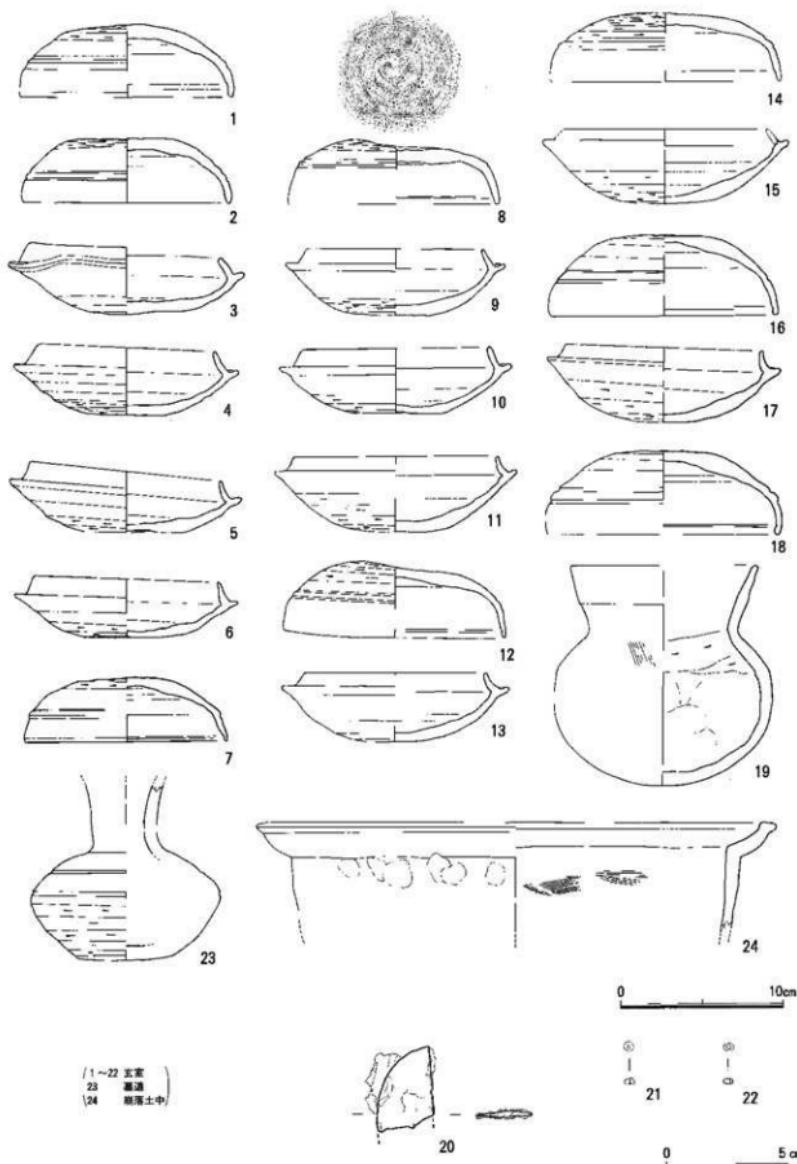
第44図 14号横穴墓実測図 (S - 1 : 60)

のガラス製の小玉である。23は壺と思われ、残存高10.8cmを測る。肩部上半に2条の沈線を廻らし、下半に回転ヘラ削りを施す。底部は平底である。24は土師質の鍋で口径32cmを測る。口縁部はやや内湾しながら逆「ハ」の字状に開き端部は肥厚する。中世のものと思われる。

時期 七層観察から2回の埋葬が行なわれたと推測される。玄室内の遺物は山雲4期に相当する。玄室内左側から出土した11~18の壺蓋は4期の中でも古相のものと考えられ、また胎土や焼成状態が同様である為、同時に置かれたと推測される。右側の蓋壺はよりやや新相のものと考えられる。14号横穴墓は4期の早い時期に初葬が為され、あまり時期差なく追葬が行われたと推測される。



第45図 14号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)



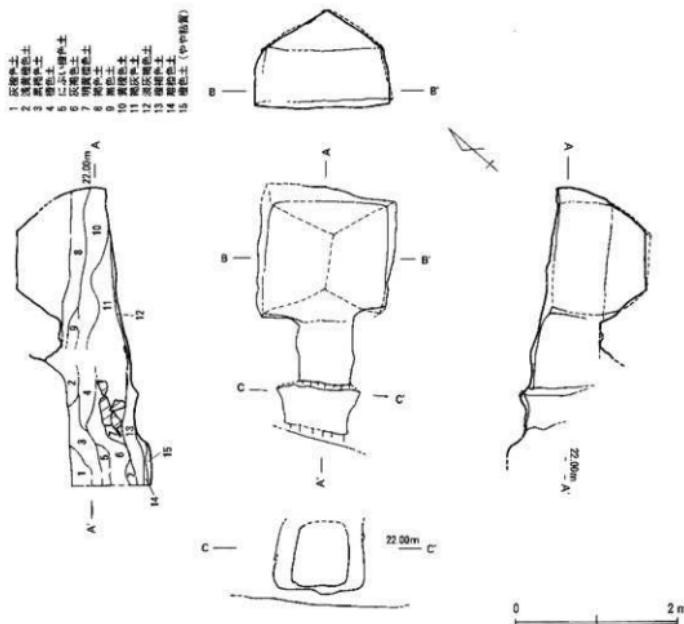
第46図 14号横穴墓出土遺物実測図 (S-1:3, 1:2)

### 15号横穴墓（第47、50図）

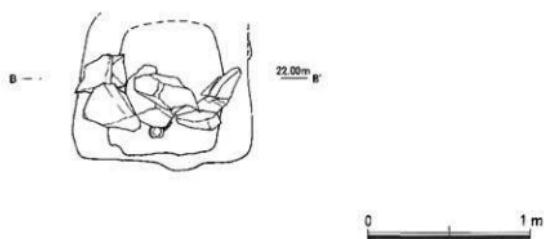
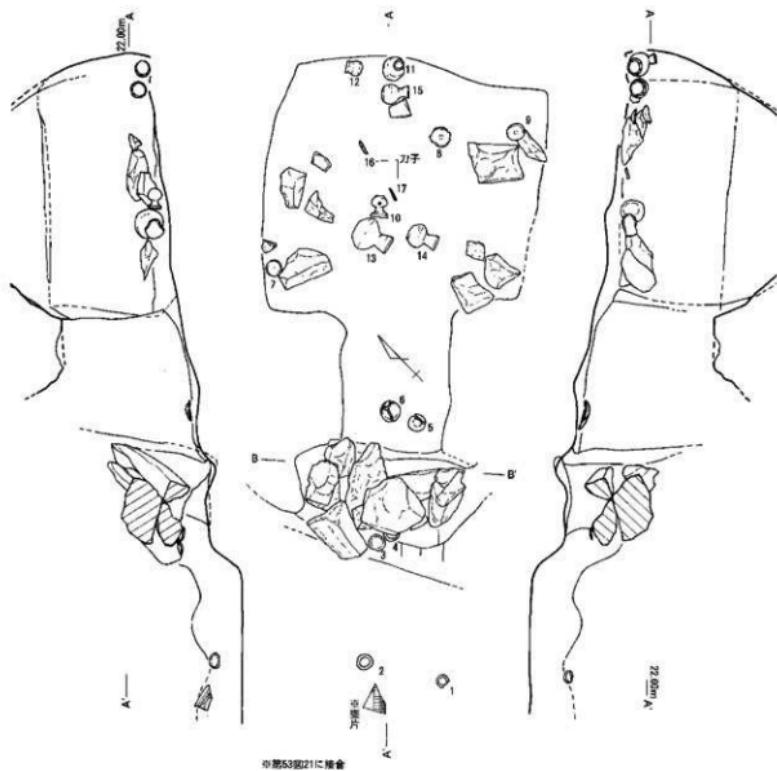
丘陵の南側斜面に位置し、16号横穴墓前庭右壁に穿たれた横穴墓である。S-39°-Wに開口し、標高は玄門入口で21.50mを測る。通常の横穴墓の造り方からすると、前庭の奥壁側に1穴掘削し、その後、側壁面に掘削すると考えられ、また後述するが、16号横穴墓前庭の土層断面を観察すると、16号横穴墓の初葬後、15号横穴墓に埋葬を行ったと推測される。15号横穴墓の墓道の痕跡は検出されおらず、16号横穴墓前庭を共有していた可能性が窺われる。

**玄門** 玄門は奥行き0.83m、幅は6.5cmを測る。手前側から玄室側に向かって緩やかに傾斜し、玄室側が15cm程度高い。天井部は一部崩落しているが、高さ70~80cmを測り、断面形態はアーチ形と推測される。玄門の前に墓道とは言えない短い平坦な所があり、検出時に閉塞石が全面を覆っていたことからここでは閉塞部と表現しておく。閉塞部は16号前庭床面から20cm高く、奥行き0.5m、幅0.75~1.0mを測る。

**玄室** 床面の規模は奥行き1.55m、幅は奥壁側で1.4m、前壁側で1.52mを測る。平面的にはほぼ正方形を呈する。床面は前壁側が低くなっている。天井や壁面は剥落したところが多いが、床面の四隅からは界線が立ち上がり、棟線へと続く。壁面には軒線も観察され、玄室の形態はテント系家形である。棺台に用いられたと思われる石が右壁側から4個、左袖側から3個、右奥壁側から2個、中央奥壁側から1個検出された。大きさは15~30cm大を測り、石は自然石である。



第47図 15号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)



第48図 15号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S - 1 : 30)

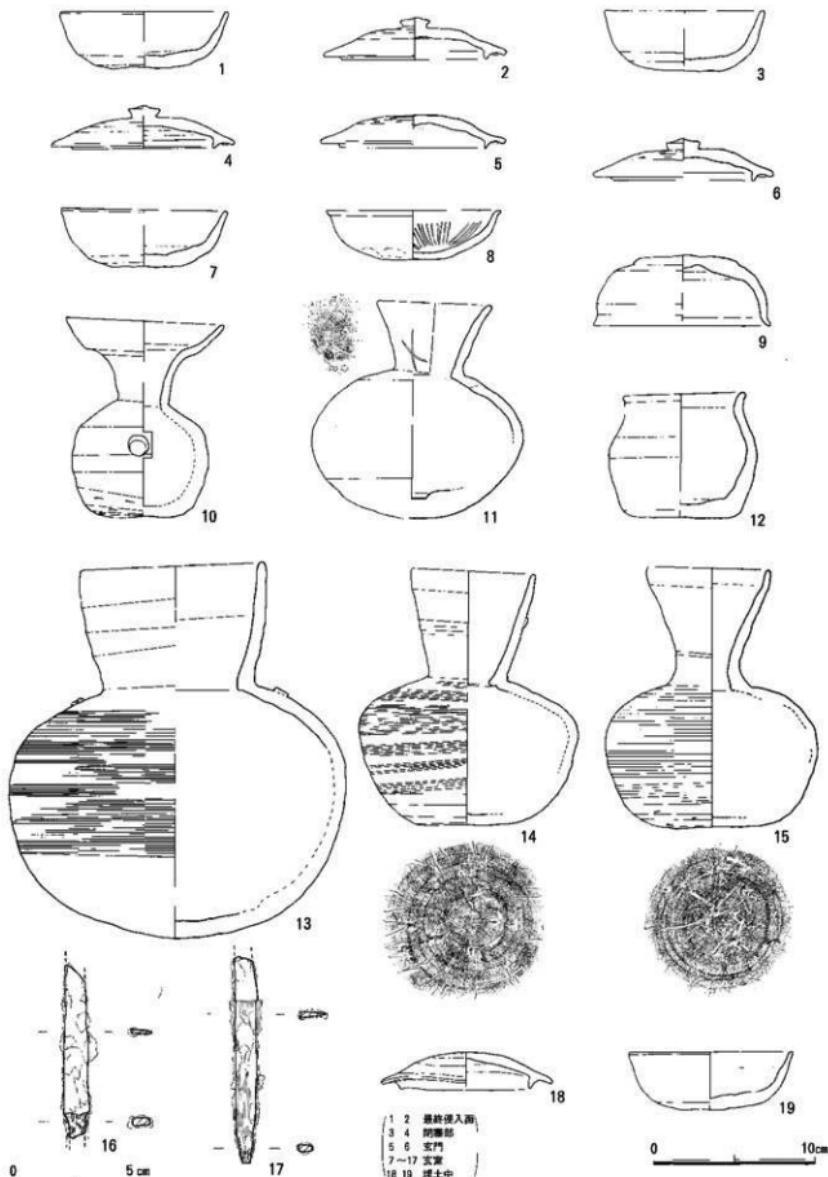
**堆積状況** 12～15層は初葬後の埋土と考えられる。玄門前面の13層上面からは閉塞石を検出した。12、13層上面からは遺物も出土しており、2次葬面と考えられる。7層は2次葬時の埋土であろう。1～6層は色的に区別したが土質や混入物は同じで、一度に埋め戻されたと考えられる。これらの土層は閉塞部から16号横穴墓前庭埋土を切って直交する様に前庭左側壁面付近まで続いている。1～6層の下面、7層上面は3次葬面と考えられ、閉塞石上面まで続いている。玄門の上層観察をしなかった為、閉塞部までの土層と玄室の土層の対応関係は不明である。土層断面から15号横穴墓は3回の埋葬が行なわれたと推測される。

**閉塞状況（第48図）** 玄門前面には大きさ20～50cmの自然石が10個程度積まれていた。堆積状況で触れたが、13層上面が追葬面と考えられるため、この閉塞石は2次葬時の所産と考えられる。閉塞石は玄門全面を覆っておらず、上面のレベルが6層下面に位置していることから、上積みされていた閉塞石はこの時点で除去された可能性が窺われる。閉塞部は玄門入口より10cm程度低く、床面には一部溝の痕跡がみられる。玄門前面の両側壁には削り込みが設けられていたため、初葬時には板状閉塞材で閉塞していたと考えられる。

**遺物出土状況（第48図）** 閉塞部前の6層からは蓋壺（1、2）と甕片が出土している。これらの遺物は3次葬時に土層が攪乱され、泥ざり込んだ2次葬時の遺物の可能性も考えられる。甕片は後で述べる16号横穴墓前庭埋土遺物の甕と接合し、この甕片も最終侵入時に埋土に混入したものと推測される。蓋壺（3～6）は12、13層上面にあり、2次葬時の遺物であろう。玄室内からは須恵器8点、（7、9～15）土師器1点（8）、鉄製品2点（16、17）が出土している。遺物は中央付近と奥壁側に多い。時期の違う遺物が混在しており、最終侵入時に置き替えられた可能性も考えられる。

**出土遺物（第49図）** 1、3、7は口径9.8～10.1cm、器高3.6～3.7cmの小型の壺である。2、4～6は口径8.6cm～8.9cm、器高2.0～2.6cmを測り、内側にかえりを持つ壺蓋である。天井部に擬宝珠つまみの付くものと、つまみのないものがみられる。8は土師器の壺で口径10.6cm、器高3.1cmを測る。口縁は僅かに外反し、内面に放射状の略文を施す。10の甕は口径9.7cm、器高12.4cmを測る。11、13は平瓶で11は頸部に「×」のヘラ記号を施す。13は頸部の付け根にボタン状の把手を貼り付けている。12は小形の短頸壺で、口径7.1cm、器高7.8cmを測る。他のものに比べると作りが雑である。14、15は長頸壺で胴部にカキ目を施し、底部外面にはヘラ記号がみられる。14の口頸部にはボタン状の粘土を1個貼り付けている。16、17の鉄製品は刀子と思われる。残存長は16が7.4cm、17が8.5cmを測り、末部には木質が残る。

**時期** 玄室内から出土した蓋壺は出雲6b・c期、平瓶、甕、長頸壺は5期以降と思われる。土師器の壺は畿内編年の飛鳥I期かII期に併行し、出雲5～6期に属すると考えられる。初葬の時期は出土遺物から5期または5期以降、2次葬は蓋壺3～6から出雲6b・c期と推定される。最終侵入について16号横穴墓の堆積状況で述べることにする。



第49図 15号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3, 1 : 2)

## 16号横穴墓（第50図）

丘陵の南側に位置し、標高は羨道部で21.5mを測る。前庭部奥端側から1.5m前端側の右壁に15号横穴墓が、同じく左壁に17号横穴墓が存在する。

**前庭部** 規模は長さ12.4m、幅は2.0m前後を測る。標高は羨道側で21.5mを測り、前端側に向かって傾斜し、高低差は1m程である。前庭部の主軸は羨道側では南東方向にあり、前端側に向かって徐々に東に振れている。

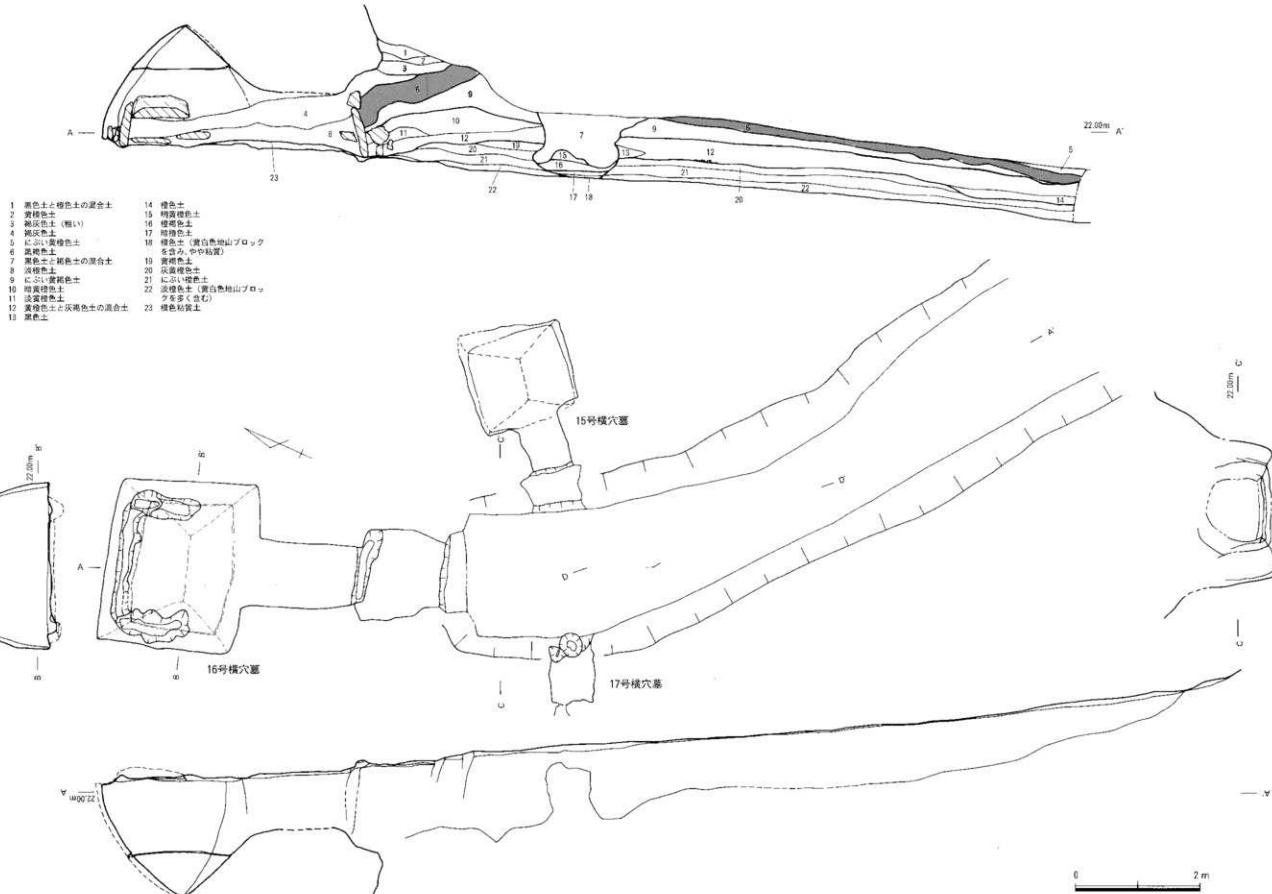
**羨道・玄門** 羨道は奥行き1.35m、幅は玄門側で1.45m、前庭側で1.05mを測り、奥側が開く形を呈する。天井が崩落しているため、高さや断面形態は不明である。床面は前庭部床面より8cm高く、羨道前面の両側壁には幅35cm程度の刷り込みが認められる。

玄門は奥行き1.78m、幅は玄室側で0.95~1.1mを測り、平面的にほとんど変化しない。天井部はほとんど崩落しているが、玄室側の一部残存するところで1.0mを測り、断面形態はアーチ形と推測される。床面は羨道床面より8cm高い。

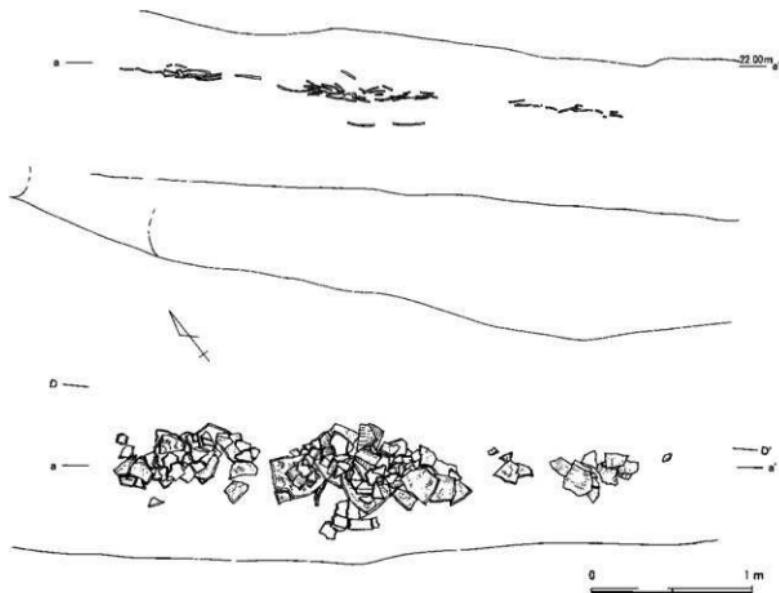
**玄室** 主軸をS-22°-Eにとる。床面の規模は奥行き2.25m、幅2.67mを測り、横長の長方形を呈する。床面の四隅からは界線が立ち上がり、そのまま天井部の棟線とつながる。大棟は線刻状のものである。床面から1.15mのところに軒線が加工され、玄室の形態は平入りのテント系家形である。天井は一番高い所で1.92mを測る。玄室奥壁に平行して石棺が1基置かれていた。石棺を取り除くと床面には石棺の裏壁と側壁を固定するための幅20~55cm、深さ10~15cmの溝が確認された。

**石棺（第55図）** 石棺は組み合せ式の横口式石棺である。奥壁、両側石、蓋石各1枚ずつ、床石には2枚の石材を使用している。また石棺の手前には敷石と思われる2枚の石材が置かれていた。石材には細粒酸性凝灰岩を用いている。検出時左側石は内側に倒れ、蓋石も傾いていた。奥壁は1.84m、高さ0.75m、厚さ約0.15mを測り、両側壁に内傾して立ててあった。側石は横幅0.66~0.77m、高さ0.72~0.74m、幅0.12mを測る。蓋石は長さ1.78m、幅0.65~0.92m、厚さ0.15mを測り、外側をやや丸く加工していた。床石は右が長さ0.53m、幅0.65m、左が長さ1.15m、幅0.54mを測り、厚さは一枚とも10cm程度である。敷石は長さ0.9~1.1m、幅0.5~0.68m、厚さ0.1m前後を測る。2枚の石の内側を押かに重ね、左側の石の下に2個の石を置いていた。蓋石の大きさ、側石の厚さから石棺の内法は1.50m前後と推定される。側石と奥壁の外側には20~50cmの石が置かれ、特に奥壁の外側には多くの石が詰め込まれていた。

**土層堆積状況** 19~22層は初葬時の埋土と考えられる。23層は橙色の粘質上で石棺の敷石の下まで確認され、初葬に伴う土層の可能性も考えられる。前庭部から玄門にかけての切り合いから19~20層上面が2次葬面と推定される。閉塞石、閉塞部前の遺物は21、22層上面から出土している。10~14層は2次葬後の埋土と考えられる。10層上面は右側閉塞石の手前に引き倒された面に相当する。また7層より南側の12層上面からは焼片が多数出しし、10層上面から12層上面にかけて3次葬面と推測される。4~9層は埋め戻し土、1~3層は堆積土であろう。7、15~18層は15号横穴墓の土層である。7層は15号横穴墓の1~6層、15層は7層、16~18層は13~15層に相当する。15号横穴墓の土層観察から初葬は前庭部床面、16層上面が2次葬面、7層下面が最終侵入面と考えられる。15号横穴墓の2次葬面は16号横穴墓の初葬後の埋土を切っている。7層は15号横穴墓の最終侵入後の埋土上、16号横穴墓の3次葬後の埋土、9層を切っている。以上のことから16号初葬→15号初葬→15号2次葬→16号2次葬→16号3次葬→15号3次葬と推定される。



第50図 15・16・17号横穴墓実測図 (S = 1 : 60)



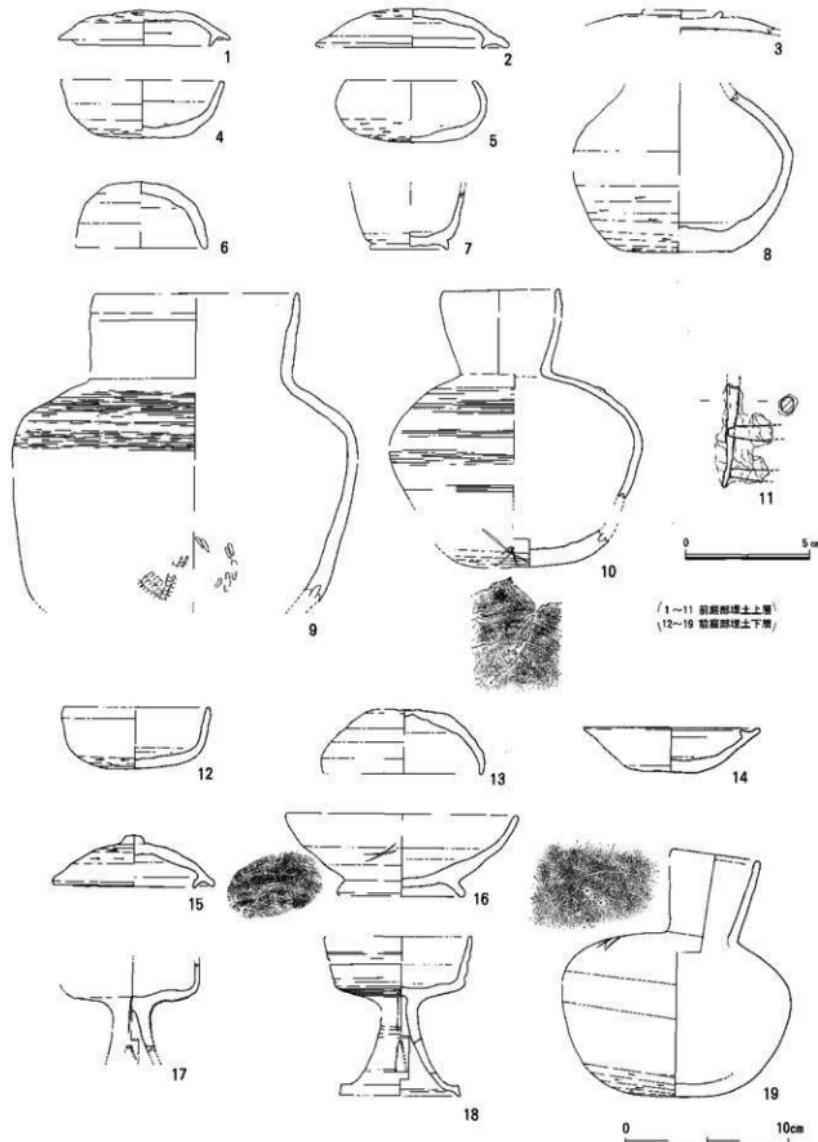
第51図 16号横穴墓前庭部甕片出土状況 (S-1 : 30)

**閉塞状況 (第55図)** 玄門前面に2枚の板状の石と自然石で閉塞をしている。奥側に板状の石を置き、その前側や横に20~40cm大の石を積み上げている。閉塞石は2枚を並べて置かれていたと思われるが、検出時には既に右側の石は倒れ、10層上面にのっていた。また羨道から前庭部にかけての石も10層上面から検出され、最終侵入時に石を動かし、閉塞石を倒して侵入したと推測される。閉塞石は21層上面に置かれ、2次葬時の閉塞と考えられる。

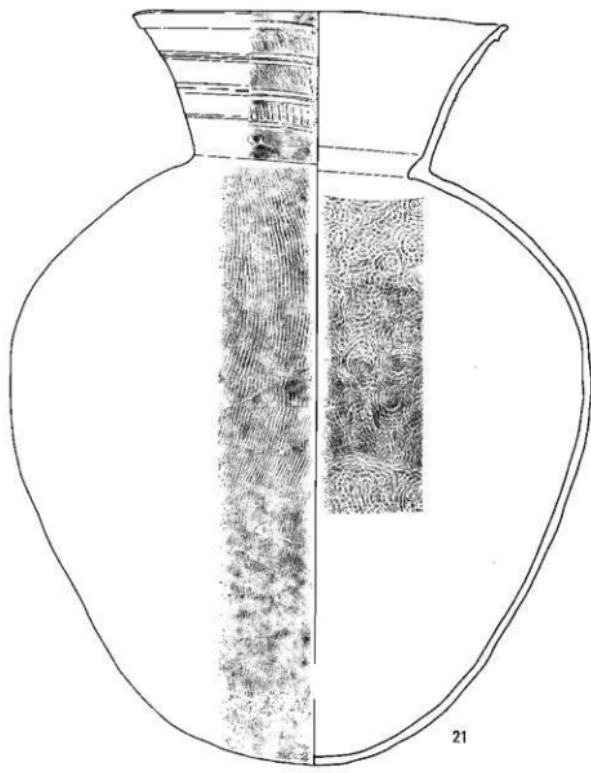
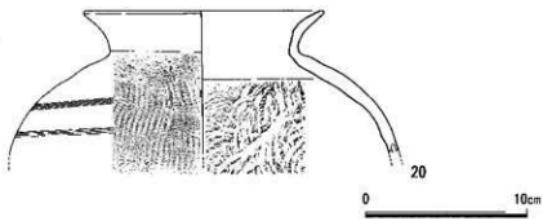
**遺物出土状況 (第51~55図)** 玄室の遺物は少なく、敷石上に埋土中から甕の口縁が、石棺の右側、側壁と壁面の間から高台付环(6)が出土している。閉塞石前面の右壁近くから上師器の甕(4)と高台付环(2、3)がセットで出土している。これらの遺物は2次葬面に置かれ、祭祀に用いらされたと考えられる。左壁側の同じ面から坏蓋(1)が出土しているが、右側の遺物とは時期に違いが見られる。閉塞石の間から平瓶(5)が出土している。

前庭部の埋土から多くの遺物が出土している。第52、53図の1~11は前庭埋土上層、13~17は下層の出土遺物である。18、19は2次葬面、12、21は3次葬面に伴う遺物である。15号横穴墓より南側の前庭埋土上層(3次葬面)からは、意図的に破碎された須恵器大甕1個体分が出土した。(第51図)

**前庭部出土遺物 (第52、53図)** 1、2は口径8~9cmを測る小型の坏蓋である。大井部につまみはなく、内側にかえりを持つ。3は輪状つまみの蓋である。4、5は口径10cm未満の小型の坏身で、5の口縁は内側に変形し、橢円形を呈する。6は蓋で口径7.8cm、器高4.1cmを測る。10の平瓶は胴部上



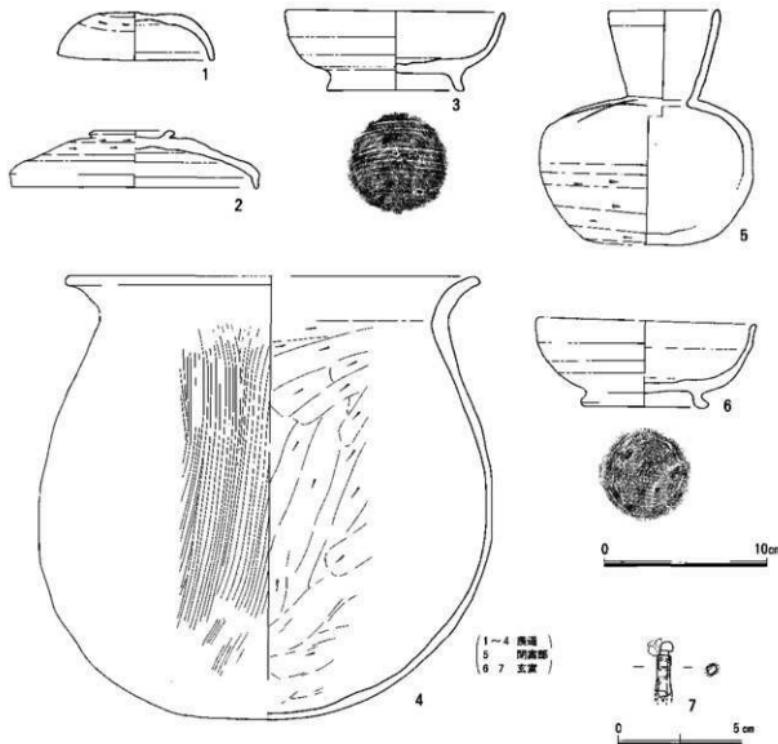
第52図 16号横穴墓前底部出土遺物実測図(1) (S = 1 : 3, 1 : 2)



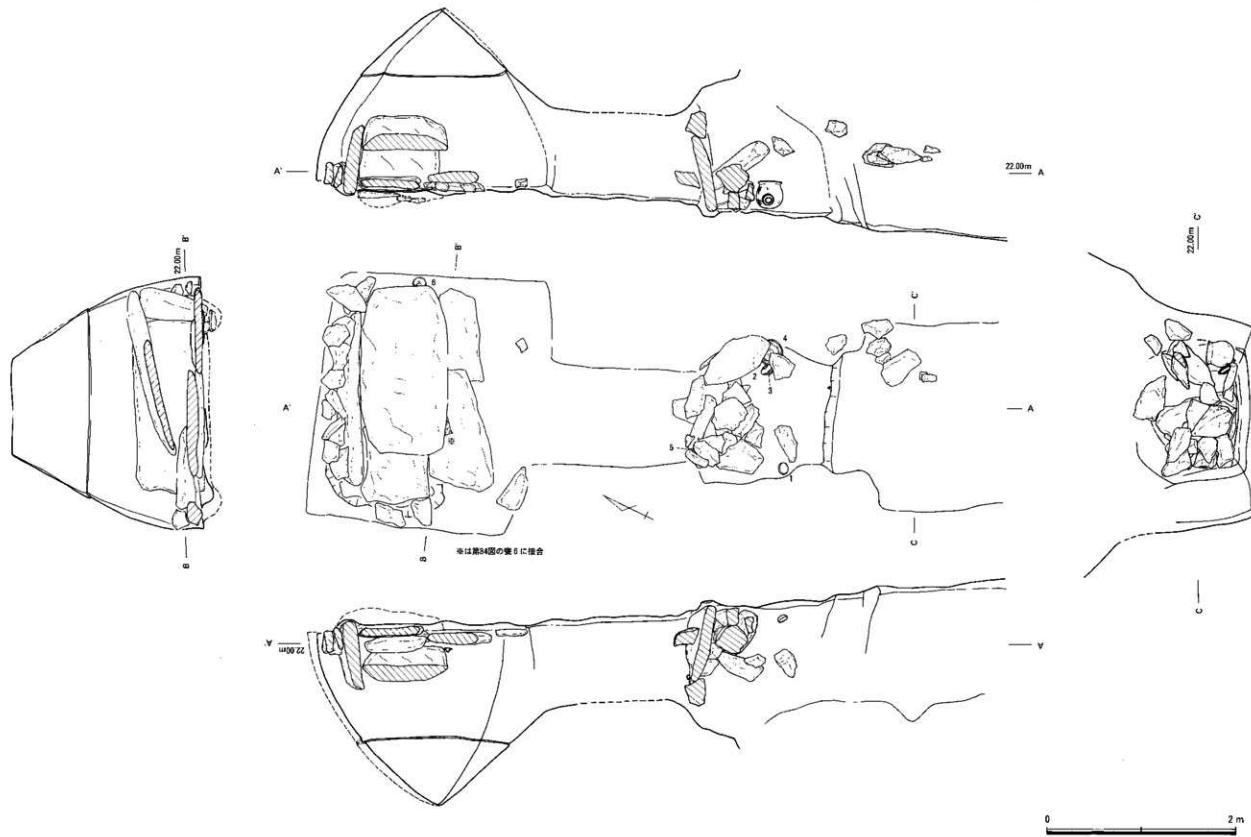
第53図 16号横穴墓前庭部出土遺物実測図(2) (S-1 : 3, 1 : 6)

半にカキ目を底部にヘラ記号を施す。11は馬具の鉸具の一部である。12は小型の壺で口径8.8cm、器高3.8cmを測る。3次葬面に伴う遺物であるが、埋土に含まれていたか別の場所から持ち込まれたものと思われる。15は乳頭つまみを有する蓋で口径7.3cm、器高3.2cmを測る。16は高台付壺で口径13.8cm、底径7.6cm、器高5.1cmを測る。高台は「ハ」の字状に開き、壺部は口縁端部にかけて大きく広がる。壺部外の中ほどにヘラ記号を施し、底部外にヘラ切り後ナテを行う。17、18は高壺である。18は口径8.7cm、器高10.0cmを測る。壺部外に沈線を廻らせ、底部に細かいカキ目を施す。脚部上段に切れ目を下段に三角形状の透かしを2方向に入れる。19は口径5.2cm、器高15.4cmを測る平瓶で肩部にヘラ記号を施す。21は口径44.8cm、器高93.2cm、胴部最大径70.8cmを測る大甕で、口頭部外に3段の沈線を廻らせ、その間に刺突文と波状文を施す。胴部外に平行タタキ、内面に当て只痕が残る。

羨道・閉塞部・玄室内出土遺物（第54図）1は口径9.5cm、器高3.0cmを測る小型の壺蓋である。2の壺蓋は口径15.1cm、器高3.5cmを測り、天井部に低い輪状のつまみを有している。口縁端部は下方に垂れ、直立する形となっている。3は高台付壺で口径13.2cm、底径8.4cm、器高5.0cmを測る。壺部は



第54図 16号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3, 1 : 2)



第55図 16号横穴墓石室・石棺・遺物出土状況実測図 (S-1:40)

やや内湾し、底部外山に静止の糸切り痕を残す。1は十師器の壺である。口径25.0cm、器高27.7cm、胴部最大径28.0cmを測り、胴部内面にヘラ削り、外面にハケ目を施す。5の平瓶は口径6.7cm、器高14.6cmを測り、肩部に「×」のヘラ記号がみられる。6は玄室内から出土した高台付壺で口径13.7cm、器高5.5cmを測る。高台の端部は肥厚し、壺部は内湾する。底部に静止糸切り後ナデを施す。7は弓の飾り金具の弦である。

**時期** 閉塞部前から出土した壺蓋と高台付壺、土師器の壺は2次葬時の遺物と

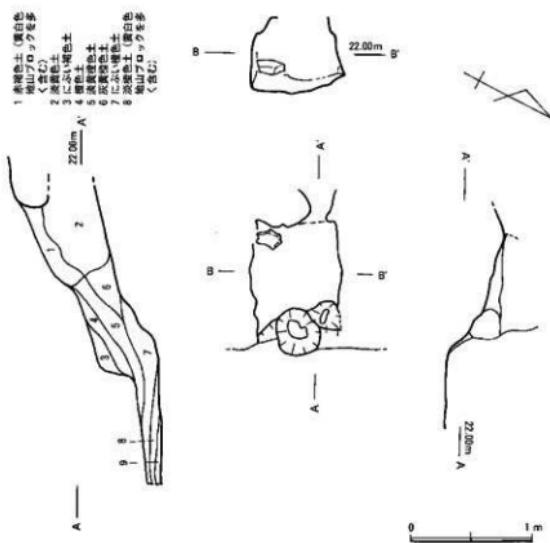
考えられ、出雲8期に相当する。同じ2次葬面から出土した壺蓋は6期と考えられ、埋葬に伴い前庭部を埋める一方、玄室内の遺物を持ち出し、新たな上器をも加えて祭祀を行った可能性も考えられる。閉塞部から出土した平瓶は5期に相当し、前庭部埋土からも5期に相当する高壺が出土している。玄室内から出土した静止糸切りの高台付壺は出雲8期と考えられ、追葬時の遺物と考えられる。15号横穴墓の初葬の時期が5期と考えられ、土層の切り合い、出土遺物からして、5期またはそれ以前に16号横穴墓の初葬が行われたと考えられる。最終侵入面から出土した確かな遺物は須恵器の壺しかなく、最終埋葬の時期は不明であるが、8期以降と考えられ、よって、15号横穴墓の最終侵入の時期も8期以降と推測される。

### 17号横穴墓（第56図）

17号横穴墓は前にも述べたように、16号横穴墓の前庭奥壁から1.5m前端側の左壁に穿たれた横穴墓である。N-65°-Eに開口する。前庭部床面より約30cm上方に奥行き1.0m、幅70cmの穴が掘られていた。犬井は崩落していたため高さは不明である。手前側には大小2つの窪みがあり、左奥壁側から角礫が1個検出された。奥壁は西隣の18号横穴墓玄室右壁に貫通していた。

土層の堆積状況から3～9層は少なくとも16号横穴墓前庭土層と関係あると考えられるが、十層観察をきちんとしていないため、不明である。十層の切り合いから1、2層は3～9層より後の土層で、2層には地山の黄白ブロックが多く含まれ、粗い上層であった。何らかの理由で3～9層を削削し、1、2層を埋め戻したと推測される。

遺物も皆無で、横穴の状態からみても17号横穴墓がお墓として使用されていた可能性は低いと思わ



第56図 17号横穴墓実測図 (S-1 : 40)

れる。

### 18号横穴墓（第57図）

18号横穴墓は丘陵の南側斜面、16号横穴墓の西隣に位置する。S-10°-Eに開口し、標高は玄門の入口で21.20mを測る。

**墓道** 規模は長さ4.5m、幅は玄門側で0.85m、前端側で0.38mを測り、狭長な墓道である。断面形態はじ字状を呈する。土軸は前端側がやや西側に振れています。

**玄門** 規模は奥行き0.65m、幅0.47~0.60mを測る。天井部は剥落しているところが多い。遺存するところで高さ0.75mを測る。断面形態は継長の長方形を呈する。玄門前面の側壁には幅20cm程の削り込みが設けられ、床面には奥行き35cm、深さ15cmの溝が掘られていた。

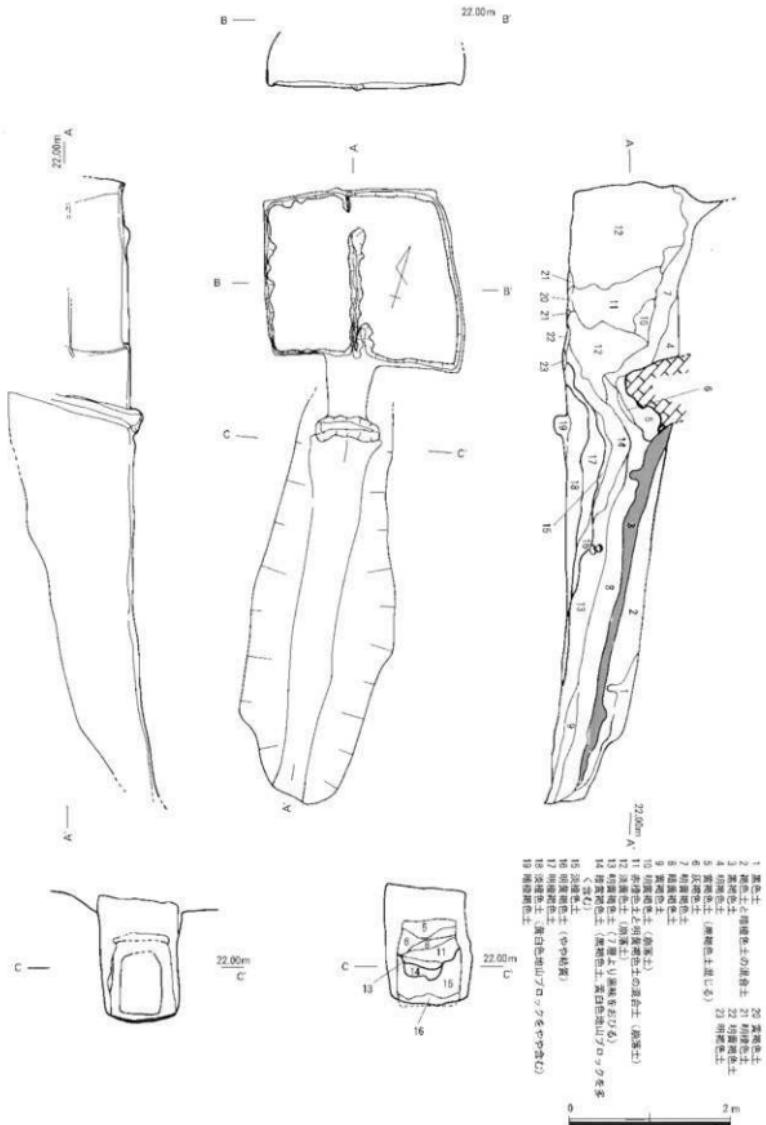
**玄門** 天井は崩落し、玄室内は天井の崩落土（地山ブロック）で埋め尽くされていた。床面の規模は奥行き2.23m、幅は玄門側で2.3m、奥壁側で2.1mを測る。四隅と中央には溝が掘られ、中央の溝には一部痕跡がみられない。溝は幅5~10cm、深さ4cm程度の浅い溝である。床面の右袖側を除く二ヶ所の隅からは界線が立ち上がり、壁面には一部軒線が認められた。玄室形態はテント系家形かドーム系家形と推測される。

**土層堆積状況** 18層は初葬時の埋土と考えられる。縦断上層からはわからないが横断土層から18層上面が侵入面（2次外面）と考えられる。16、17層は2次葬時の埋土と思われる。16層上面からは遺物が出土しており、16、17層上面は侵入面（3次葬面）と推定される。15層は3次葬時の挿き出し土と思われる。16層も挿き出し土の可能性が考えられ、17、18層上面が3次葬面の可能性も窺われる。14層は黒褐色土と地山の黄白色ブロックを含む土層である。14、15層は3次葬時の埋土と考えられる。10~12層は天井の崩落土、1~9層は堆積土である。

**遺物出土状況（第58図）** 墓道の16層上面から甕（27）が出土している。玄室内からは蓋坏9点（1~9）、短頸壺（10）、小型の壺（11）、刀子（14）、耳環1セット（12、13）、玉類12点（15~26）が出土した。蓋坏は右袖側からまとまって出土している。追葬時に片付けられた可能性も窺われる。小型の壺は蓋坏の上方から出土し、土層的には崩落土中に含まれていた。刀子、耳環、玉類は中央溝の奥壁側周辺から出土している。

**出土遺物（第59図、巻頭カラー）** 1の蓋坏は口径12.7cm、器高4.3cmを測る。天井部外面に浅い回転ヘラ削り後ナデを施す。肩部に2条の沈線を廻らせ、ナデつけることによって稜を作り出している。2は口径10.7cm、器高4.4cmを測り、底部に浅い回転ヘラ削りを施す。3の坏蓋は口径13.0cm、器高4.2cmを測り、天井部外面に回転ヘラ削りを施し肩部には稜を持つ。6の坏蓋は口径13.0cm、器高4.7cmを測る。内面の口縁端部に浅くて細い沈線がみられる。8の坏蓋は口径12.5cm、器高4.2cmを測る。

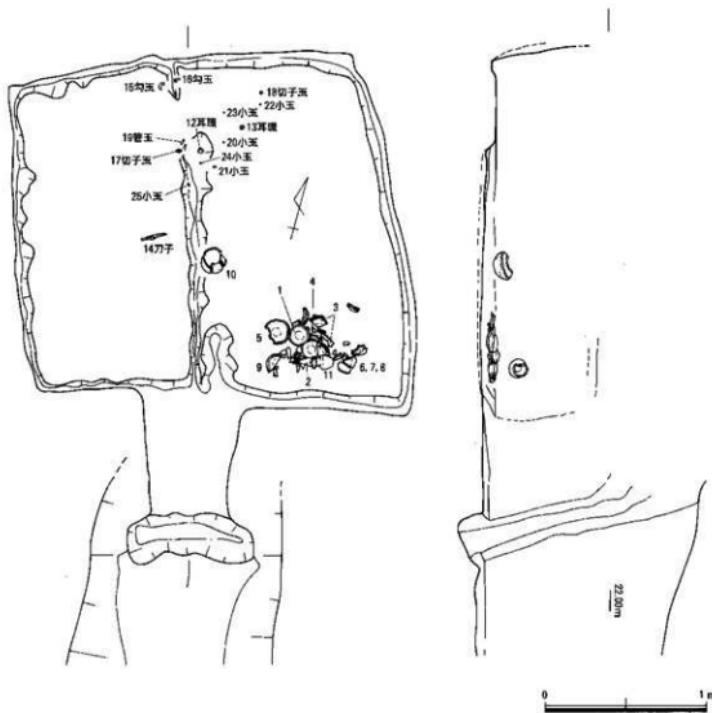
天井部外面に回転ヘラ削りを施し、肩部に稜を持つ。胎土は荒く、1mm以下の砂粒を多く含んでいる。4、5、7、9は口径11.2~11.9cm、器高4.1~4.4cmの坏身である。1、2と3、4は焼成、胎土などからセットと考えられる。10の短頸壺は口径7.8cm、器高10.9cmを測る。肩部に2条の沈線を廻らせ、その間に波状文を施す。焼成は不良である。11は口径7.3cm、器高11.3cmを測る蓋である。胴部上半にカキ目を施している。27は墓道から出土した甕で口径12.0cm、器高15.7cmを測る。口縁は逆ハの字状に開き、肩部は丸みを帯びる。頸部上半に沈線と波状文を施す。胴部の肩部にも2条の沈線を施し、その間に波状文を廻らせる。14の刀子は残存長16.7cm、刃幅1.4cmを測り、切先を僅かに欠く。



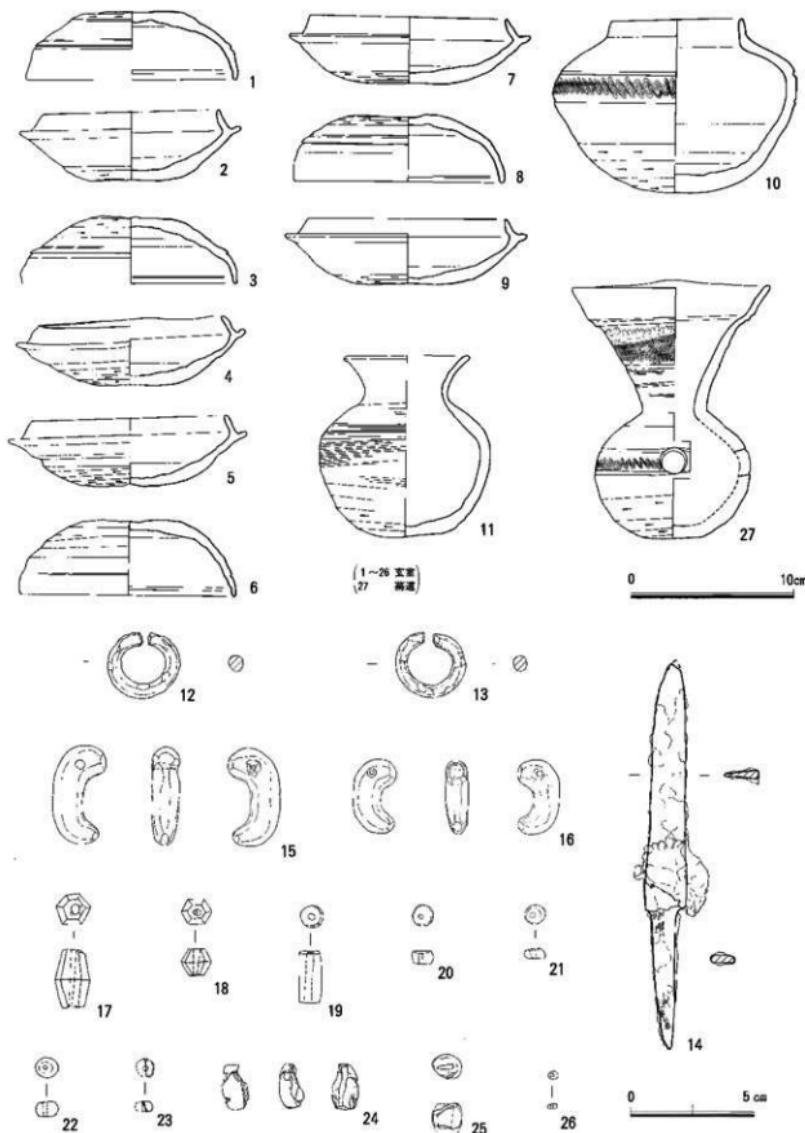
第57図 18号横穴墓実測図 (S-1 : 60)

両側で茎部には木質が付着する。12、13の耳環は外径2.8cm程で鍍金が剥離し、緑青が付着する。15～26は七類である。15は瑪瑙、16は水晶の勾玉、17、18は水晶の切子玉である。19の管玉は碧玉製で両面穿孔している。20の小玉は土製、24、25は琥珀の畫玉である。

**時 期** 出土した蓋環は山雲4期に相当する。1、2の蓋環の口径や器高は他のものと変わりないが、調整の仕方に違いがみられ、時期差が窺われる。墓道の3次葬面から出土した鰐も4期である。上層観察から18号横穴墓は3回の葬送行為が行われたと推定され、出雲4期のうちに埋葬が終了したと推測される。



第58図 18号横穴墓玄室内遺物出土状況実測図 (S - 1 : 30)



第59図 18号横穴墓出土遺物実測図 (S-1 : 3, 1 : 2)

## 21号横穴墓（第60図）

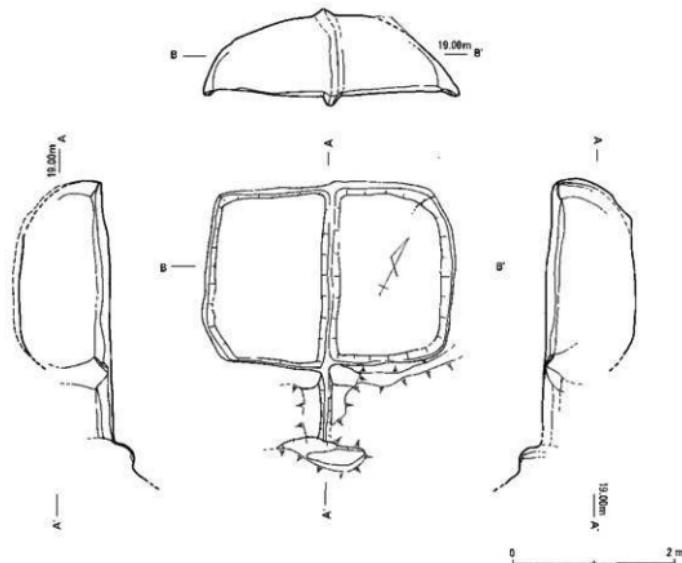
21号横穴墓は造成工事中に発見された横穴墓である。発見されたときには閉塞部と玄門の一部、玄室を残すのみで、土層の堆積状況も不明である。崩落の危険性がある為、天井部は実測後すぐに除去し調査を続けた。標高は玄門で約18.5mを測る。

**玄門・閉塞部** 残存する床山の規模は奥行き0.85m、幅0.65mを測る。中央には玄室から続く幅24cm、深さ10cmの溝が掘られ、閉塞部まで続いている。玄門の形態、高さは不明である。玄門の床面より37cm下方に、僅かに浅い溝が認められ、閉塞部の一部と考えられる。

**玄室** 主軸をS-24°-Eにとる。床面の規模は奥行き2.26m、幅2.65~3.05mを測り、横長の長方形を呈する。四周と中央には幅10~25cm、深さ5cmの溝が掘られていた。床面の四隅からは界線が立ち上がり、壁面の途中まで確認される。天井頂部の玄門側から奥壁側にかけて、9号横穴墓と同じような、幅15~20cm、深さ10cm、断面「へ」状の削り込みが認められた。削り込みは奥壁側から玄門側に向かって主軸が西に振れている。削り込み部分を除く天井の一番高い所で1.0mを測り、玄室の形態はドーム形と考えられる。左側床山の奥壁側から2個、中央溝付近2個の石が検出された。石は自然石で大きさ15~30cmを測る。

**遺物出土状況（第61図）** 玄室内からは蓋壙1セット（1、2）、壺（3）、人骨が出土している。人骨と壺蓋は左側床山の奥壁側から、壺身は左奥隅から、壺は奥壁の中央から出土した。人骨は数片で、床面上の土をふるいにかけたが歯や他の骨は見つからなかった。

**出土遺物（第62図）** 1の壺蓋は口径13.7cm、器高4.7cmを測る。天井部外面上に同軸ヘラ削りを施し、



第60図 21号横穴墓実測図 (S - 1 : 60)

肩部に1条の沈線を廻らせる。口縁端部は緩い段状を呈する。2の杯身は口径12.0cm、器高4.2cmを測る。3は口径14.9cm、器高25.9cm、胴部最大径25.0cmを測る壺である。胴部外面は平行タタキの後にカキ目を施し、内面には当て具痕が認められる。

時 期 蓋環は出雲4期に相当する。初葬の時期や追葬については不明であるが、少なくとも4期のうちに1回は埋葬行為が行われたと考えられる。

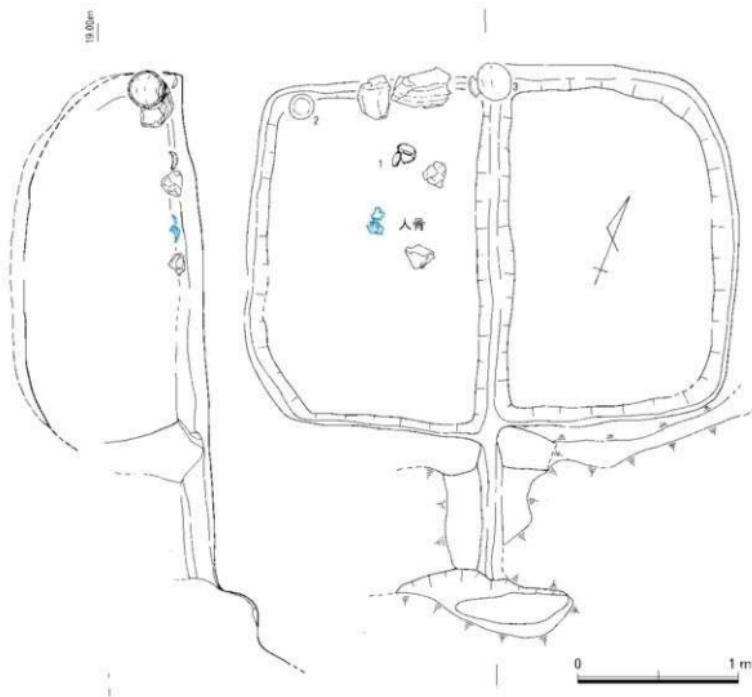
## 19. 20. 22横穴墓（第63図）

19、20、22号横穴墓は丘陵の西側斜面に位置する。19、20号横穴墓は15年度調査で確認された横穴墓である。調査範囲が限られていた為、玄門から玄室にかけて調査を行った。16年度工事範囲が拡張され、立会調査を行ったところ22号横穴墓が発見された。調査を進めると、19、20、22号横穴墓は1つの前庭を共有する3つの横穴墓であることが確認された。前庭部の奥側に20号横穴墓、右側壁面に19号横穴墓、左側壁面に22号横穴墓が存在する。22号横穴墓の前庭部埋土、黒色土上面からはS-X-02を検出した。

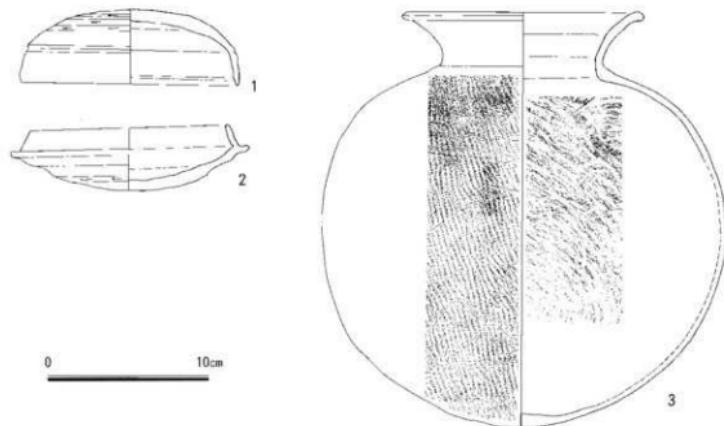
前 庭 主軸をS-38°-Wにとる。確認した床面の規模は長さ4.0m、幅は20号横穴墓前で1.9m、前端側（南西側）で1.2mを測る。床面は前端側に向かって緩やかに傾斜している。断面形態は逆台形を呈する。

**土層堆積状況（第64図）** 前庭部の奥側20号横穴墓を最初に構築し、その後19、22号横穴墓を掘削したと考えられる。上層断面H-H'28層は20号横穴墓前の左側床面だけにあり、20号横穴墓の初葬時の埋土であろう。その後に28匁をきって19号横穴墓に初葬を行い、25、26、27層で埋め戻しを行った。17層は22号横穴墓前の前庭から閉塞部にかけてみられ、22号横穴墓の初葬時の埋土と考えられる。床面から28層、17層、27層の順に確認され、初葬は20→22→19号横穴墓の順に行われたと推定される。19号横穴墓の閉塞石は床面と25層上面から出土している。初葬時に置かれた閉塞石が25層上面で侵入した際に動かされたと考えられ、25層上面は19号横穴墓の2次葬面である。23、24層は分層してあるが、同色の土層で2次葬後の埋土、22層は地山ブロックを多く含み、崩落土と考えられる。G-G'の上層断面から13、14層は17層をきっている。13層下面は侵入面と考えられ、その面は20号横穴墓前まで続いており、22号横穴墓の2次葬面である。H-H'の21層はその時の掻き出し土であろう。13層は20号横穴墓の2次葬時の埋土と思われる。G-G'の切り合いで11、15、13、17層上面は22号横穴墓の2次葬面で、17層上面には閉塞石が置かれていた。また、13層上面は20号横穴墓前まで続いており、20号横穴墓の3次葬と22号横穴墓の2次葬は同時に行われた可能性がある。12層は22号横穴墓の2次葬時の埋土で、12層上面からは遺物が出土し、その面は閉塞石上面と一致する。22号横穴墓の3次葬面で、6～10層はその後の埋土である。G-G'5層下面からII-II'3層下面是切り合いで侵入面と考えられ、20号横穴墓の4次葬面である。以上の上層観察から20（初）→22（初）→19（初）→19（2次）→20（2次）→20（3次）、22（2次）→22（3次）→20（4次）と推測され、19号横穴墓に2回、20号横穴墓に4回、22号横穴墓に3回埋葬が行われたと推定される。3層は20号横穴墓の4次葬後の埋土、1層はS-X-02の埋土である。

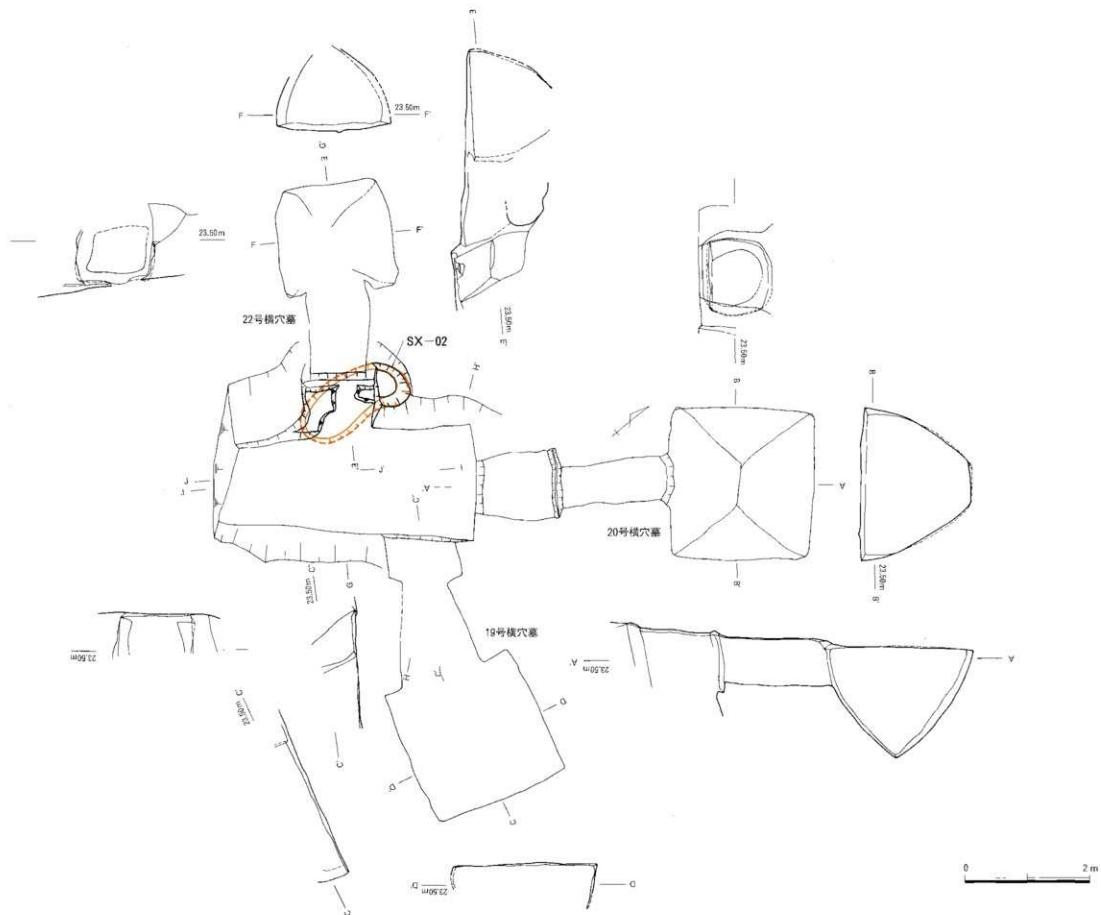
**前庭部遺物出土状況（第65図）** 前庭の前端側（南西側）からは遺物がまとまって出土している。子持壺は3層上面から出土しており、企形がわかるものはないが、4～5個体あると思われる。親壺や脚部片（2～7、9～15）が重なって出土した。その下の32層上面からは壺片、長頸壺（16）、轟の



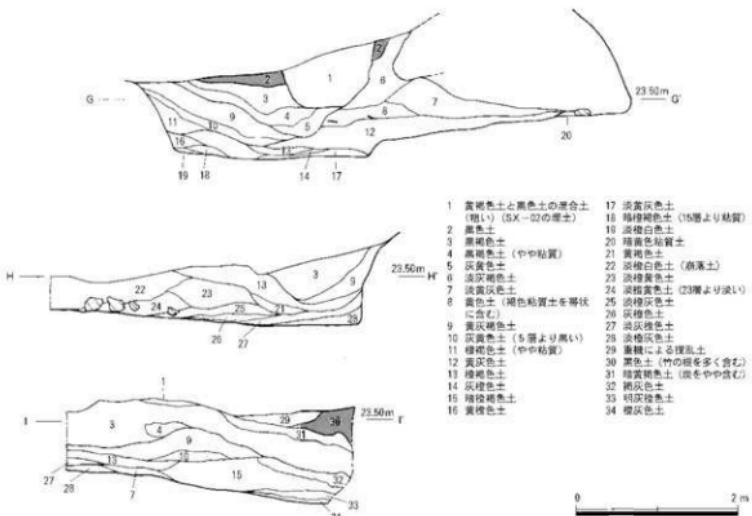
第61図 21号横穴墓遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)



第62図 21号横穴墓出土遺物実測図 (S = 1 : 3)



第63図 19・20・22号横穴墓実測図 (S=1:60)

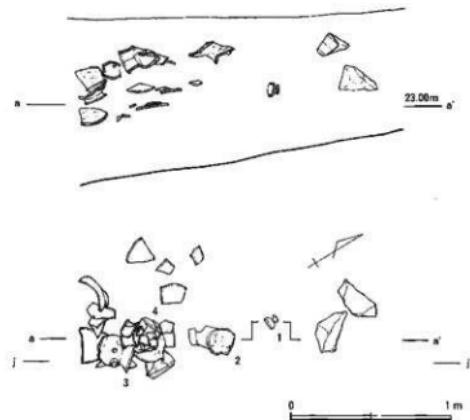


第64図 19・20・22号横穴墓土層断面図 (S = 1 : 60)

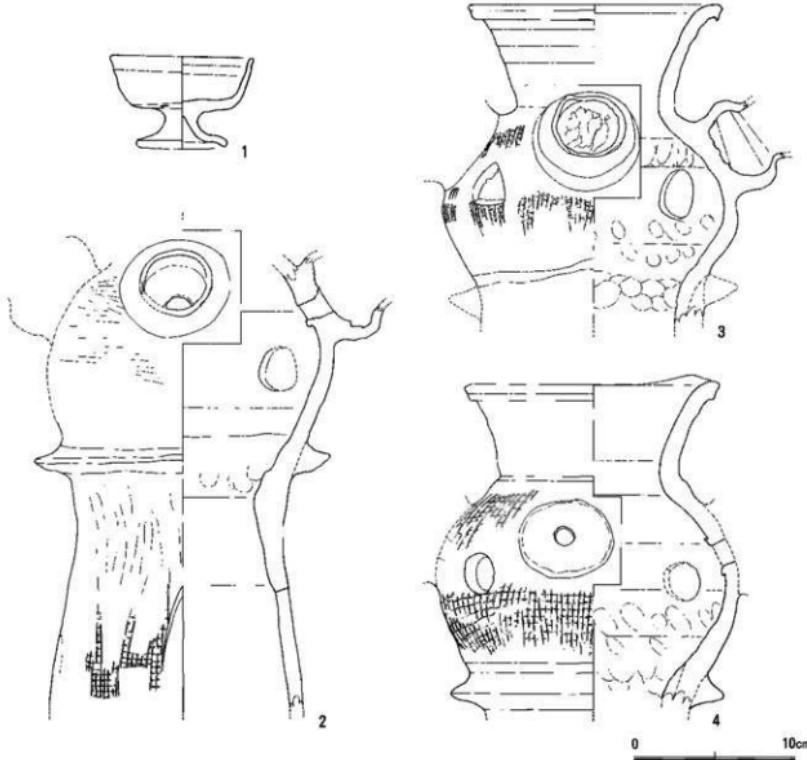
口縁（17）、高環（1）が出土した。この壺片と12層上面の壺片は接合し1個体（21）に復元された。13層上面からは脚付壺（18）が出土した。

**前庭部出土遺物**（第66～68図） 1は口径8.9cm、器高5.7cmを測る小型の高環である。2は子持壺の親壺の胸部から脚部である。残存高29.0cm、胴部最大径17.6cm、突帯部径18.3cmを測る。親壺の底部は存在せず、四方に円孔を穿つ。親壺肩部に底のある子壺4個を接合し、子壺底部と親壺底部を同時に穿孔する。親壺と脚部の境には突帯を廻らせる。脚部には円形と三角状の透かしがみられる。親壺外面は回転ナデ後カキ目、内面は回転ナデを施し、親壺と脚部の接合部内面には指で押された痕が残る。脚部外表面は平行タタキ及び工具による継ナデ、内面は縦、横のナデを施す。子壺は内外面共回転ナデである。3は親壺である。口径15.4cm、残存高19.8cm、胴部最大径18.3cmを測る。親壺肩部に4個の子壺を接合している。穿孔はしていない。四方に凸形と三角状の孔を穿つ。脚部下側には突帯を貼り付けた痕跡が残る。口縁、子壺の外表面には回転ナデを施す。胴部外表面は平行タタキ後ナデ、内面には指で押された痕が多く残る。4も親壺である。口径14.7cm、残存高20.7cm、胴部最大径18.5cm、受部径16.6cmを測る。肩部には子壺4個を貼り付け、穿孔した痕跡が残る。四方に円孔を穿つ。脚部との境に突帯を廻らせている。口縁内外面とも回転ナデを施す。胴部外表面は平行タタキ、内面は回転ナデを施し、指押さえの痕跡が残る。5、6、8は親壺の口縁と思われる。推定口径は5が15.0cm、6が14.7cm、8が14.5cmを測る。内外面とも回転ナデを施す。7は子壺の口縁と思われ、口径8.6cmを測る。9は脚部で残存高13.5cm、推定最大径は18.7cmを測る。円形の透かしと外面上に2条の沈線を廻らせる。外表面は工具による継ナデ後ナデ、内面は斜め方向のナデを施す。10、11も脚片で外面上に沈線がみられる。外表面は工具による継ナデ、内面は斜め方向のナデを施す。12、13は脚端部である。14は

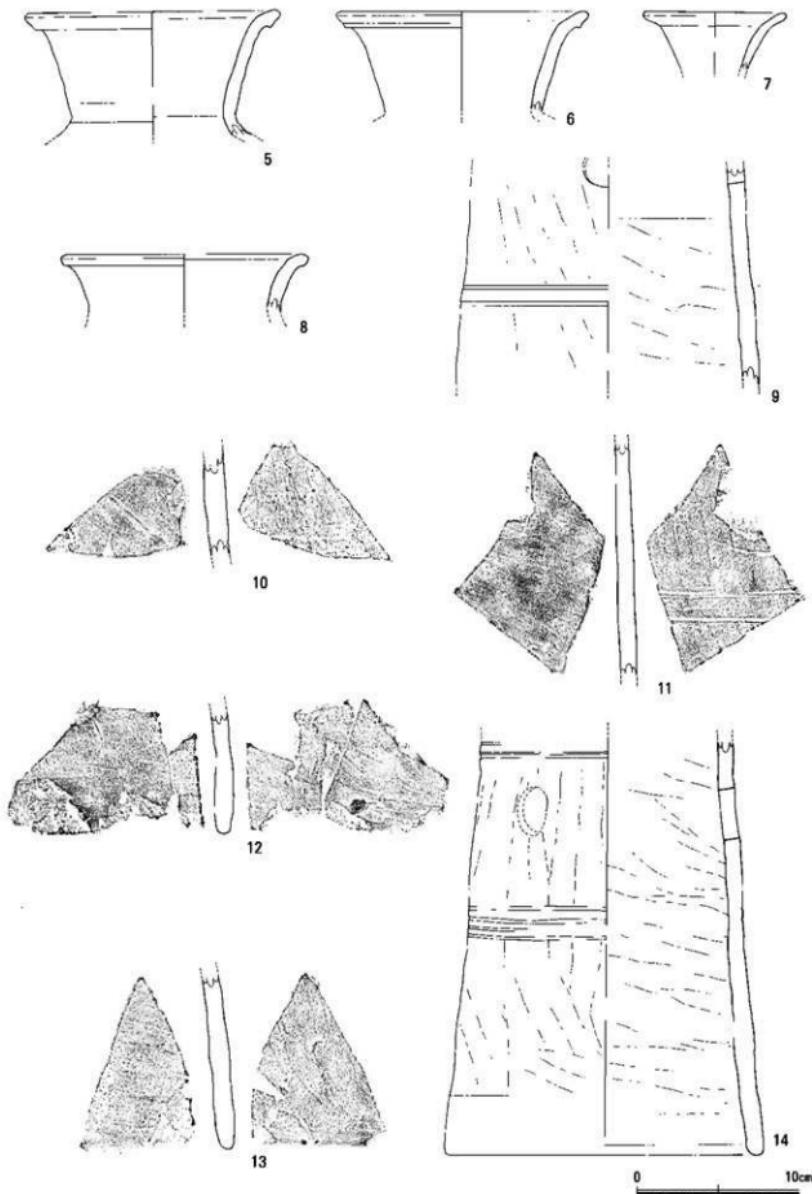
残存高25.6cm、推定底径19.0cmを測る。外間に2~4条の沈線を廻らせ、その間に円形の透かしを入れる。外筋は工具による縦ナデ、端部は横ナデ、内面は横及び斜め方向のナデ、端部は横ナデを施す。15は残存高18.3cm、推定胴部最大径21.7cmを測る。外間に2~3条の沈線を廻らせ、その間に円形の透かしを入れる。内面の上半に指押さえの痕が残る。16は口径9.0cm、器高21.6cm、底径10.5cmを測る長頸壺である。口頭部に2条の沈線を廻らせ、胴部との境に1個のボタン状の粘土を貼り付ける。底部外面はへら切り後ナデを施



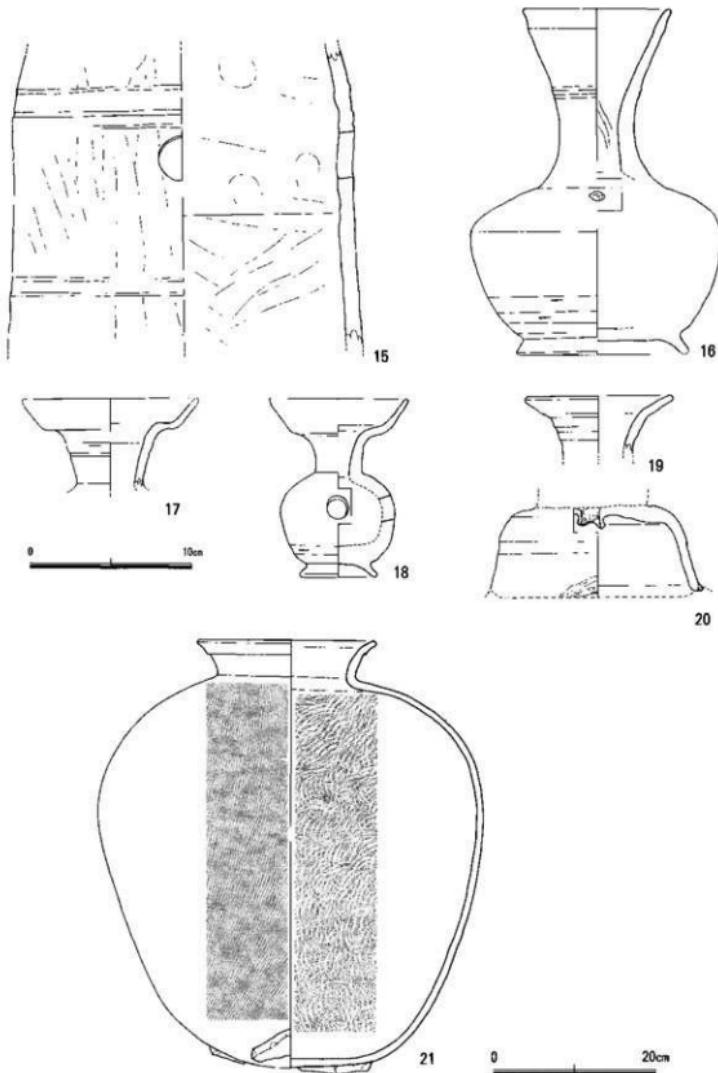
第65図 19・20・22号横穴墓前庭部遺物出土状況実測図 (S=1:30)



第66図 19・20・22号横穴墓前庭部出土遺物実測図(1) (S=1:3)



第67図 19・20・22号横穴墓前庭部出土遺物実測図(2) (S = 1 : 3)



第68図 19・20・22号横穴墓前部出土遺物実測図(3) (S = 1 : 3, 1 : 6)

す。17は腹の口縁と思われる。18は口径8.3cm、器高11.1cm、底径4.3cmを測る脚付の瓶である。19は千歳の口縁と思われる。20は器種の不明な土器である。上口も不明であるが一応蓋状のものとして実測を行った。口径約12.4cm、器高5.7cmを測る。天井部には貼り付け痕が残り、中央には外側から内面に向かって穿孔した痕がみられた。口縁は擬口縁とみられ、端部の4ヶ所には半円状に何かを貼り付け、撫でた痕が残る。21の甕は口径21.4cm、器高54.2cm、胴部最大径47.6cmを測る。底部には焼き台と思われる須恵器が付着している。口縁は内外面共回転ナデ、胴部外面は平行タタキ後粗いカキ目を施し、内面には当て具痕がみられる。

子持壺は形態、子壺の数などから出雲4、5期に相当すると考えられ、16の長頸壺は出雲6期後半～7期とみられる。

#### 19号横穴墓（第63、70図）

19号横穴墓は前庭部奥端からすぐ右側の側壁に穿たれた横穴墓である。羨道、玄門から玄室の天井部は崩落や重機によって削平されている。玄室の主軸はN-75°-Wにとり、羨道、玄門の主軸はN-56°-Wにとり、羨道玄門側が北に振れている。

**羨道・玄門** 羨道は奥行き0.7m、幅1.15mを測る。玄門は奥行き1.5m、幅は羨道側で0.73m、玄室側で1.4mを測る。床面は前庭部に向かって緩やかに傾斜している。

**玄室** 奥行き2.2m、幅2.25mを測る。床面の標高は23.2mを測る。床面の四隅には界線が僅かに確認され、玄室形態はドーム形もしくはテント形と推測される。左奥壁側床面から6個、前壁側床面から5個の石が検出された。石は自然石である。

**閉塞状況** 玄門の入口からは10～45cm大の石が約30個検出された。床面に2個の大きな石を置き、その間を小さな石で埋めている。土層の堆積状況のところで触れたが、石の上面は追葬面と考えられ、初葬時に石で閉塞し、追葬時に石を動かして侵入したと推測される。

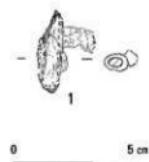
**出土遺物** 出土した遺物は玄室床面の上を篠にかけた際に発見された環玉1点だけで、半分程度しか残っていない。材質は琥珀である。

**時期** 時期のわかる遺物がない為不明であるが、十戸観察から20、22号横穴墓の初葬後と考えられる。

#### 20号横穴墓（第63、72図）

20号横穴墓は前庭奥壁側に穿たれた横穴墓である。主軸をS-38°-Wにとり、標高は羨道で23.0mを測る。

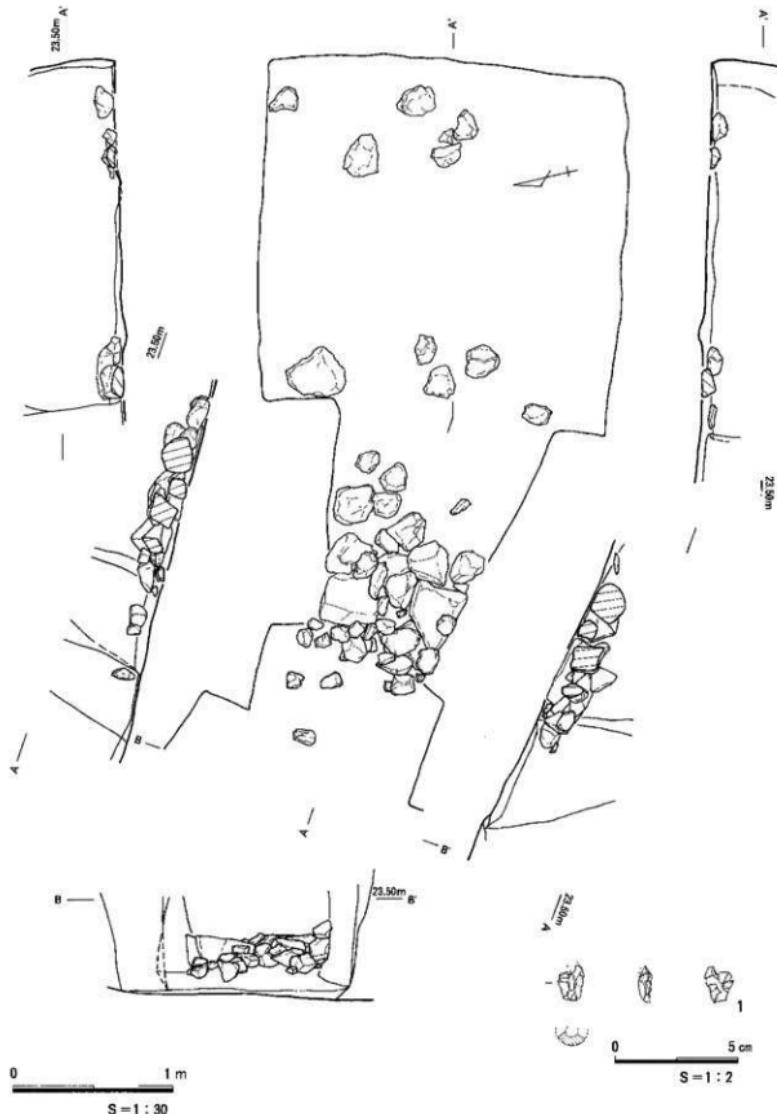
**羨道・玄門** 羨道は前庭床面より10cm高い。奥行き1.37m、幅は前庭側で0.82m、玄門側で1.10mを測る。玄門は奥行き1.68m、幅0.65m、高さ0.85mを測る。断面形態は横広のアーチ形を呈する。床面は玄門から羨道にかけて緩やかに傾斜している。平面的には羨道、玄門の意字型の形態をとっているが、羨道部には天井が存在していない。崩落した可能性も考えられるが、埋土中に崩落土も混入しておらず、玄門の大井部から上部にかけて崩落の痕跡もみられなかった。床面は意字型であるが、羨道部に天井のない特異な形態なのかもしれない。



第69図 SX-02出土遺物

実測図

(S-1:2)



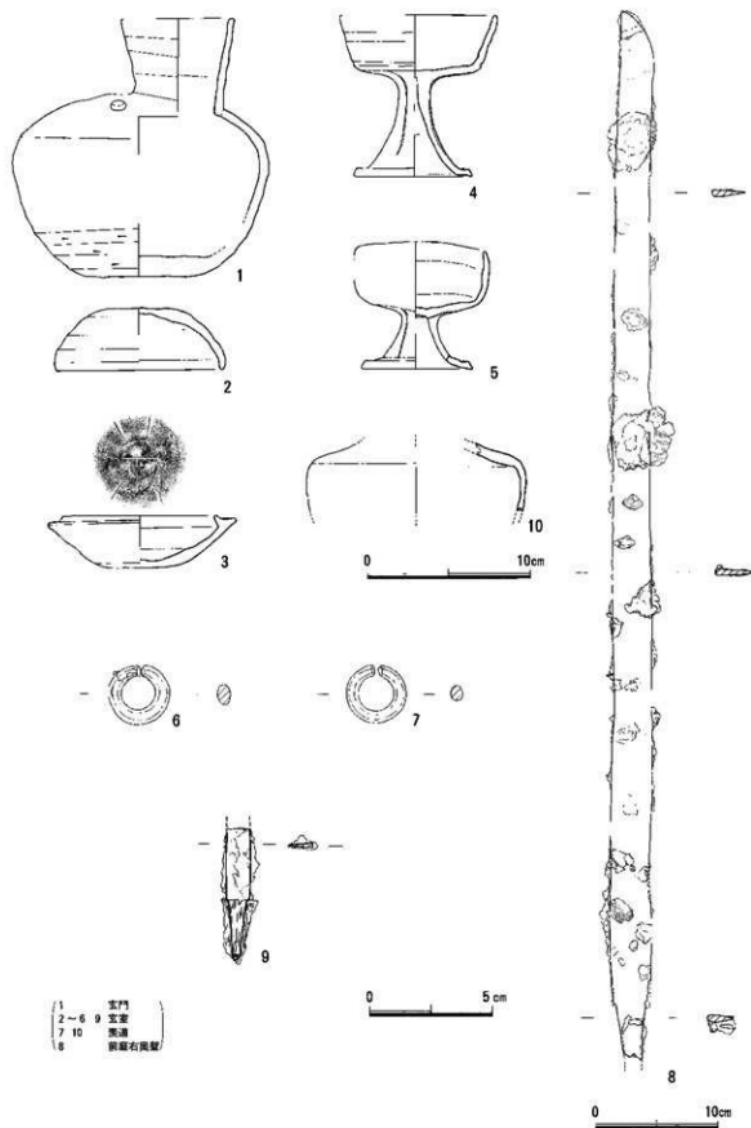
第70図 19号横穴墓閉塞石・玄室内遺物出土状況・出土遺物実測図 (S - 1 : 30, 1 : 2)

**玄室** 床面の規模は2.36m、幅2.35～2.45mを測り、正方形プランを呈する。床面は玄門床面より8cm程高く平坦である。大井の高さは1.80mを測り、床面の四隅からは界線が立ち上がり、そのまま大井部の棟線となつた。大棟は線刻状のものである。軒線の加工ではなく、玄室の形態は平入りのテント形である。壁の所々に動物のものと思われる爪痕が残る。また壁面には何度も浸水した際のラインが認められる。床面からは大きさ5～25cmの石が検出された。主に玄室入口付近、奥壁側中央に多い。また、左右の袖側から2点ずつ、奥壁の左右から2点ずつ計8点の黒い物質が検出され、これらの物質は位置からすると、棺台と思われた。分析の結果、細胞構造が全く観察されず、川村唯史氏の御教示によりこの物質は褐炭であることが確認された。背山横穴墓群周辺の地層には褐炭層が存在し、身近な褐炭を棺台として使用したと推測される。

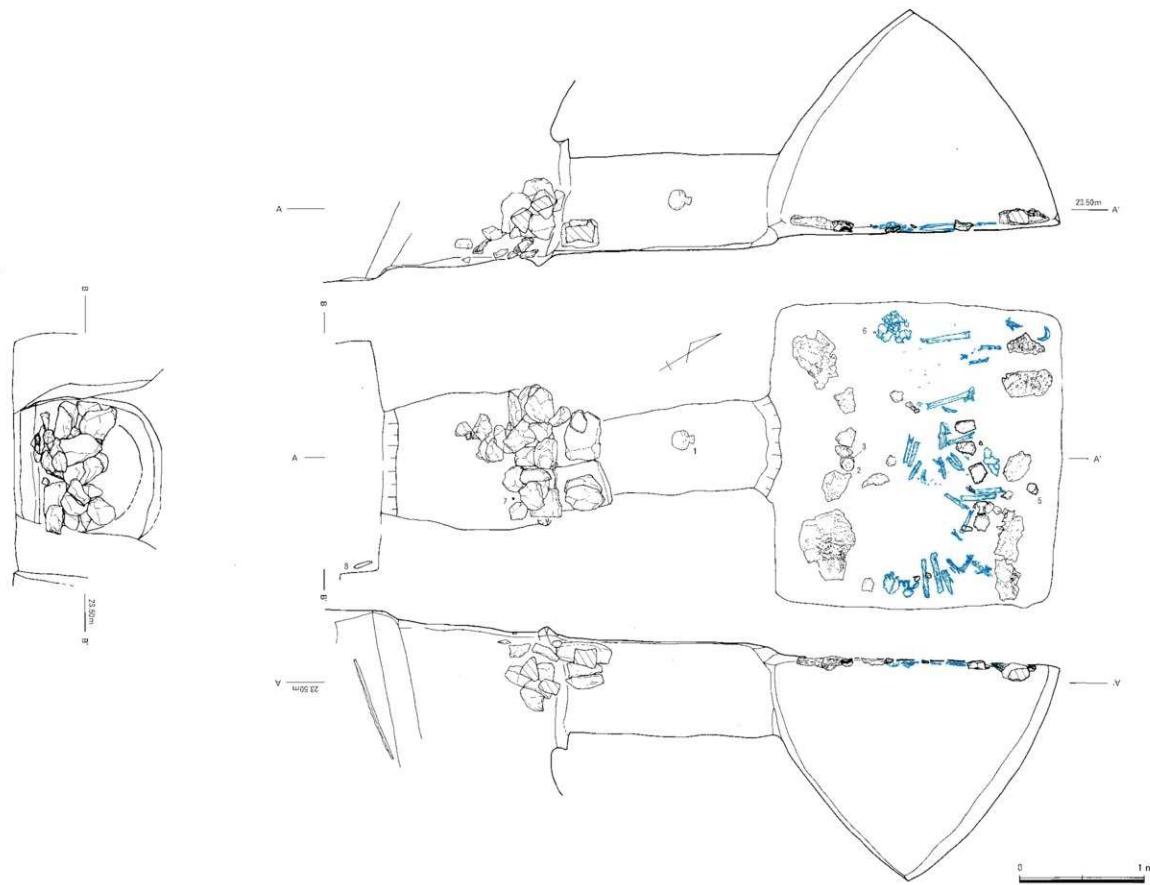
**閉塞状況** 玄門前面には大きさ15～30cmの自然石が多数積まれ、またそれより奥側の玄門入口には2個の石が嵌め込まれ、その上に数個の石が玄門の壁側に寄せて置かれていた。石はほとんどが自然石であるが、玄門入口右側の嵌め込まれた石だけは砂岩の切石で、幅35cm、奥行き38cm、厚さ13～15cmを測る。他の横穴墓から転用された可能性も窺われる。玄門入口の石は玄門の床面上から、玄門前面の閉塞石は差度床面上十層の上面から出土している。また、その十層の上面は玄門入口の嵌め込まれた石の上面まで続いている。おそらく玄門入口で閉塞を行い、その後の埋葬時に上部の石を玄門壁側に寄せて侵入し、玄門前面に閉塞を行ったと推測される。閉塞石を取り除くと玄門前面の床面には奥行き15cm、深さ5cmの溝が掘られ、玄門前壁には削り込みが設けられていた。初葬時には板状の閉塞材で閉塞していたと考えられる。玄門前面の閉塞石は玄門全面を覆っておらず、玄門の埋土上面からは土器が出土しているため、閉塞石上面も侵入面と推測される。

**遺物出土状況** 玄門埋土上面からは平瓶（1）が出土した。玄室内に埋土はなく、遺物はすべて床面上から出土している。玄室前面中央からは蓋坏（2、3）が伏せて重ねられた状態で、右奥壁側からは坏环が2点（4、5）出土している。玄室内からは多数の人骨が出土している。人骨は数回の水の浸入によって遺存状態は非常に悪い。また人、動物、水の侵入によって原位置を留めていない。しかし動物が侵入した割には骨がくずれていないため、骨がまだ硬い時期に侵入したと思われる。（鳥取大学医学部、井上貴央氏の御教示による）左壁側には頭骨骨があり、近くから耳環が1点（6）出土している。右側閉塞石右側の床面上からも耳環が1点（7）出土した。前庭右側奥壁に立てかけた状態で大刀（8）が出土している。大刀は床面より38cm上方に置かれ、追葬時の遺物と思われる。

**出土遺物**（第71図、巻頭カラー）1の平瓶は口径6.7cm、器高16.1cmを測る。肩部にギタン状の粘土を1個貼り付けている。2は口径10.2cm、器高3.9cmを測る坏蓋で、大井部内面に「/」のヘラ記号が施されている。3の坏身は口径9.2cm、器高3.2cmを測る。2と3はセットとである。4は口径9.6cm、器高10.1cmを測る高坏で、坏部外縁に1条の浅い沈線を廻らせ、脚部には3方向に切れ目状の透かしを入れている。5の高坏は口径7.8cm、器高7.9cmを測る。坏部は丸みを帯び、脚部には3方向に切れ目状の透かしを入れる。6は玄室内から出土した耳環で、外径2.5cm、厚さ0.7cmを測る。鍍金がほとんど剥離している。7は外径2.4cm、厚さ0.7cmを測り、一部鍍金が剥離している。8は残存長85.5cm、刃長82.0cm、最大刃幅3.2cmを測る大型の大刀で、日釘孔より端の茎部を欠損している。刃形は直刃で緩やかに内返り、切先は直線的だが僅かにふくらがつく。闇は通有の両闇とみられるが、刃側は欠損している。刃身部に木質などは一切残存せず、抜き身で副葬されている。茎部は佩表に僅かに木質が置換した茶色の錆が付着し、織維方向が認められ、柄は着装された状態であった。9は玄室床面の



第71図 20号横穴墓出土遺物実測図 (S - 1 : 3, 1 : 2, 1 : 4)



第72図 20号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S-1:30)

上を飾にかけた際に出土した刀子片である。残存長5.4cm、最大刃幅1.2cmを測り、茎部には木質が残存する。

**時 期** 蓋坏は川雲6b・c期、高坏は5期に相当する。玄門から出土した平瓶も5期以降のものである。土層観察から4回の埋葬が行なわれたと考えられ、そのうちの2回は5期と6b・c期と推定されるが、初葬や最終閉塞の時期については明確にできない。

## 22号横穴墓（第63図）

22号横穴墓は前庭部奥端側から前端側に1.6m程の左側壁面に穿たれた横穴墓である。造成工事中の立会調査時に発見された横穴墓で、発見時重機掘削によって天井の一部が崩壊していた。主軸をS-51°Eにとり、標高は玄門入口で23.0mを測る。

**狭道・玄門** 玄門の前に短いながらも狭道が付いている。狭道は奥行き0.9m、幅1.25mを測る。狭道中央には地山と同じ土色の軟らかい土があり、掘削してしまったため、床面がいびつな形になっている。天井はなく、高さ、断面形態は不明である。

玄門は奥行き1.3m、幅0.9~1.0m、高さ0.75mを測り、玄室側がやや広がっている。玄門は狭道床面より20cm高い。床面は玄室側から狭道に向かって傾斜している。

**玄 室** 床面の規模は奥行き1.76m、幅は奥壁側で1.55m、前壁側で1.83mを測る。床面は奥壁側が前壁側より20cm高い。床面の四隅からは界線が立ち上がり、重機の掘削によって天井頂部を欠いているが、形態はテント形と推測される。残存する天井の一一番高い所で1.35mを測る。

**閉塞状況（第73、64図）** 玄門前面に15~25cmの石を積み上げて閉塞を行っている。閉塞石は17層上面に積かれ、2次葬時の所産と考えられる。閉塞石は本来天井部近くまであったと思われるが、閉塞石上面は12層上面の3次葬面と一致し、侵入時に動かされた可能性が窺われる。閉塞石を取り除くと玄門前面の床面には深さ4cm程度の浅い溝が確認された。玄門前面には切り込みが設けられ、初葬時には板材で閉塞されていたと推測される。

**遺物出土状況（第73図）** 閉塞石上面、玄門からは甕片が出土している。この甕片は前庭部出土の甕片と接合した。玄室内右側には幅約70cmに亘って須恵器床（7）が設置されている。須恵器床の右袖側には坏身（2）が伏せて置かれていた。左壁側からは長さ1.15m、幅0.55~0.60m、厚さ0.15mの板石を検出した。板石の奥端側からは石と甕片、人骨が出土している。甕片は右の上に置かれていたが、ずれ落ちた様な状態で、人骨は甕片上や右の周辺から出土している。この甕片は右側の須恵器床の甕片と接合している。板石が短かった為に奥端側に右を置きその上に須恵器床の甕片を転用し、遺体を置いたもの、または集骨の可能性も考えられる。左奥壁際からは坏蓋（1）、隕2点（3、4）、長頸甕（5）が出土している。1、2はセットである。玄門側の板石上からは横瓶（6）が出土している。

**出土遺物（第74図）** 1の坏蓋は口径11.7cm、器高4.4cmを測る。肩部に棱や沈線はなく、天井部外面にヘラ切り後ナデを施す。2の坏身は口径10.5cm、器高3.5cmを測り、底部外面にヘラ切り後ナデを施す。1、2にはヘラ記付が確認される。3は口径9.5cm、器高11.9cmを測る甕である。頸部と肩部上半に沈線を廻らせ、底部は平底である。4は口径6.0cm、器高6.6cmを測る小型の甕である。5の長頸甕は口径10.1cm、器高22.0cm、底径8.1cmを測る。口部は大きく外反し、肩にはハリがみられる。底部外面にヘラ切り後ナデを施す。6は横瓶で口径10.5cm、器高20.1cm、胸部最大径30.4cmを測る。

胸部外面に平行タタキを行い、その後にカキ口を施す。胸部内部の片方に当て具痕が観察され、あとにはナデを施している。7は須恵器床の蓋片を復元したもので、口径17.2cm、器高55.4cm、胸部最大径44.1cmを測る。口縁外面に1条の沈線を廻らせる。胸部外面に平行タタキ後カキ口を施し、内面には当て具痕が観察される。

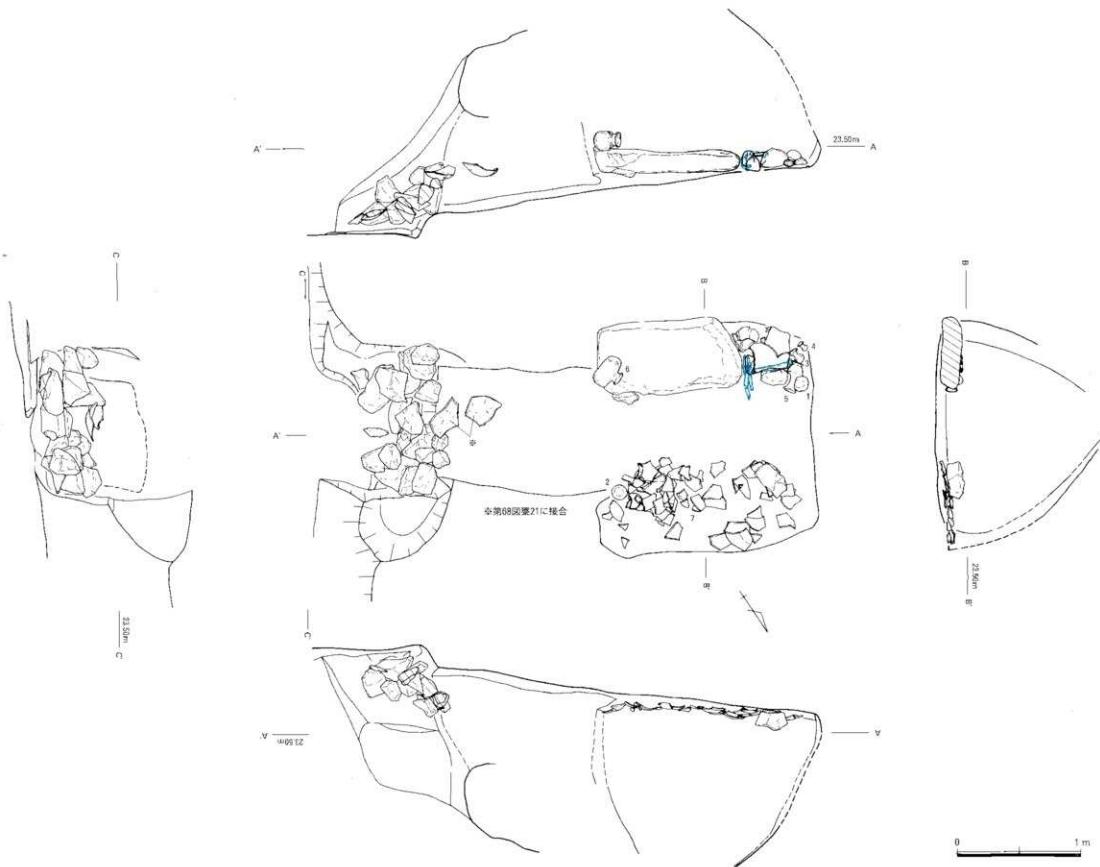
時期 盖坏の蓋は口径11.7cmと小型化したもので出雲5期に該当し、壇、横版も5期以降と考えられる。長頸壺は7～8期のもので時期差がみられる。土層観察から3回の葬送行為があったと推定される。土層観察、遺物の出土状況から最終埋葬（3次葬）は山墓7期で、少なくとも5期に1回は埋葬を行っていると推定される。

以上の3横穴墓の土層観察、遺物の出土状況から埋葬の時期について考察してみたい。20号横穴墓の初葬の時期は出土遺物から、5期またはそれ以前と考えられる。22号横穴墓からも同じ5期の遺物が出上していることから、同じ時期に初葬が行われた可能性が高い。22号横穴墓の3次葬は7期と考えられる。20号横穴墓玄室内から6b・c期の遺物が出土しており、20号横穴墓の2次葬、または22号横穴墓の2次葬と20号横穴墓の3次葬はその頃であろう。20号横穴墓の4次葬の時期は不明である。20号横穴墓の4次葬後の埋土上面からは出雲4～5期の子持壺が出土している。20号横穴墓の3次葬の時期より古いもので、おそらく別の場所にあったものを祭祀のために置き直したものと考えられる。

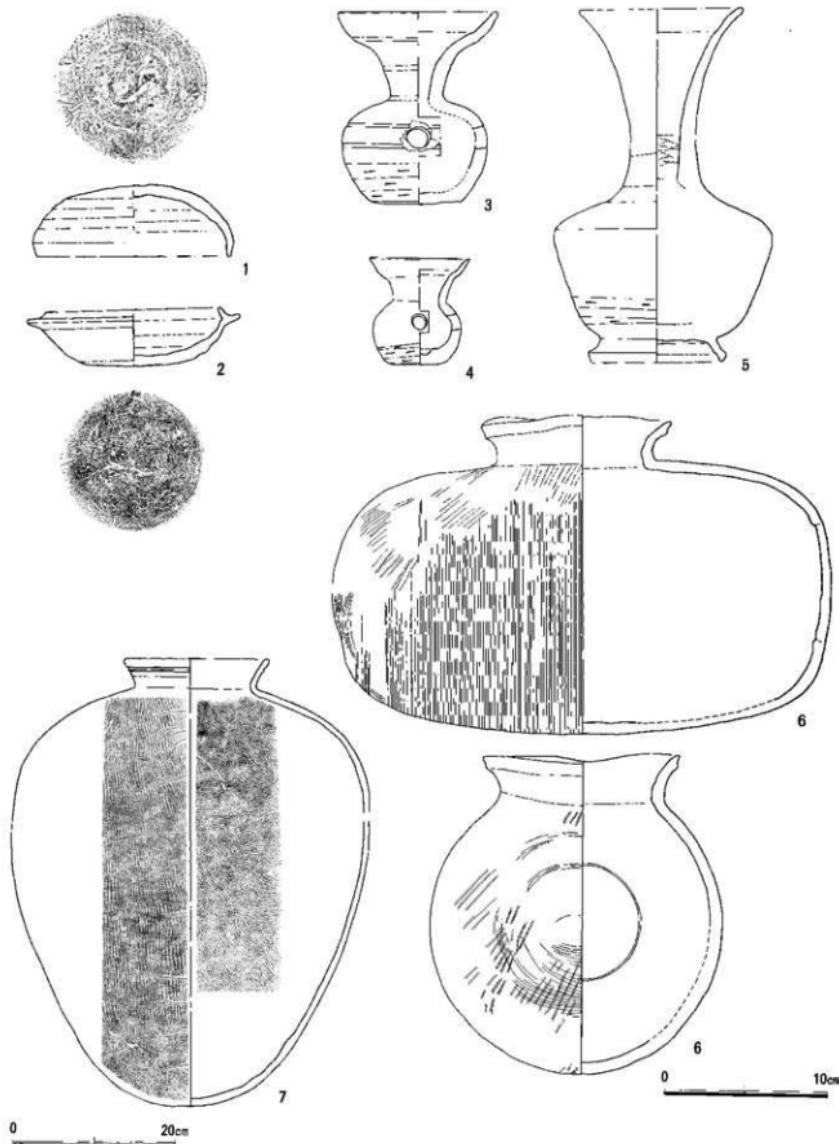
20（初）・5期→22（初）・5期→19（初）→22（2次）・6b・c期？→20（3次）、22（2次）・6b・c期？→22（3次）・7期→20（4次）と推定される。

#### S X-02（第63、64、69図）

S X-02は22号横穴墓の羨道部上方で検出された上墳墓である。羨道上部の横穴墓埋土と羨道天井部を掘削して造られている。羨道の天井部はこのとき崩壊したと考えられる。規模は上端で長径1.9m、短径0.9m、深さ約0.7mを測り、不整形な格円形を呈する。土壤は地山ブロックを多く含む粗い土で埋められていた。床面からは人骨と鉄製品1点が出土した。人骨はまとめて出土した。鉄製品は残存長3.2cm、幅約1.3cmを測り、先がやや細くなっている。周囲には木質が付着し、その内側に幅6mmの四角い鉄の部分がみられるが、器種は不明である。時期のわかる遺物が出土していないため、埋葬の時期も不明である。



第73図 22号横穴墓閉塞石・遺物出土状況実測図 (S=1:30)



第74図 22号横穴墓出土遺物実測図 (S-1 : 3, 1 : 6)

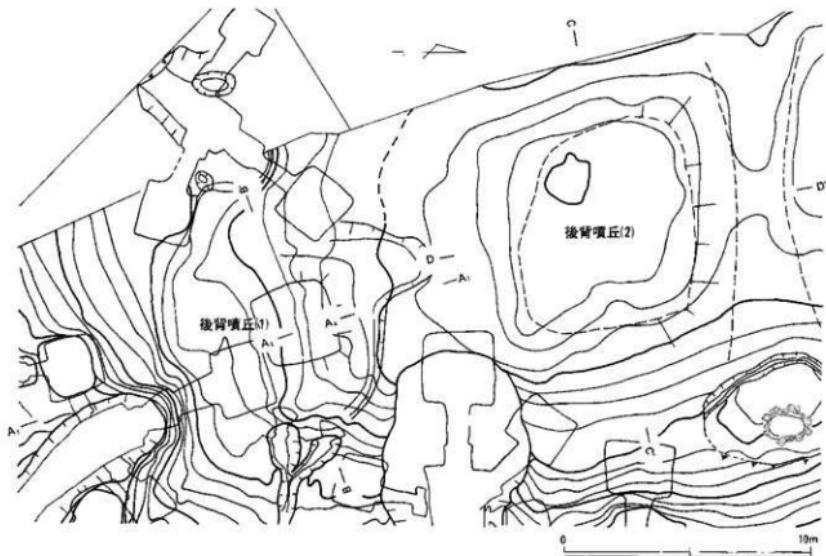
## (2) 後背墳丘

墳丘自体に埋葬施設を持たず、横穴墓に伴う造構と推定される「後背墳丘」2基を検出した。

### 後背墳丘(1) (第75、76図)

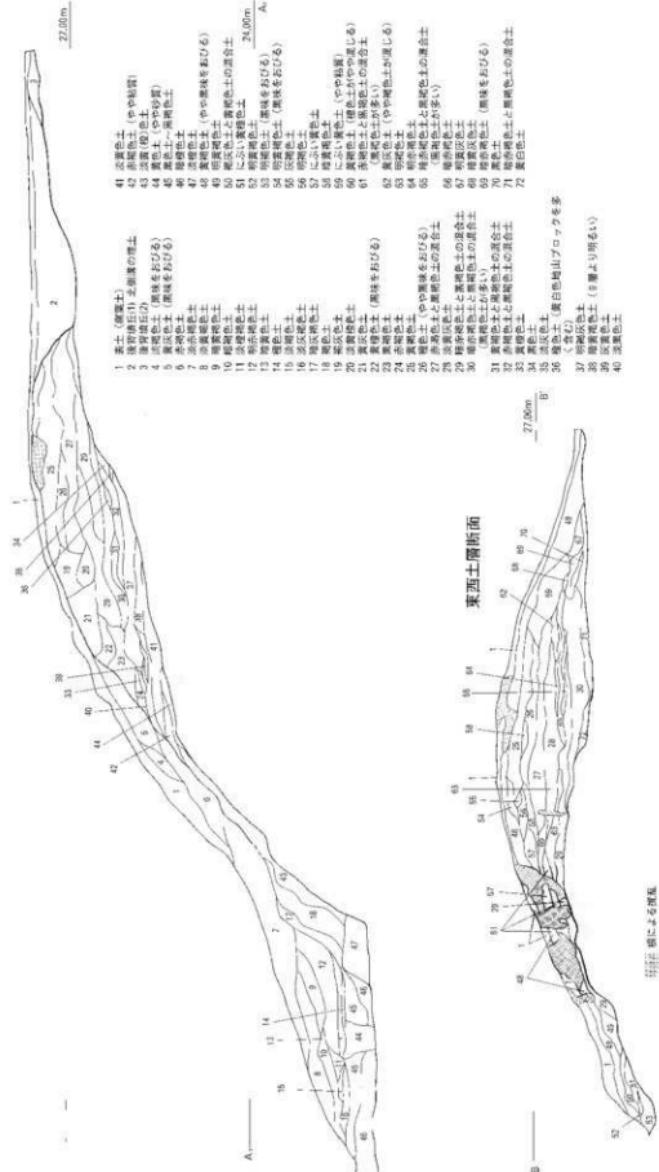
立地 後背墳丘(1)は丘陵の尾根上南側から検出した。16号横穴墓の上方に位置するが、墳頂部は16号横穴墓の主軸より西にずれている。墳頂部の標高は27.6mを測る。

墳丘 墳丘は南側尾根の地山面を掘削し、やや平坦にして整地土を置き、盛土をしている。土層断面の41、42、44層は整地土と思われ、19~40層、48~72層は盛土である。上層は粒状の地山ブロックを多く含む棕褐色系と灰褐色系の土層を何層も重ね、盛土をして墳丘を作っている。盛土は最高1.36mの厚みを測る。墳丘に盛土をした後、北側に周溝状の溝を掘り込んで区切っている。溝は東側から西側にかけて確認され、東側で幅50cm、深さ10cmを測る。溝は北側で底面が広がり、幅広になって西へ続く。墳丘は墳端を周溝の内側下場とすると7m前後の方墳であったと推定される。墳丘の東側斜面には10、11号横穴墓が存在するが、根の搅乱によって上層からは前後関係を把握できなかった。  
北溝・遺物出土状況・出土遺物 (第77、78、79図) 溝の北側からは甕片が多数出土している。後背墳丘における祭祀において土器を使用し、使用後粉々に破碎して廻棄した結果と推察される。第77図の9層は後背墳丘(1)の盛土である。7層は9層の風化土と思われ、炭やや含んでいた。甕片は5層上面から出土しており、この時点では祭祀が行われたものと推測される。



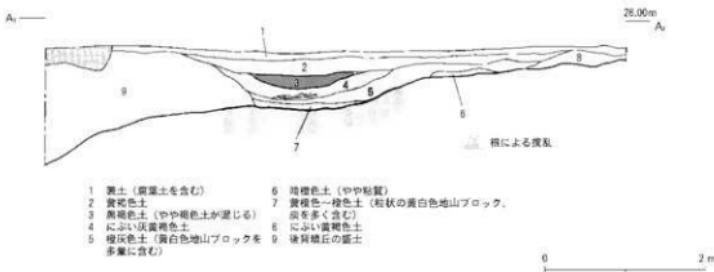
第75図 後背墳丘地形測量図 (S = 1 : 200)

南北土層断面



第76図 後背埴丘11土層断面図 (S = 1 : 100)

柱状圖 横による概観



第77図 後背墳丘(1)北側溝土層断面図 (S = 1 : 60)

甕片は僅かに別の甕片も含まれていたが、1個体の甕に復元された。口径20.3cm、器高58.6cm、胴部最大径48.6cmを測る。口縁部は短く外反し、口縁端部外面に1条の沈線を認める。胴部外面には平行タタキの後にカキ目を施し、内面には當て具痕が認められる。

**周辺出土遺物** (第81図) 後背墳丘の盛上から出土した遺物は僅かなうえ、細片で時期のわかるものはみられない。周辺から出土した4点の遺物はいずれも後背墳丘より上の堆積土中から出土している。1は輪状つまみを有する坏蓋で、内側にかえりがつく。2、3は高台付环の底部である。底部外面に2はヘラ切り後ナデを、3は静止糸引きを施す。4は口径11.8cm、器高2.7cmを測るかわらけである。外面に指ナデの痕はみられるが、全体的に風化している。中世以降のものと思われる。

**時 期** 前にも述べたが出土遺物からこの後背墳丘の時期は明確にできない。後背墳丘(1)は丘陵尾根上の南側に位置し、墳丘の中央とはややずれるが、下方斜面に16号横穴墓が存在し、位置からすると、16号横穴墓の後背墳丘の可能性が高い。16号横穴墓の初葬の時期は不明であるが、15号横穴墓との切り合い関係、出土遺物から出雲5期（7世紀前半）またはそれ以前と推測され、後背墳丘(1)も同時期と考えられる。

## 後背墳丘(2) (第75、80図)

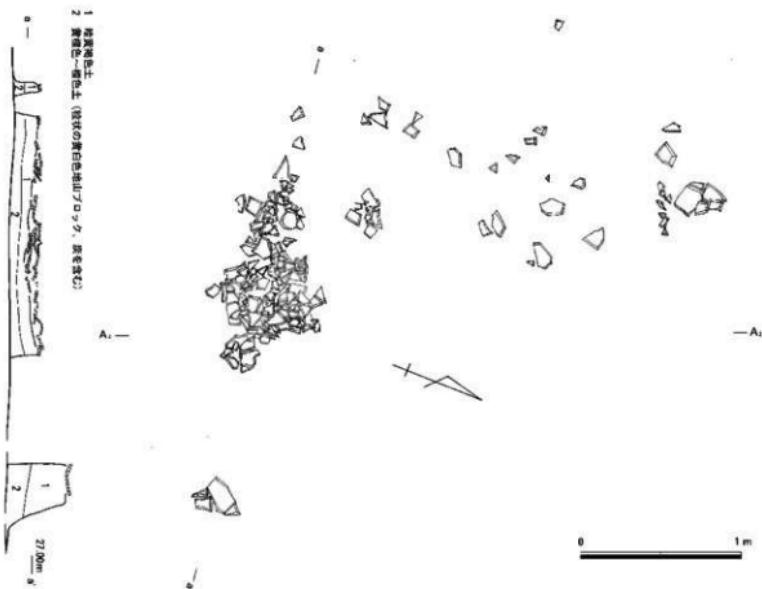
**立 地** 丘陵尾根上のほぼ中央に立地する。後背墳丘(1)の北側に存在し、標高は最高点で28.0mを測る。

**填 丘** 後背墳丘(2)は調査前、方形の平坦面をもち古墳と考えられていたが、墳丘頂部を精査しても主体部は検出されなかった。北側に溝を掘ることによって、墳丘を造りだしている。溝は北側だけでは確認され、幅2.0~3.7mを測る。南側には前述した後背墳丘(1)の北溝が存在する。

**土層断面の観察**により、墳丘東側の一部に盛土を確認した。墳丘盛土は旧表土と考えられる東西上層断面4層の黒色土上面に10~20cm程度盛られている。墳丘盛土が流れている可能性も考えられ、最初の墳丘の形態や高さは現存の墳丘とは異なっていたのかもしれない。

墳丘の上端は東西8.5m、南北7.0m、北溝の下端内側から後背墳丘(1)の北溝北側の下端まで約13mを測る。丘の南西側はやや削平されているが、墳形は方墳と考えられる。

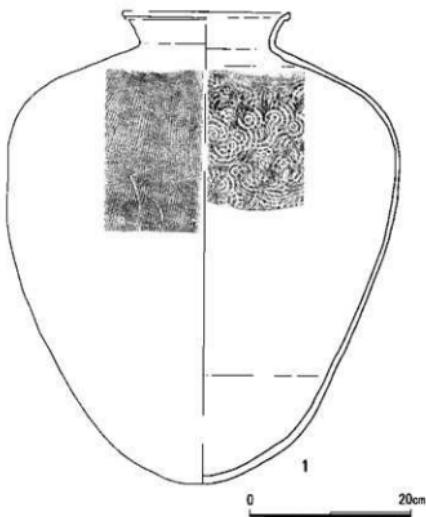
**周辺遺物出土状況・出土遺物** (第82図) 北側溝埋土、10層中から須出器4点が出土している。1は子持壺の子壺で口径は推定9.0cm、器高7.8cmを測る。口縁は外反し、口縁外面に回転ナデにより僅か



第78図 後背墳丘(1)北側溝遺物出土状況実測図 (S = 1 : 30)

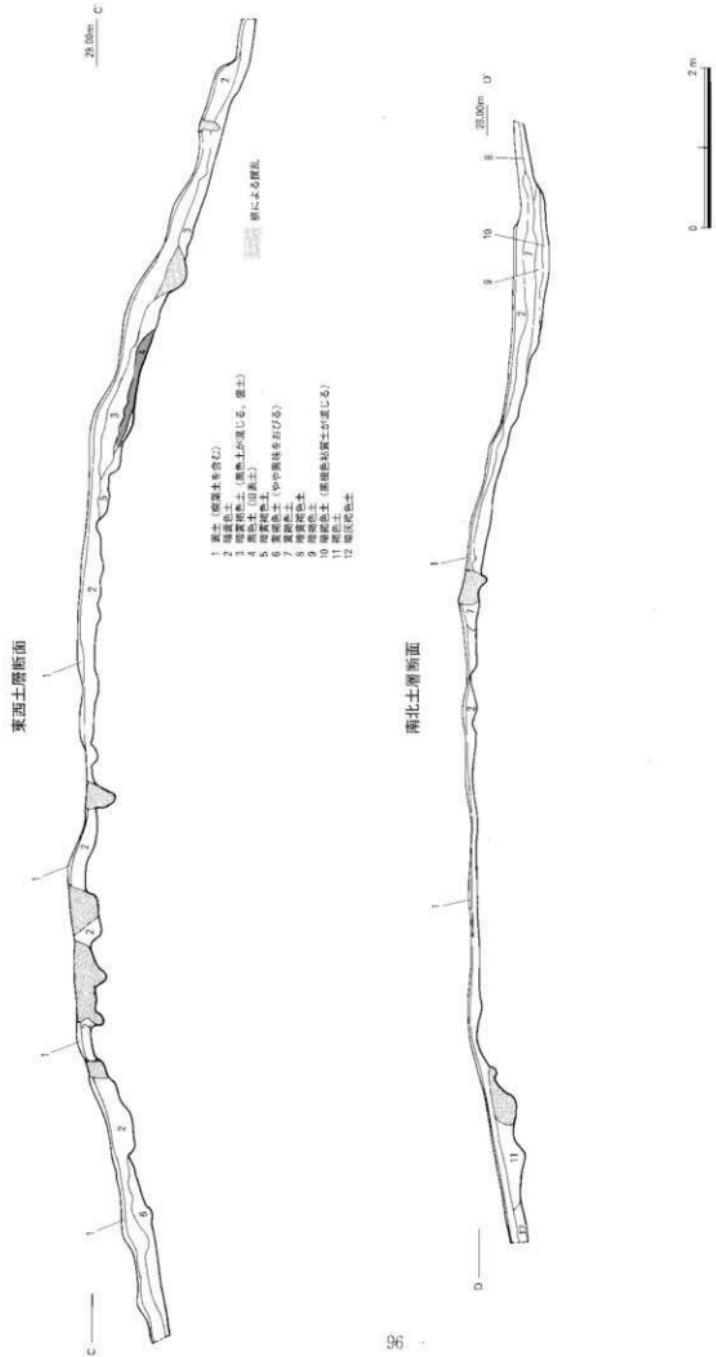
な縫を作っている。底部外面には親壺に貼り付けた痕跡がみられ、中央は穿孔している。調整は内外面とも回転ナデを施し、胴部外面の下半には貼り付け時の指痕が認められる。19、20、22号横穴墓出土の子壺とは形態が違いがみられ、親壺とも接合しなかった。2は子壺の口縁と思われる。口径9.1cm、器高3.2cmを測る。3は長頸壺の胴部から底部で、底径8.0cm、残存高11.6cmを測る。低い高台が付き、底部外面に回転糸切り痕が認められる。4は壺の底部である。底部径は推定7.4cmを測る。底部外面には回転糸切り痕が認められる。3、4は8世紀中頃以降の遺物である。

時期 遺物の数も少なく、墳丘直上から出土した遺物も皆無である。後背墳丘(2)の下方斜面には1号横穴墓が存在する。16年度造成工事中に工事範囲が拡張され、後

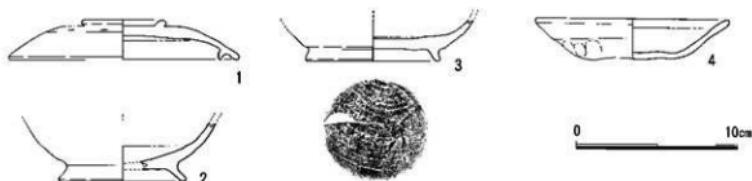


第79図 後背墳丘(1)北側溝出土遺物実測図 (S = 1 : 6)

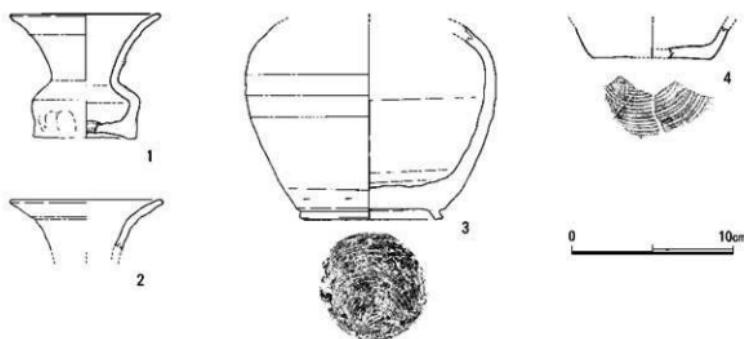
第80図 後背埴丘2土層断面図 (S-1 : 60)



背墳丘(2)西側の工事立会を行ったが遺構は検出されなかった。1号横穴墓の後背墳丘の可能性が高いと考えられるが明確ではない。北溝から出土した最も新しい須恵器は8世紀中頃で、8世紀中頃まで祭祀を行っていたと推測される。



第81図 後背填丘(1)周辺出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3$ )



第82図 後背填丘(2)周辺出土遺物実測図 ( $S = 1 : 3$ )

### (3) 横穴墓出土の甕

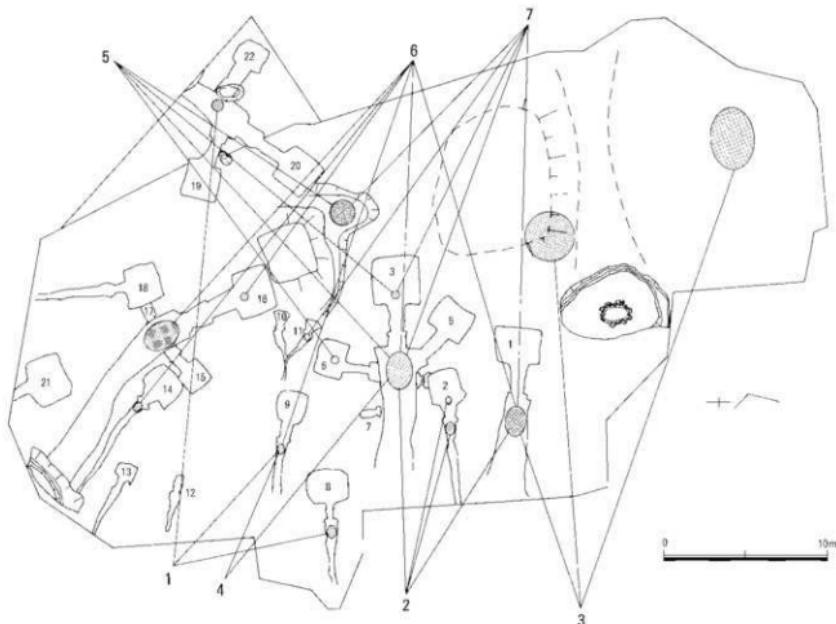
丘陵全体から多数の甕片が出上している。数箇所から出土した甕片が接合しており、概要を述べることとする。

第83、84、85図

第84図—1の甕は9号横穴墓の墓道から多く出土している。検出面の黒色土下1層から、数片が重なり合う様に出土した。他に8号横穴墓と22号横穴墓前庭の黒色土から数片ずつ出土している。この甕は9号横穴墓の祭祀に使用され、その後破碎されたと推測される。推定口径39.4cm、残存高67.5cmを測る。口頭部外面に2条、3条、1条の沈線を廻らせ、その間に刺突文を施す。胴部外面に平行タタキを施し、内面には当て具痕が確認される。

2の甕は主に3号横穴墓前庭部、1号横穴墓前庭部、2号横穴墓墓道から出土している。3号横穴墓前庭部の甕片は黒色土下1層に多く、1号横穴墓は最終閉塞後の埋土上面に多い。2号横穴墓は最終侵入面と玄室内から出土している。1号横穴墓と2号横穴墓の遺物からみる最終侵入の時期は同じ頃と考えられ。甕片の出土状況から1号横穴墓の最終閉塞を行った後、あまり期間をおかずして2号横穴墓の最終埋葬を行ったと推測される。2号横穴墓の最終埋葬の時期は山雲6期後半から7期で、同時期に破碎され、散化された可能性が高い。2は口径23.6cm、器高61.8cm、胴部最大径50.7cmを測る。

第85図—3は1号横穴墓の表上から堆積土、後背墳丘(2)の北側から東側にかけて出土している。



第83図 甕接合関係図 (S = 1 : 300)

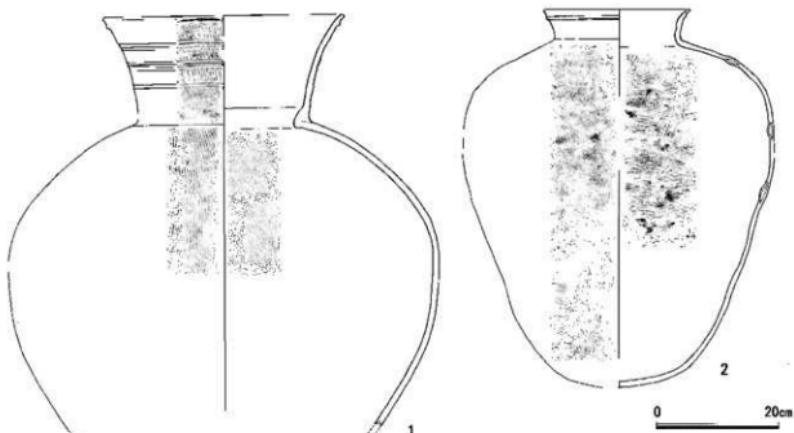
いずれも黒色土や黒色土ド1層から出土しているが、出土地から後背墳丘(2)の祭祀に伴う遺物の可能性が高い。推定口径32.6cm、残存高73.0cm、胸部最大径63.5cmを測る。口頭部外面に沈線を廻らせ、波状文を施す。口縁に焼き痕みが見られる。

4はほとんどが3号横穴墓前庭部埋上から出土した壺片を接合し、復元した壺である。3号横穴墓の前庭部埋土には5、6号横穴墓に侵入した際の切り合い関係が確認され、前庭部左側の埋土を切って侵入している。4は5又は6号横穴墓侵入後埋土の黒色土や黒色土ド1層上面から出土している。4は、5または6号横穴墓の祭祀に伴うものと推測される。口径55.4cm、器高46.2cm、胸部最大径46.2cmを測り、底部には火ぶくれや焼き痕みがみられる。

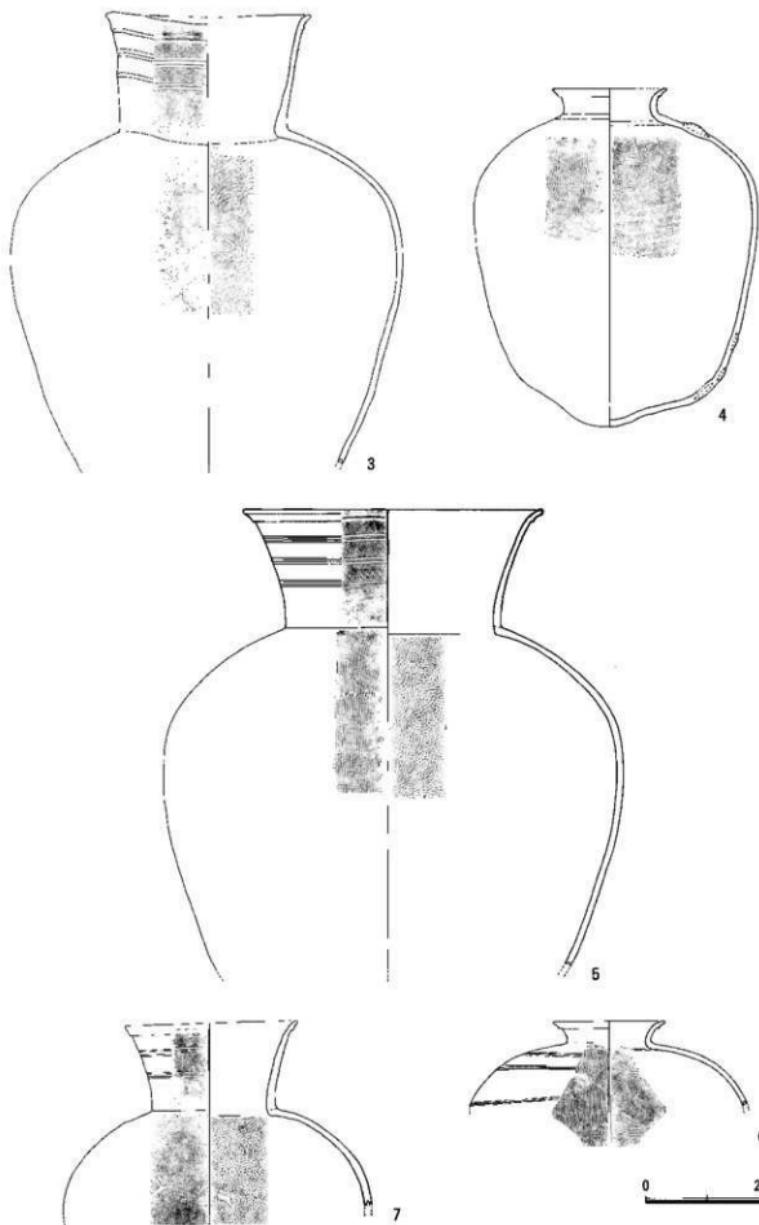
5の壺片の出土地は多く、数の多い箇所のみを図には記載した。3号横穴墓前庭部、後背墳丘(1)周辺に特に多い。また3号横穴墓の崩落上や6号横穴墓玄室内埋土からも出土している。後背墳丘(1)の北溝から出土し復元した壺(第79図)と同じ面から出土した壺片も5に接合している。この壺も祭祀の際に、後背墳丘(1)の北溝から出土した壺と一緒に置かれ、その後破碎され散布されたものと推測される。5は口径50.3cm、残存高75.4cm、胸部最大径76.6cmを測る。口頭部外面に沈線を廻らせ、その間に波状文を施す。

6は主に14、15、16号横穴墓の上層の黒色土や一層下の暗褐色土から多く出土している。他に1、2号横穴墓前庭部からも出土しているが、数は少ない。16号横穴墓の玄室内から出土した壺片も6に接合している。16号横穴墓に最終侵入したときには周辺に6の壺片が存在していたと考えられる。口径17.9cm、残存高14.0cmを測る。胸部外面に平行タタキ後カキ口を施す。

7は5の壺と同じように3号横穴墓前庭部、後背墳丘(1)周辺に多い。後背墳丘(1)の北溝から出土し復元された壺と同じ面から出土した壺片が7に接合している。5の壺と一緒に7の壺も置かれ、祭祀後破碎されたと推測される。後背墳丘(1)北溝で祭祀を行った時には壺が3個置かれていた可能性が高い。口径27.9cm、残存高30.0cmを測る。口頭部外面に2条の沈線を上下に廻らせ、刺突文を施す。



第84図 壺実測図(1) (S-1 : 8)



第85図 壺実測図(2) (S = 1 : 8)

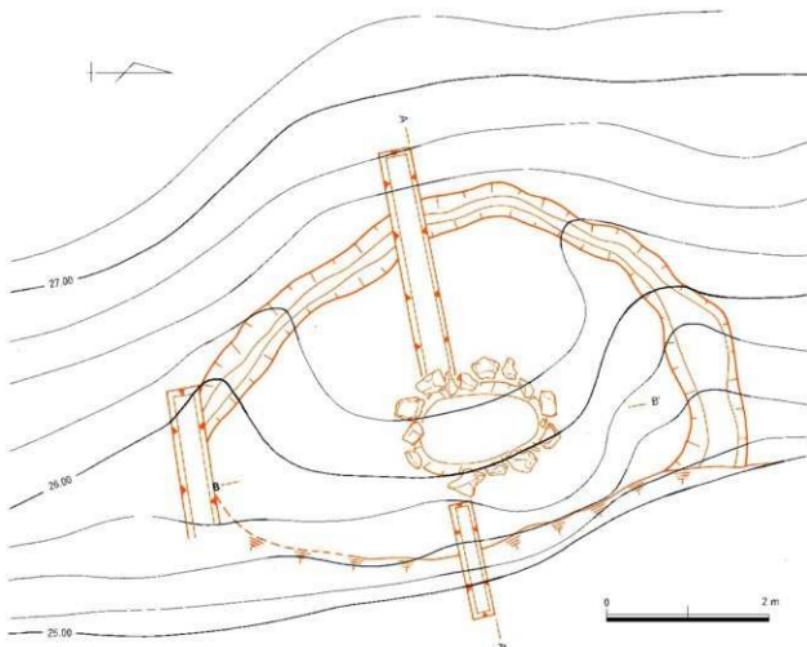
#### (4) 周辺の遺構

##### 1号墳

丘陵の北側、尾根から東側斜面に延びていく部分にあたり、ここから先は傾斜が付くところである。後背埴丘(2)北講の東側に位置する。墳頂部で標高約26.0mを測る。表土掘削後すぐに遺構面が確認された。

墳丘(第86、87図) 斜面に位置する為、東側の盛土は流失している可能性が高い。現存する墳丘の規模は南北6.0m、東西4.2mを測る。墳頂部に石組みの埋葬施設を検出し、墳丘の尾根側に幅30~80cm、深さ10cm程度の浅い周溝を検出した。1、2層は主体部埋土、3層は周溝埋土である。9層は斜面の地山面上の黒褐色土で旧表土、6~9層は盛土と考えられる。墳丘の基盤上層は暗黄(橙)褐色土であるが、主体部周辺からは横穴墓の基盤と同じ砂岩(黄白色地山ブロック)が検出された。丘陵全体をみると、横穴墓の構築された砂岩層は1号墳の北側あたりから西の方にそれていき、その上に暗黄(橙)褐色土が堆積したと考えられる。上層観察をもとに墳丘の築製過程を復元すると、次のような様になると考えられる。

- ① 斜面を掘削し墳丘基盤を造る。斜面の下側は旧表土を残して加工する。
- ② ①の掘削土を旧表土の上に盛土(6、7層)する。



③ 下側に20~30cmの黄白色地山ブロックを置き、裏に5層を重ねる。その上に石を積み4層を盛る。

④ 石で囲った内側を10~20cm掘り下げる。墓壇を深くする。

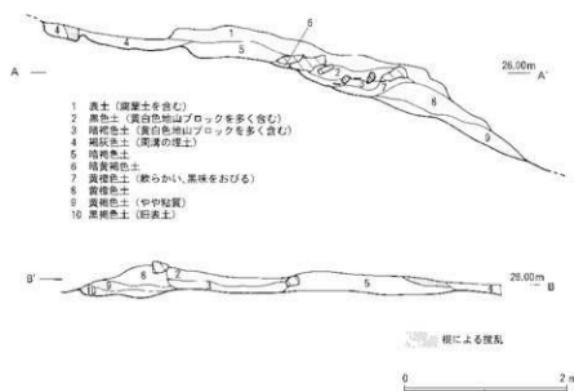
⑤ 墓丘の周りに周溝を掘る。

⑥ その中に遺体を葬る。(おそらく木棺と推測される)その後盛土を施す。1、2層は木棺が朽ちて墓壇内に落ち込んだ盛上と思われる。

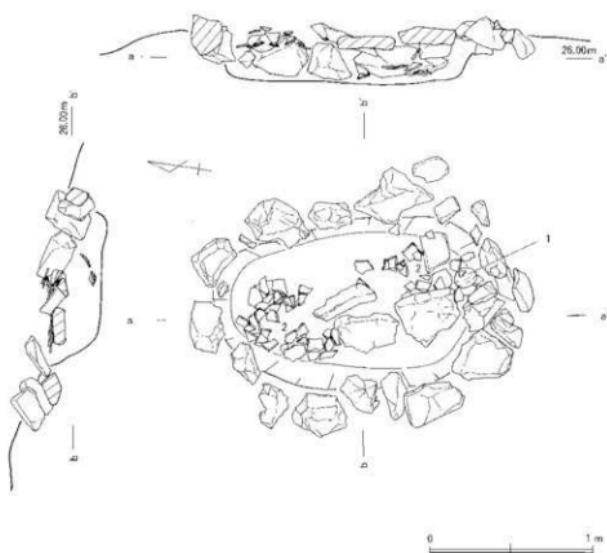
**主体部(第88図)** 石で囲い主体部を造っている。石は20~40cm大を測り、自然石である。石の中には原位置を留めていないものもあり、土砂流失の際に動いた可能性も考えられる。主体部床面にも黄白色地山ブロックを含む土層が確認され、盛上をする際に混入したと思われる。主体部床面は長径1.5m、短径0.8mを測り、橢円形を呈する。

#### 遺物出土状況 主体部

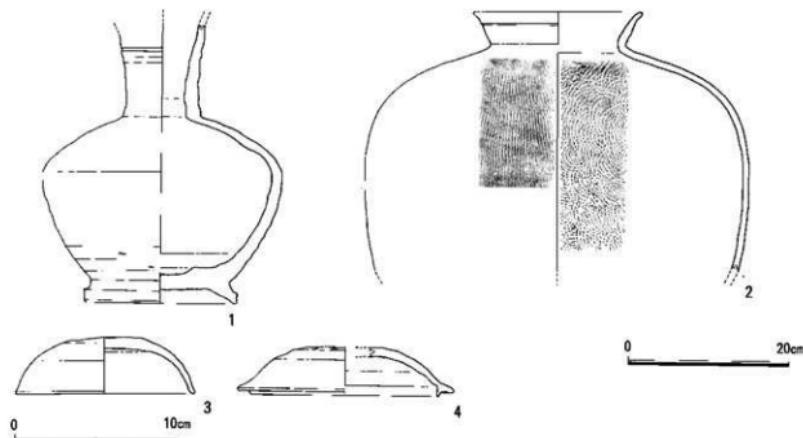
南側の検出面からは長頸壺(1)が出上している。この長頸壺は供献されたものと考えられる。また検出面、墓壇内の埋土から出土した多数の織片も祭祀に使用した後、破碎されたため、埋土(盛土)に混じったと推測される。堆積土上層から鏡(3、4)が出土している。



第87図 1号墳土断面図 (S-1 : 60)



第88図 1号墳主体部遺物出土状況実測図 (S-1 : 30)



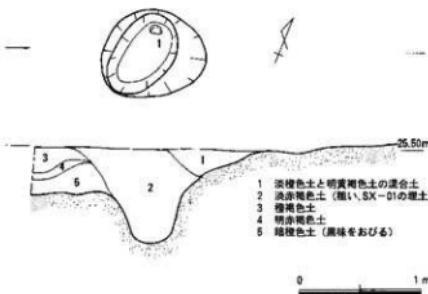
第89図 1号墳出土遺物実測図 (S = 1 : 3, 1 : 6)

**出土遺物 (第89図)** 1長頸壺は底径9.5cm、残存高17.4cmを測る。頸部に2条の沈線を廻らせ、底部外面にヘラ切り後ナデを施す。2の壺は口徑21.0cm、残存高31.3cmを測る。胸部外面に平行タキ後カキ目、内面に当て具痕が認められる。3は口徑10.9cm、器高3.5cmを測る蓋である。4は内側にかえりのある坏蓋で推定口徑11.5cm、残存高3.0cmを測る。

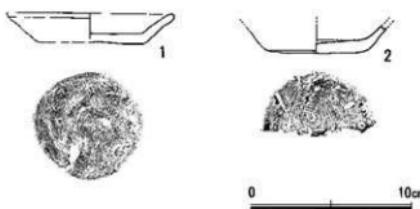
**時期** 1号墳の時期がわかる遺物は長頸壺のみである。この長頸壺は山雲7期と考えられる。

#### SX-01 (第90、91図)

丘陵西側斜面、19号横穴墓と20号横穴墓の間、標高25.5mに位置する。横穴墓上方の堆積土に掘られている。東側は地山面が造構面であったが、西側は堆積土であったため掘りすぎてしまった。十層断面から本米は幅1.4m、深さ76cmの墓壙と推定される。床面からかわらけ(1)、周辺土層からかわらけ片(2)が出土し



第90図 SX-01実測図 (S = 1 : 40)

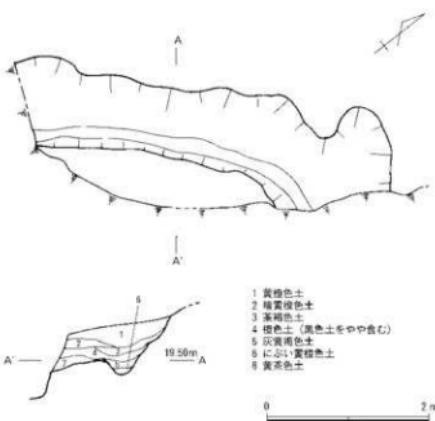


第91図 SX-01、周辺土層出土遺物実測図 (S = 1 : 3)

ている。1は口径10.3cm、器高1.9cmを  
はかる。1、2共に底部外面に回転糸切  
りを施す。中世以降の造構と考えられる。

#### SD-01 (第92図)

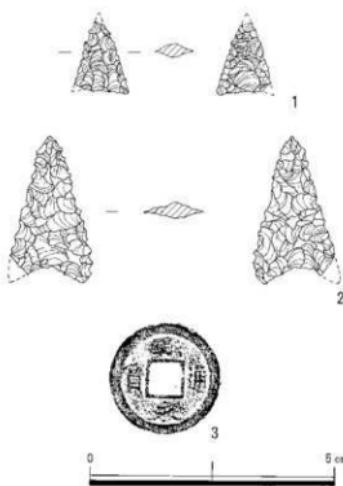
調査区の南端の斜面に位置する。16号  
横穴墓前庭は地山を掘削して造られてい  
たが、南端約2m部分は堆積土層を基盤  
としていた。堆積土層を掘削すると下方  
の地山面から溝が検出された。現存する  
溝は長さ3.4m、深さ20cmを測る。平面  
プランは円弧状を呈し、何らかの造構の  
一部と考えられる。遺物は出土していな  
いため、時期は不明であるが、16号横穴  
墓構築以前の造構と推測される。



第92図 SD-01実測図 (S = 1 : 60)

#### 造構外出土遺物 (第93図)

1、2、3は調査区北側の表土から出  
土した遺物である。1、2は石礫である。  
1は残存長1.5cm、最大幅1.1cmを測る。  
2は残存長1.4cm、最大幅1.6cmを測る。  
3は銅錢で書体から新寛永（1668年以降）  
と考えられる。



第93図 造構に伴わない出土遺物実測図 (S = 1 : 1)

## 第4章 自然科学分析

### 菅田横穴墓群20号穴の人骨について

鳥取大学医学部機能形態統御学講座形態解析学分野

井上貴央、川久保善智

#### 1.はじめに

平成15年度の松江市菅田町における発掘調査によって、20基の横穴墓群が検出された。大部分の横穴墓からは人骨が検出されなかったが、20号穴には人骨の遺存が認められた。平成15年12月13日に筆者のうち井上が現地に赴き、人骨の検出状況を確認するとともに、取り上げを行った。人骨の保存状況は極めて悪く、細片化していたり、取り上げ不能なものが大部分であった。本稿では、取り上げ時に確認した所見やその後の検討によって明らかになった所見を述べ、本横穴墓に埋葬された人骨の若干の形質人類学的所見について報告する。

#### 2.人骨の検出状況

20号穴は検出物から判断して、7世紀前半に構築されたと考えられるテント形の横穴墓である。玄室内からは須恵器、大刀、耳環が見つかっている。玄室内の四隅には直径が30~50cm程度の大きな木片が検出されており、玄室の中央部分の左壁へ右壁にかけて人骨が散布していた。

羨道から見て、玄室左側と右側から頭蓋骨がそれぞれ1個ずつ見つかった。それ以外の人骨としては、玄室左奥隅から下顎骨が検出されており、また四肢骨に属する長骨と歯が無秩序に検出されている。

検出された人骨は風化がかなり進んでおり、取り上げ時に崩れてしまうもの多かった。したがって、人骨の部位を確認しながら取り上げを行った。取り上げ後に細片化して部位を確定できなくなってしまったものは第1表に\*印を付した。

#### 3.検出人骨の概要（図1）

##### 〔左壁から検出された頭蓋骨（No.1）〕

風化が進んでおり断片化が著しいため、接合することはできない。確認できた部位は前頭骨、右側頭骨の雑体部、左側頭骨片、歯片である。縫合の閉鎖状況は確認できないが、骨の厚み、大きさなどから成人骨であると考えられる。わずかに残存している乳様突起の発達は比較的良好で、男性骨を窺わせる。なお、本頭蓋には1個の耳環を伴っていた。

##### 〔左奥隅から検出された下顎骨（No.17）〕

右は第一、第二小臼歯（いずれも咬耗度はMartin 1度）と第一、第二大臼歯（いずれも咬耗度はMartin 2度）が遊離して検出されており、左は中切歯～第一大臼歯までの歯が釘植している（咬耗度は第三大臼歯のみMartin 1度でほかは2度）。咬耗度から判定する限り、成人のものであることは間違いないが、性別を特定することはできない。

#### 〔右壁から検出された頭蓋骨（No.24）〕

検出時には下顎骨や上顎骨がかろうじて原形を保っていたが、風化が著しく、取り上げ時に大きく破損した。残存した骨では後頭骨の後頭隆起周辺、頭頂骨片などが認められるが、接合できない。

歯は上顎歯では左右の中切歯（咬耗度はともにMartin 2～3度）と右の側切歯（咬耗度はMartin 2度）、左の犬歯、右の第一、第二小臼歯（咬耗度はともにMartin 2度）、左の第一大臼歯（咬耗度はMartin 2度）が残存している。下顎歯は左側のみで、小臼歯（咬耗度はMartin 2度）、第二大臼歯（咬耗度はMartin 1度）、第三大臼歯（咬耗度はMartin 0度）が残存している。

頭蓋骨そのもののからの形態学的特徴は不明で、性別を特定することはできない。歯の咬耗度から判定する限り、本頭蓋骨は壮年～熟年のものと考えられるが、さらに年齢を絞り込むことは困難である。

#### 〔小児の歯（No.4）〕

玄室左側の頭蓋付近から、2点の歯が検出されている。これらの歯は上顎右第一大臼歯と上顎左第二犬歯の歯冠部分で、咬耗はまったく認められない（咬耗度はMartin 0度）。ともに歯冠は完成しているが、咬耗がまったく見られないことから、この個体の年齢は上顎第二犬歯の歯冠が完成する6～7歳から上顎第一大臼歯の歯根が完成する9～10歳の間と考えられる。第一大臼歯にはカラベリ結節が認められる。

番外の人骨から左上顎の中切歯と第一大臼歯、右下顎の小白歯が検出されている。これらの歯は咬耗がまったく進んでおらず、未萌出歯の可能性がある。また、上顎左第一大臼歯にはカラベリ結節が認められるので、これらの歯は同一小児人骨の歯に属するものかもしれない。性別は不詳である。

#### 〔成人の下顎歯（No.9）〕

玄室中央付近より、下顎歯と下顎骨片が検出されている。歯種は右犬歯（咬耗度はMartin 2度）、左第二小白歯（咬耗度はMartin 0度）、左右第一大臼歯（咬耗度はMartin 左2度、右1度）、左右第二犬歯（左右ともに咬耗度はMartin 1度）、第二大臼歯（咬耗度はMartin 0度、左右不明）で、いずれも歯冠部分のみである。

咬耗度から判断して、壮年の人骨ではないかと考えられる。

#### 〔体幹の骨〕

椎骨、上肢帯、下肢帯の骨はまったく検出されていない。

#### 〔四肢骨〕

保存状態が悪いため、部位が同定できない骨が多い。部位が判別できた骨は以下の通りである。

上肢骨では成人の上腕骨が2点、橈骨が1点検出されている。上腕骨、橈骨とともに左右を判別できない。下肢骨では成人の大腿骨が7点、脛骨が3点検出されている。大腿骨は右と思われるものが1点、左が1点で、そのほかのものは左右を判別できない。脛骨は右と思われるものが1点で、あと2点は左右不明である。

これらのいずれの四肢骨も骨最大長は計測することができず、したがって身長を推定することも不可能である。残存する骨を見るかぎり、その大きさから成人の骨ではないかと考えられる。

#### 4. 考察

横穴墓の埋葬様式は、いまだ解明されていない点が多く残されている。人骨の検出状態も元の位置を保っているものは少ない。再埋葬あるいは人為的なく乱や流入動物、流入雨水などによる骨の移動が、その原因として考えられる。

本横穴墓の場合、水が流入したときの痕跡が床面から78cmの側壁に明瞭に認められたので、水の流入による骨のかく乱があったのは確かであろう。また、そのことによって骨の風化が進んだと考えられ、骨の保存状況が極めて悪かった原因の一とと考えられる。

本横穴墓の特異な点は、玄室内の四隅に大きな木片が認められたことである。その用途については不明であるが、棺台として利用されたとも考えられる。しかし、人骨が出土したのは玄室中央部のみであり、仮に棺台として利用されていたならば、棺が朽ちた場合でもその位置に人骨が認められるはずであるので、その可能性は低い。

左壁側から検出された頭蓋骨には耳環が1個伴っていたが、通常は2個セットで検出される。漢道から1個耳環が検出されているが、骨の搔き出しによるものであるのかどうかは不明である。いずれにしても、人骨が何らかの人為的な移動を受けているのは確実である。

本横穴墓に埋葬された人骨は、頭蓋骨、歯種、大腿骨の数から類推すると、少なくとも成人3体、小児1体以上と考えられる。このうち成人の1体の性別は男性が窺われるが、その他の人骨は性別を特定することはできなかった。また、このなかには、壮年～老年の個体が1体含まれていたと推定される。小児骨については、歯の形成状況から判断して、6～10歳程度と考えられる。

#### 5. おわりに

本横穴墓から検出された人骨は保存状態が悪く、そこから得られた人類学的所見は乏しい。しかし、埋葬個体数と小児骨の年齢を特定できたのは幸いであった。

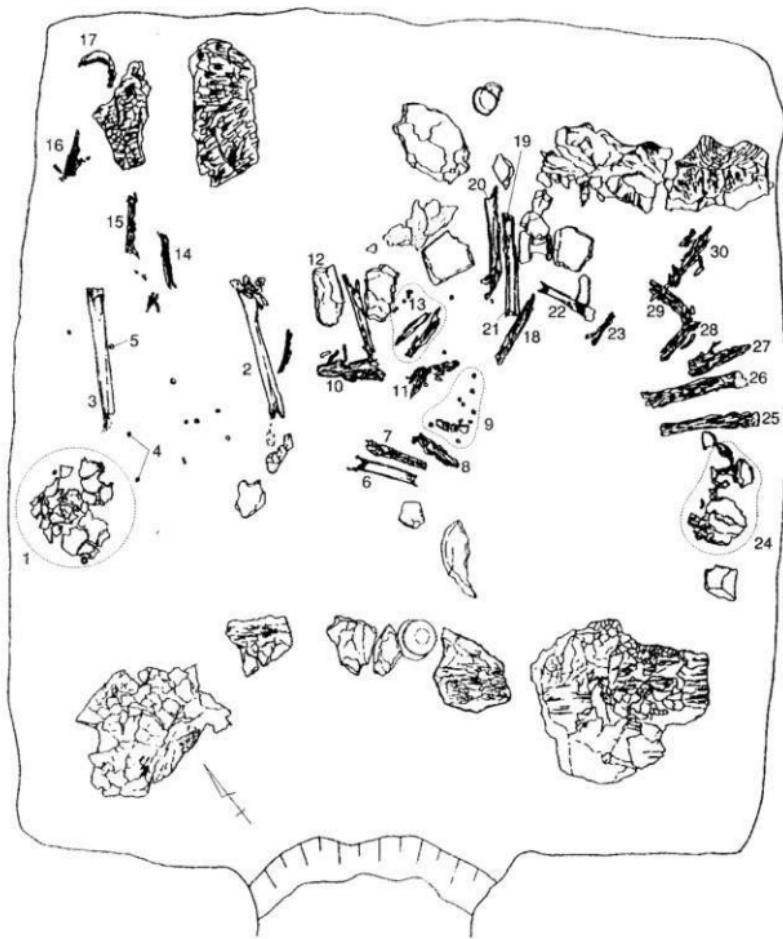


圖1 20号横穴墓人骨出土狀況

第1表 20号横穴墓出土人骨一覧表

取り上げ番号	部位名(変更)	左右	残存部位	備考欄(括弧内の数字はMartinの咬耗度)
1	頭蓋			断片化が著しいが、前頭骨、右側頭骨(錐体部)、左側頭骨、歯牙小片が認められる。乳様突起の急速が良いので男性の可能性がある。
2	人腿骨	左	C	
3	人腿骨	右?	C	
4	歯			I: 頬右第一大臼歯(0)、I: 頬左第二大臼歯(0)の歯冠のみが認められる。ただし、第一か第二かという判断はこれらが同一個体のものと仮定した場合である。ともに歯冠が完成しているが咬耗が見られないことから、この個体の年齢は上記第二大臼歯の歯冠が完成する6~7歳からI: 頬第一大臼歯の歯根が完成する9~10歳の間と考えられる。第一大臼歯にはカラベリ結節が認められる。
5	歯			下頬右第一または第二大臼歯(1)の歯冠。
6	脛骨	右?	C	
7	上腕骨*			断片化。
8	長骨片			J: 断片化。
9	下顎歯			右大歯(2)、左第二小臼歯(0)、左右第一大臼歯(左2、右1)、左右第二大臼歯(左右ともに1)、第三大臼歯(0、左右不明)。いずれも歯冠のみ。
10	大腿骨*			断片化。
11	桡骨*			断片化。
12	脛骨*	C		断片化。
13	長骨片、歯			上頬左第一大臼歯(1,1)、右小臼歯(1,1)、その他歯牙小片。
14	長骨片			断片化。
15	長骨片			断片化。
16	長骨片			断片化。
17	下顎			右第一、第二大臼歯(いずれも2)、下顎第一、第二小臼歯(いずれも1)が遊離。下顎の左側は比較的残りがよく、中切歯~第二大臼歯まで釘網(咬耗度は第一大臼歯のみ1ではほかは2)。保存処理。
18	上腕骨	C		
19	上塊			不明。やや赤みを帯びる。
20	大腿骨	C		
21	大腿骨	C		
22	脛骨*			断片化。
23	長骨片			断片化。
24	頭蓋			断片化。後頭骨片(後頭隆起周辺)。上顎歯: 左右中切歯(ともに2~3)、右側切歯(2)、左犬歯、右第一、第二小臼歯(ともに2)、左第一大臼歯(2)。下顎歯: 左小臼歯(2)、左第二、第三大臼歯(1)、左第二大臼歯(0)。保存処理。
25	人腿骨*			断片化。
26	大腿骨*			断片化。
27	長骨片			断片化。
28	長骨片			断片化。
29	長骨片			断片化。
30	長骨片			断片化。
歯1	歯			細片。大臼歯? 保存処理
歯2	歯			I: 頬右犬歯(2) 保存処理
歯3	歯			大臼歯の小片が認められる。保存処理
歯4	歯			上頬右大臼歯(1) 保存処理
歯5	歯			下頬右大臼歯(0) 保存処理
歯6	歯			下頬左大臼歯(2) 保存処理
歯7	歯			細片。大臼歯他 保存処理
歯8	歯			左下顎第二、第一大臼歯(ともに0) 保存処理
番外(U1)	歯			上頬左第一大臼歯(0)。カラベリ結節が認められる。保存処理
番外(U2)	歯			右下顎小臼歯(0) 保存処理
番外(U3)	歯			I: 頬左中切歯(0) 保存処理
番外	歯			上頬左第一或第二大臼歯(1)、下頬左第一 or 第二大臼歯(1) 保存処理

\* : 検出時の部位名を示す。取り上げ後は細片化して断片化している。

歯の後ろの( )はMartinの咬耗指数を示す。

残存部位について: C: 骨体を示す。

## 追加：21、22号横穴墓・SX-02の人骨について（平成16年度発掘調査）

以下に記載する骨は、発掘終了時に筆者らの元に持ち込まれたもので、骨の検出状況については把握していない。取り上げ図面はなく、部分的に一括して取り上げられたものである。骨から得られた所見のみについて述べる。

### 21号穴

部位が分かる骨は左側頭骨と頭頂骨の一部のみである。乳様突起の部分が破損していて、その特徴は窺えないが、全体的に小さいようである。成人骨であることは間違いないが、性別は不詳としておく。

### 22号穴

骨は玄室内から検出されたようである。4点の骨であるが、この中には頭蓋骨は含まれていない。4点はすべて下肢骨であり、左右の大腿骨と左右の脛骨がそれぞれ1点検出されている。その形態学的特徴から判断して、これらの骨は同一人骨の可能性が高い。成人骨であることは間違いないく、性別は女性を窺わせる。

### S X-02

時期不明の土壤から検出された骨である。22号穴の前底部から検出されており、ラベルに22号穴3区（地山|ブロックを含む）として取り上げられた骨は、S X-02と同じものと見なしてよいとのことである。

頭蓋骨では、前頭骨、側頭骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨が検出されているが、いずれも細片化しており、頭蓋全体の様子はることはできない。下顎骨は全体的に小さく、女性骨を窺わせる。下顎骨の前歯に相当する歯槽は閉鎖しており、犬歯以後の歯に相当する歯槽も浅くなっているようである。

歯は遊離歯として検出されたようで、表2と図2に示すことく、合計で9本検出されている。咬耗はやや進んでおり、Martin の1~2度である。下顎左第3臼歯は歯冠の側面が咬耗しており、生前には転位していた可能性が高い。歯には歯種の重複がなく、咬耗度から見てもこれらが同一個体のものであると考えられる。

脊柱や骨盤を構成する骨は検出されていない。

上肢骨の骨では、鎖骨と考えられる骨が1点検出されているのみで、上肢骨は左右不明の上腕骨が1点検出されている。

下肢骨では、左右不明の大腿骨が1点と左大腿骨が1点、左脛骨が1点検出されている。これらの骨は全体的に小さいように見受けられる。

長骨はいずれも骨端を欠き、最大長は計測できず、推定身長を求めるることはできない。

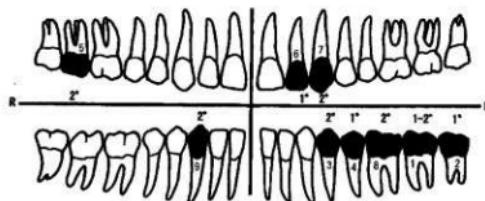
本遺構の被埋葬者は、骨の全体的な印象から判断して女性であり、年齢は歯の咬耗度から壮年後半～熟年と推定される。

稿を終わるにあたり、人骨の検討の機会を与えていただいた松江市教育文化振興事業団の各位、とりわけ人骨の取り上げや図面の作製にご協力いただいた瀬古諒子、廣瀬貴子の両氏に感謝申し上げる。

第2表 21・22号横穴墓、SX-02出土人骨一覧表

埋積	発掘日時	骨の取り上げラベル	部位		保存部位	備考
			左側頭骨、頭頂骨	右骨片		
21号穴 (玄室内)	2004/7/29	骨?	左骨片	C		
	2004/7/29	骨?	右骨片	Px C		
	2004/8/24	骨No.1	左腕骨	C		
	2004/8/24	骨No.1	右大腸骨	C		
22号穴 (玄室内)	2004/8/24	骨No.1	右腕骨	C		
	2004/8/24	骨No.2	左大腸骨	C Dpx		
	2004/8/24	骨No.2	右大腸骨			せ骨と遠位骨端。 骨体中央周長7mm(推定値)、 骨体矢状径29mm(推定値)、 骨体横径26mm(推定値)。
	2004/8/24	骨No.2	左腕骨	C		
SX-02	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨1	上腕骨	C		
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨1	大腸骨	C		
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨1	左腕骨	C		
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	下腕骨	C		
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	上頸骨片	C		両側の下頸枝を欠く。
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	右骨片			
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	左上顎骨			頸骨突起間隣部。
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	左下顎骨			ツチ骨+キヌタ骨を含む
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	左腰帶骨の椎体部			ほとんどの回復不能だが、耳小骨 (ツチ骨+キヌタ骨)が認めら れた。
	黄褐色土	22号穴3区(地山ブロックを含む) 骨2	右小骨片			
SX-02	黄褐色土	22号穴4区(地山ブロックを含む) 骨2	左大腸骨	C-Dpx		
	黄褐色土	22号穴4区(地山ブロックを含む) 骨2	後頭骨片			後頭隆起の部分
	黄褐色土	22号穴4区(地山ブロックを含む) 骨2	骨片			
	黄褐色土	22号穴4区(地山ブロックを含む) 骨2	前頸骨片			前頭後が認められる。
	黄褐色土	22号穴4区(地山ブロックを含む) 骨2	右鎖骨?			骨幹部のみ
	骨(1)	SX-02出土遺物(面)	下頸左第2大臼歯			面(1)、咬耗度(Martin) 1-2°
	骨(2)	SX-02出土遺物(面)	下頸左第3大臼歯			面(2)、咬耗度(Martin) 1°
	骨(3)	SX-02出土遺物(面)	下頸左第1臼歯			面(3)、咬耗度(Martin) 2°
	骨(4)	SX-02出土遺物(面)	下頸左第2臼歯			面(4)、咬耗度(Martin) 1°
	骨(5)	SX-02出土遺物(面)	上頸右第10-2大臼歯			面(5)、咬耗度(Martin) 2°
	骨(6)	SX-02出土遺物(面)	上頸左側切歯			面(6)、咬耗度(Martin) 1°
	骨(7)	SX-02出土遺物(面)	上頸左犬歯			面(7)、咬耗度(Martin) 2°
	骨(8)	SX-02出土遺物(面)	下頸左第1大臼歯			面(8)、咬耗度(Martin) 2°
	骨(9)	SX-02出土遺物(面)	下頸右犬歯			面(9)、咬耗度(Martin) 2°

我存部位について:P: 近位骨端、C: 骨体、D: 遠位骨端を示す。P欠およびD欠はそれぞれの骨端が欠損しており、完形でないことを示す。



- O: 撥咬耗
- A: 咬耗がエナメル質にとどまるもの
- Z: 各歯面に孤立して象牙質が現れるもの
- Z': 咬合面全体に象牙質が現れるもの
- 4: 咬耗が歯齦部に及ぶもの

図2 SX-02出土〔歯〕咬耗度

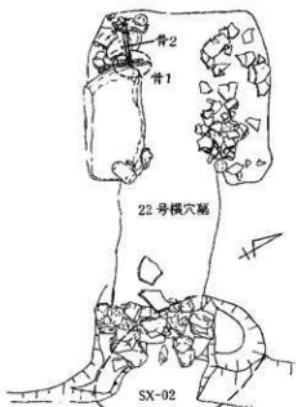


図3 22号横穴墓、SX-02人骨出土状況

## 第5章 菅田横穴墓群 まとめ

今回の菅田横穴墓群の調査では横穴墓群、後背墳丘、古墳、墓壇、溝状造構を確認した。当初、丘陵の斜面と尾根部分は別の遺跡と考えられていたが、尾根上の後背墳丘は横穴墓に伴う遺構と判断され、周辺の遺構も含めて菅田横穴墓群とした。

丘陵の東側斜面から南、西側斜面にかけて、横穴墓22基を検出した。出土遺物から横穴墓群は6世紀末から8世紀中頃まで埋葬が行われたと考えられる。築造時期は大谷編年の中雲4期から6期と推定され、3期まで遡る遺物は出土していない。

### <横穴墓の時期>

菅田横穴墓群の中で古い段階のものとして、2～4、9～14、18、21号横穴墓があり、共に初葬の時期は山雲4期と考えられる。3、4、9～14、18、21号横穴墓は出土遺物が出雲4期のものに限られ、最終埋葬は4期のうちに終了したと考えられるが、2号横穴墓は7期まで、9号横穴墓は5期まで追葬が行われていたようである。5、15、16、20、22号横穴墓の初葬の時期は5期と考えられる。16号横穴墓玄室内から5期の遺物は出土していないが、15号横穴墓の初葬の時期が5期で、土層の切り合いから同時期またはそれ以前と推定されるため5期に含める。1、6号横穴墓は出雲6期が初葬と考えられる。6号横穴墓は回転糸切り痕のある坏蓋が出土しており、8世紀中頃まで埋葬が行われていたと思われる。8号横穴墓の玄室内から出土した遺物はなく、墓道から出土した遺物の古相のものは出雲5期の様相を呈し、それ以前に初葬が行われていたであろう。7、17号横穴墓の時期は不明である。

### <前庭部・墓道>

本横穴墓群からは4箇所の前庭部を確認した。3、16、20号横穴墓前庭部の壁面には数基の横穴墓が穿たれ、3号横穴墓前庭部壁面には1基、16、20号横穴墓前庭部には2基造られている。同じところに横穴墓を造るということは、その場所に意味があり、ひとつの集団、今で言う親戚の様なまとまりがあったのではなかろうか。1号横穴墓は単独の前庭部を有する。

2、8～11、13、14、18号横穴墓の墓道は狭長な墓道である。

### <羨道・玄門>

玄門の前に羨道が付く所謂、意宇型の構造をもつ横穴墓は3、16、20、22号横穴墓で、小横穴墓には玄門や羨道ではなく、玄室前面に閉塞用の割り込みが設けられている。他は玄門だけの横穴墓である。

### <玄室>

玄室の床面は正方形や長方形で、10、11号横穴墓の様に撥形を示すものもある。1、2、5、6、8、9、10、14、18号横穴墓床面の四隅や中央には溝が掘られていた。形態はドーム形、テント形、整正家形、テント系家形、ドーム系家形など様々である。12、13号横穴墓は狭長墓道、床面は横広、形態はドーム形で初期の横穴墓の様相を示している。9号横穴墓はアーチ系家形、21号横穴墓はアーチ形を示し、天井頂部に「八」状の割り込みが掘られていた。また、1、9号横穴墓の前壁にも割り込みが掘られていたが、意味や用途は不明である。

### <閉塞施設>

自然石で閉塞した横穴墓は1、3、13、15、19、22号横穴墓、切石と自然石で閉塞した横穴墓は20

号横穴墓、割り石と自然石で閉塞した横穴墓は5、6、16号横穴墓である。自然石は少ないところで数個、多いところで數十個積まれていた。20号横穴墓の切石は一個のみで、他の横穴墓で使用していたものを転用した可能性も考えられる。16号横穴墓の閉塞石には荒島石を使用し、本遺跡で荒島石が確認されたところはここだけである。大半の横穴墓の玄門前壁には削り込みが設けられ、床面には溝が掘られているところも確認され、初葬時には木蓋などで閉塞していたと考えられる。3号横穴墓玄門前面の左壁には石積みが施され、松江市山代町の十干免横穴群の2号穴、36号穴などと同じである。

#### <埋葬施設>

16号横穴墓からは楕口式の石棺を、3号横穴墓からも石棺の一部を検出した。また5号横穴墓からは石床を、22号横穴墓からは石床と須恵器床を検出している。5、16号横穴墓の石は凝灰岩、3号横穴墓の石は砂岩で、これらは鳥根半島にみられる石であり、どのようにして持ち込まれたのであろうか。1、8、15、21号横穴墓からは棺台と思われる自然石を検出した。20号横穴墓からは石と、他に炭化した物質を8点検出し、これらは出土した位置から棺台と思われた。二瓶自然館の中村唯史氏の御教示によれば、本遺跡周辺の松江層には褐炭層を挟むところがあり、この物質は褐炭であると言われた。この横穴墓を構築した人々は褐炭を知っていて、意図的に玄室内に持ち込んだと思われる。このような横穴墓は珍しく、注目される。6号横穴墓の右側床面は掘り込まれていたが、埋葬施設なのか、意味や用途は不明である。

#### <出土遺物>

須恵器の蓋坏、縁、挺瓶、長颈壺、高环、壺、甕類、上部器の壺、壺、甕が出土した。3、18号横穴墓からは甕類が多く出土し、2号横穴墓からは鉄鎌、20号横穴墓からは大刀が出土している。遺物は6世紀末から8世紀中頃まであり、その頃まで追葬が行われていたと考えられる。14号横穴墓から出土した蓋坏は出土4期の古相の様相を呈し、本横穴墓群中一番古い遺物と思われ、最初に埋葬が行われた可能性が高い。16号横穴墓前庭埴土や玄室内埋土からは馬具や弓の一部が出土している。

16号横穴墓前庭部から出土した甕片は1個体に復元された。土層から侵入面に伴う遺物で、祭祀の後に意図的に破碎されたと考えられる。9号横穴墓墓道から出土した甕片も、周開から破片が出土しているが、侵入面に伴う遺物で16号横穴墓と同じ用途と推測される。

19、20、22号横穴墓前庭部から出土した子持壺は、最終埋葬後の埋土（黒褐色土）上面から出土している。黒褐色土は自然堆積土とか風化土ではなく、意図的に埋土として置き、祭祀を行った可能性が窺われる。

20、21、22号横穴墓からは人骨が出土した。20号横穴墓の人骨は雨水の浸入によって状態は悪く、また人による搅乱、流入動物、流入雨水によって元位置を留めていなかった。埋葬人骨は4遺体以上と考えられる。（鳥取大学 井上貴央氏の御教示による。）

#### <後背墳丘>

丘陵の尾根上から2基の後背墳丘を検出した。2基とも方墳で、1基は盛土のみで墳丘を造り、他の1基は旧表土上に盛土をして墳丘を造っている。南側の後背墳丘(1)は16号横穴墓に伴うものと考えられるが、後背墳丘(2)はどの横穴墓に伴うものかは明確にできない。後背墳丘周辺や墳丘を区切った溝からは、甕片が多く出土している。祭祀の際に甕を置き、終了後破砕し散布している。周辺から出土した遺物の中には、8世紀中頃の遺物が含まれ、その頃まで祭祀をしていたと考えられる。

## ＜おわりに＞

菅田横穴墓群からは22基の横穴墓を検出した。バラエティーに富んだ横穴墓群で、他の横穴墓群の形態、構造上の特徴がみられ、専門工人集団の存在が窺われる。出土遺物や横穴墓の形態から13、14号横穴墓が本横穴墓群中では古いと考えられ、丘陵の南側斜面から最初に構築したと思われる。8世紀中頃まで横穴墓に伴う祭祀を行っていたと考えられるが、周辺からは11世と思われる遺構や遺物が確認され、この丘陵は少なくとも11世まで墓域として存在していたであろう。

古墳時代中期には古墳が多く築造され、菅田横穴墓群の東方、川津周辺においても金崎古墳群、薬師山古墳、山崎古墳など多くの古墳が確認されている。古墳時代の終わりになると、横穴墓が多く造られるようになる。金崎古墳群や薬師山古墳周辺は強い勢力をもつ首長墓域で、菅田横穴墓群周辺はそれより低い階級の有力者層の墓域と考えられる。横穴墓の数にしては副葬品も少なく、川津周辺の強い支配が及んでいたかも知れないが、近くに22基もの横穴墓を造るということは、ある程度の勢力をもっていたのではなかろうか。

今回の発掘調査では多くの成果が得られた。今現在、確認された横穴墓は松江市の南側に多く、北側の横穴墓を知る上でよい資料となるであろう。

## ＜参考文献＞

- 山本 清 「山陰古墳文化研究」 昭和46年
- 大谷 晃：「出雲地城の須恵器の編年と地城色」『島根考古学会誌』第11集 1994年
- 大谷 規二：「上石堂平古墳と出雲内部の横穴式石室」『上石堂平古墳群』 2001年
- 山陰横穴墓研究会 「山陰の横穴墓」 1997年
- 出雲考古学研究会 「山陰地方における後期古墳文化と石棺式石室」『石棺式石室の研究』 1987年
- 島根県教育委員会 「平ヲノ遺跡 吉佐山根1号墳 穴神横穴墓群」 1996年
- 島根県教育委員会 「社日古墳」 2000年
- 島根県教育委員会 「高云道跡発掘調査報告書」 1984年
- 島根県教育委員会 「益出池遺跡 考古追跡」 1997年
- 島根県教育委員会 「虎山池古墳群」 1998年
- 島根県教育委員会 「孤谷横穴群」『島根県埋蔵文化財報告書』第47集 昭和52年
- 島根県教育委員会 「馬場道跡・杉ヶ浜道跡 客山塙墓群・連行道跡」 2002年
- 島根県教育委員会 「埋蔵文化財発掘調査報告書』IV 昭和58年
- 島根県教育委員会 「中竹矢遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告書』X 1992年
- 島根県教育委員会 「松江・北小原横穴」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第5集 昭和49年
- 島根大学考古学研究会 「十日免横穴群発掘調査報告」『菅田考古第10号』 昭和43年
- 池端 俊一 「山陰型土持塙の変遷とその背景」『考古論集（河瀬正利先生追憶記念論文集）』 2004年
- 古代の土器研究会 「古代の土器1—都城の土器集成—」 1992年
- 松江市教育委員会 「出雲國守跡発掘調査概要」 1970年

第1表 菅田横穴墓群一覧表

(単位・m)

横 穴 墓	玄 室			出土須恵器(出雲編年)						備考		
	奥行き	幅	高さ	形	施	4	5,6a	6b-c	6d	7	8	
1 前庭	2.44	2.73	1.67	テント系家形			○	○				
2 墓道	2.02	1.88	1.37	アーチ系家形	○				○			
3 前庭	2.83	2.80		ドーム形?	○							石棺
4	0.77	1.00	0.27	撥形・丸天井	○							
5	2.03	2.27	1.65	整正家形		○				○		石床
6	1.60	2.15	1.38	テント形			○	○		○		
7	1.05	0.45	0.21	アーチ形								
8 墓道	1.93	2.35	1.23	ドーム系家形		○		○				
9 墓道	2.00	1.63	1.05	アーチ系家形	○							
10 墓道	0.88	0.92	0.43	撥形・丸天井	○							
11 墓道	0.75	0.87	0.38	撥形・丸天井	○							
12 墓道	1.00	0.52	0.43	アーチ形		○						
13 墓道	0.96	1.26	(0.72)	ドーム形		○						
14 墓道	1.87	2.20		ドーム形	○							
15	1.55	1.65	1.18	テント系家形		○	○					
16 前庭	2.25	2.67	1.92	テント系家形		○	○	○		○		横口式石棺
17	1.00	0.70										未完成
18 墓道	2.23	2.40		テント系家形か ドーム系家形	○							
19 前庭	2.30	2.25										
20 前庭	2.36	2.45	1.80	テント形		○	○					
21	2.26	3.05	1.00	ドーム形	○							
22 前庭	1.76	1.83	(1.35)	テント形		○			○			須恵器床 石床

奥行き、幅、高さは縦断・横断の実測を行った所の数値である

( ) 天井の最上部を欠く為残存する一番高い所の数値

出土須恵器は墓道、前庭、渋道、玄門、玄室およびそれに伴う埋土から出土したものとの時期について掲載する  
 出土須恵器は山陰編年4~8期 大谷亮=「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集  
 1994年、上石堂平古墳と出雲古跡の横穴式石室2001年による

第2表 菅田横穴墓群出土遺物一覧表

横穴墓	須恵器											
	壺	壺	高台付 壺	環 乳頭 壺	高 壺	高 壺	瓶	瓶	平 壺	長 壺	直 壺	短 壺
	身	蓋	蓋	蓋	身	蓋	瓶	瓶	壺	壺	壺	壺
1号	墓道	1			1	1						1
	玄室	3			4	1	2			3	1	
2号	墓道	2	2	2						1		
	玄室	8	5	1			2	2		1	1	
3号	前庭部	1							1			
	玄室	4	2									
4号	玄室	1										
5号	玄門前			2					1			1
	玄室											
6号	玄門前			2	4							
7号	玄室					1						
5・6号	埋土	1		1	2							
	墓道					1				2		
8号	玄室											
9号	墓道									1		1
	玄室	9	7				1	1			2	
10号	玄室	2	2								1	1
11号	玄室	2	1								1	
12号	墓道		1 破片									
	玄室		1 破片									
13号	玄門から玄室	1	1									
14号	墓道								1			
	玄室	10	8									
15号	墓道から前庭部	3	2		3							
	玄室	1				1			2	2	1	
16号	前庭部	4	3	1	2	2			2	1		
	墓道から玄室	1		2	1				1			
18号	墓道					1						
	玄室	5	4								1	
21号	玄室	1	1									
19・20・21号	前庭部			1	1	3			1			
19号	玄室											
20号	玄門から玄室	1	1			2			1			
22号	玄室	1	1				2	1		1		

※ 破片を含む、実測した数

壺 壺 の 蓋	そ の 他 の 他	土師器		鉄製品				装身具				そ の 他
		直 皿 口	壺 月 子 鏡	大 刀 子 鏡	鐵 馬 良 具	弓 耳 環 玉	勾 金 玉	菅 玉	切 子 玉	玉	玉	
1	1	1	1	17								
				2		3	1			17		
		1	1		1							
1	1		1							2		
1												
1												
1												
1												
2	1	2										
1												
1												
1												
1												
1												

## 菅田横穴墓群 出土遺物觀察表（土器）

(単位: cm)

探査番号	遺構	出土地	基盤	法 量			形態上の特徴	測 量	備 考
				口径	高さ	底径			
9-1	1号横穴墓	玄室	环身	19.5	3.2				
9-2	1号横穴墓	玄室	环身	9.6	3.5				
9-3	1号横穴墓	玄室	环身	13.3	3.2				
9-4	1号横穴墓	玄室	环身	8.9	2.9		7.留つまみ		
9-5	1号横穴墓	玄室	环身	8.4	2.4		—		
9-6	1号横穴墓	玄室	环身	8.2	2.8		留つまみ		
9-7	1号横穴墓	玄室	环身	8.8	3.2		乳頭つまみ		
9-8	1号横穴墓	玄室 (二重室)	环	17.3	4.8				
9-9	1号横穴墓	玄室	罐	9.6	14.3	4.4	底部1条、肩部2条の沈線		職員系手 稿文
9-10	1号横穴墓	玄室	罐	8.8	11.8	4.4	肩部1条の沈線		
9-11	1号横穴墓	玄室	高体	9.0	6.0	5.8	2万円の切れ込みのみ		
9-12	1号横穴墓	玄室	長颈瓶	7.6	17.7	6.9	颈部2条の沈線		
9-13	1号横穴墓	玄室	長颈瓶	7.4	17.7	7.0			
9-14	1号横穴墓	玄室	长颈瓶	10			颈部2条の沈線		焼き赤み
9-15	1号横穴墓	玄室	直口瓶	10.8	23.9		颈部2条の沈線		
10-1	1号横穴墓	前庭部	环身	10.0	3.2				
10-2	1号横穴墓	前庭部	高台付环	12.3	4.1	8.6			
10-3	1号横穴墓	前庭部	环身	11.9	2.8		留つまみ		
10-4	1号横穴墓	前庭部	高环	10.6	6.1	6.7	浅かし、切り込みなし		
10-5	1号横穴墓	前庭部	瓶底	3.5	21.2		瘤状の把手		
10-6	1号横穴墓	前庭部	短颈瓶	11.8	11.7	9.5			
13-1	2号横穴墓	墓道	环身	12.6	3.8		底部2条の沈線、 大面、颈部に1条の深い沈線		宝箱にへら記 号
13-2	2号横穴墓	墓道	环身	10.3	3.7				
13-3	2号横穴墓	墓道	环身	10.2	3.7				
13-4	2号横穴墓	墓道 (土蔵跡)	罐	17.3	17.0				
13-5	2号横穴墓	墓道	环 (土蔵跡)	11.7	4.1	8.0			
13-6	2号横穴墓	墓道	高台付环	12.2	4.7	8.0			
13-7	2号横穴墓	墓道	罐	10.3	4.6				
13-8	2号横穴墓	墓道	环 (土蔵跡)	11.3	6.4				
13-9	2号横穴墓	墓道	長颈瓶	7.8	21.5	10.4	仁跡一雷外		
14-1	2号横穴墓	前庭部	直口瓶	9.1	12.0				
14-2	2号横穴墓	玄門	环身	10.9	4.7				
14-3	2号横穴墓	玄室	环身	10.8	3.9				
14-4	2号横穴墓	玄室	环身	12.2	4.3		底部2条の沈線		
14-5	2号横穴墓	玄室	环身	10.4	4.0		底部1条の沈線		
14-6	2号横穴墓	玄室	环身	12.3	4.6		底部2条の沈線		1封

14-7	2号機穴基	玄室	环身	11.4	4.5						
14-8	2号機穴基	玄室	环身	13.1	4.6	外面 1条の沈線 内面 端部に1条の沈線					
14-9	2号機穴基	玄室	环身	11.2	4.1						
14-10	2号機穴基	玄室	环身	11.4	5.0						
14-11	2号機穴基	玄室	环身	10.4	4.2						
14-12	2号機穴基	玄室	环身	19.7	4.3	外面 1条の沈線 内面 端部に1条の沈線					
14-13	2号機穴基	玄室	环身	12.6	4.4	外面 1条の沈線 内面 端部に1条の沈線					
14-14	2号機穴基	玄室	环身	11.6	4.3						
14-15	2号機穴基	玄室	高台付环	11.9	4.8	7.3					
14-16	2号機穴基	玄室	环身	10.4	15.2	4.8	頭部 裁文X、2条の沈線 脚部 裁文X、2条の沈線				
14-17	2号機穴基	玄室	环	10.4	12.8	4.7	胸部 2条の沈線				
14-18	2号機穴基	玄室	長腰袋	8.3	17.0						
14-19	2号機穴基	玄室	腰带	9.6	17.6		前面に三島彌久の把承				
14-20	2号機穴基	玄室	腰带	17.5	45.6		胸前に瘤状の把手				
19-1	3号機穴基	玄室	环身	11.9	4.4		外面 1条の沈線 内面 端部に浅い1条の沈線				
19-2	3号機穴基	玄室	环身	11.6	3.9						
19-3	3号機穴基	玄室	环身	10.2	2.8						
19-4	3号機穴基	玄室	环身	12.4	4.9		外面 1条の沈線				
19-5	3号機穴基	玄室	环身	11.2	3.6						
19-6	3号機穴基	玄室	环身	11.0	4.1						
19-7	3号機穴基	前部	半椭			20.5	12.9 前部にボタン穴の把手				
19-8	2号機穴基	前部	环身	9.9	3.2						
21-1	4号機穴基	玄室	环身	11.5	4.0						
22-1	5号機穴基	玄室	环	16.2	4.5						
23-2	5号機穴基	玄室	环	10.1	2.2						
23-3	5号機穴基	閉塞部前	高台高环	12.0	5.1	8.2					
23-4	5号機穴基	閉塞部前	高台高环	11.7	4.2	7.4					
23-5	5号機穴基	閉塞部前	短腰带	7.0	8.5	7.2					
23-6	5号機穴基	閉塞部前	椭形	11.5	21.2						
25-1	5号機穴基	玄室	环身	13.6	2.1						
25-2	6号機穴基	玄室前侧土	环	16.3	5.4		輪状つまみ				
25-3	6号機穴基	玄室前侧土	环	13.8	5.0	5.3					
25-4	5号機穴基	玄室前侧土	高台付环	18.6	3.4	10.2					
25-5	6号機穴基	玄室前侧土	(土端部)	11.5	4.2	8.1					
25-6	8号機穴基	玄室前侧土	环	15.6	1.9						
25-7	6号機穴基	玄室前侧土	环	12.9	3.8		輪状つまみ				
25-8	6号機穴基	玄室前侧土	环	10.1	2.9		簡単な輪状つまみ				
26-1	9号機穴基	玄室	环身	11.3	4.3						

26-2	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	10.5	3.7	腰室状つまみ	外面 回転ナダ、ド配へラ振り 内面 回転ナダ、静止ナダ		
26-3	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	13.2	2.4	端状つまみ	外面 回転ナダ、静止ナダ 内面 回転ナダ		
26-4	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	11.8	4.1	7.6	外面 回転ナダ 内面 回転ナダ 外: 回転へラ振り、回転ナダ 内: 回転ナダ		
26-5	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	12.0	3.1		外: 回転ナダ 内: 回転ナダ 外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ		
26-6	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	18.7	6.3		外面 回転ナダ 内面 回転ナダ、静止ナダ 外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ		
26-7	5、6号 横穴墓	5、6号前 道	蓋	22.9	10.8		外面 回転ナダ 内面 回転ナダ、静止ナダ 外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ	小矢以寺	
30-1	8号横穴墓	玄室	蓋	7.7	18.8	8.2	腰部2条の沈窓		
30-2	8号横穴墓	玄室	蓋	16.1	15.9	11.3	2方向に切り込みの透かし	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	
30-3	8号横穴墓	玄室	蓋	—	10.6	6.8		外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ	
33-1	8号横穴墓	玄室	蓋	13.0	4.3		外: 1条の沈窓 内: 端部に浅い1条の沈窓	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ	
33-2	9号横穴墓	玄室	蓋	—	1.0	4.4		外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ	
33-3	9号横穴墓	玄室	蓋	12.9	4.1			外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ	
33-4	9号横穴墓	玄室	蓋	12.6	4.4		外: 1条の沈窓 内: 端部に浅い1条の沈窓	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	
33-5	9号横穴墓	玄室	蓋	11.1	5.3			外: 回転ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ	
33-6	9号横穴墓	玄室	蓋	12.8	4.5		外: 2条の沈窓 内: 端部に浅い1条の沈窓	外: 小瓶ナダ、静止ナダ 内: 回転ナダ	
33-7	9号横穴墓	玄室	蓋	11.2	4.1			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	
33-8	9号横穴墓	玄室	蓋	9.1	12.8			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	
33-9	9号横穴墓	玄室	蓋	6.6	19.7		カギ状の把手が透かし	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ	
33-10	9号横穴墓	玄室	蓋	12.8	4.1			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	
33-11	9号横穴墓	玄室	蓋	13.4	4.9			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-12	9号横穴墓	玄室	蓋	10.8	4.5			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-13	9号横穴墓	玄室	蓋	12.8	4.0		外: 2条の沈窓 内: 端部に浅い1条の沈窓	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-14	9号横穴墓	玄室	蓋	12.5	4.0		外: 2条の沈窓 内: 1条の浅い沈窓	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-15	9号横穴墓	玄室	蓋	13.8	4.5			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-16	9号横穴墓	玄室	蓋	11.3	4.6			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-17	9号横穴墓	玄室	蓋	13.6	4.3			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-18	9号横穴墓	玄室	蓋	11.7	4.4		外: 2条の浅い沈窓	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-19	9号横穴墓	玄室	蓋	13.4	15.2		端部に2条の沈窓、波状文 端部外壁に凸縦、斜文	外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ	底部に焼き合 付く
33-20	9号横穴墓	玄室	蓋	8.2	13.1			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	
33-21	9号横穴墓	玄室、墓道	蓋	19.1	13.0(横)			外: 平行タキ、回転ナダ 内: 回転ナダ、当て具版	
33-22	9号横穴墓	墓道	(子持壁)	9.3	8.7	6.4		外: 回転ナダ、透押さえ 内: 回転ナダ	底部穿孔
34-2	9号横穴墓	玄室	長須塵	7.4	18.4	7.0	腰部に1条の沈窓	外: 回転ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ	
36-1	10号横穴墓	玄室	広身	13.8	4.0		外: 2条の沈窓 内: 1条の浅い沈窓	外: 回転ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	焼き込み
36-2	10号横穴墓	玄室	広身	11.8				外: 回転ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	焼き込み
36-3	10号横穴墓	玄室	広身	11.9	3.9		外: 2条の沈窓	外: 小瓶ナダ、静止ナダ 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	口縁端部変形
36-4	10号横穴墓	玄室	広身	9.8	4.3			外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 小瓶ナダ、静止ナダ	焼き込み
36-5	10号横穴墓	玄室	廣1巻	9.0	12.0	4.5		外: 小瓶ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ	
39-1	11号横穴墓	玄室	広身	11.1	4.5			外: 回転ナダ、回転へラ振り 内: 回転ナダ、静止ナダ	

59-2	11号横穴墓	玄室	环身	11.5	4.8		外面 回転ナダ、回転へラ倒り 内面 回転ナダ、静止ナダ	
59-3	11号横穴墓	玄室入口	环面	11.5	3.6	外面 2条の沈縫 内面 端部に浅い1条の沈縫	外面 回転ナダ、回転へラ倒り 内面 回転ナダ、静止ナダ	
59-4	11号横穴墓	玄室入り口	環口壇	8.9	11.8	5.2	外面 回転ナダ、回転へラ倒り、かき目 内面 回転ナダ	
42-1	12号横穴墓	墓道	环面片	—	—		外面 回転ナダ、静止ナダ	
47-2	12号横穴墓	玄室	环面片	—	—	2.0 (残)	内面 回転ナダ	
48-1	13号横穴墓	玄室	环面	18.6	4.2	外室 1条の沈縫 内室 端部に浅い1条の沈縫	外面 回転ナダ、回転へラ倒り 内面 回転ナダ、静止ナダ	
45-2	13号横穴墓	玄室	环身	—	—	12.0	5.4	
46-1	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	外室 2条の沈縫 内室 端部に1条の沈縫	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ	
46-2	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	12.8	4.5	
46-3	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	12.8	4.8	外室 2条の沈縫 内室 回転ナダ
46-4	14号横穴墓	玄室	环身	11.6	3.9		外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ	
46-5	14号横穴墓	玄室	环身	10.8	4.4		外室 回転ナダ、静止ナダ 内室 回転ナダ、回転へラ倒り	
46-6	14号横穴墓	玄室	环身	11.7	4.2		外室 回転ナダ、静止ナダ 内室 回転ナダ、静止ナダ	
46-7	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	11.0	3.8	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-8	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	12.4	3.9	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-9	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	12.7	4.0	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-10	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	10.6	4.7	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-11	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	11.3	4.1	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-12	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	12.4	4.8	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-13	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	13.4	4.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-14	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	13.9	4.3	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-15	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	12.3	4.1	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-16	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	13.6	5.0	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-17	14号横穴墓	玄室	环身	—	—	12.3	4.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
46-18	14号横穴墓	玄室	环面	—	—	14.0	5.2	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 端部に1条の沈縫
46-19	14号横穴墓	玄室	环面(上部端)	—	—	11.2	12.7	外室 ハラ日、横ナダ、静止ナダ 内室 回転ナダ、回転へラ倒り
46-20	14号横穴墓	墓道	長环壁	—	—	10.8	5.9	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ
46-21	14号横穴墓	墓道	环	22.0	6.7		外室 段ナダ、前方の剥離モコ 内面 滑りナダ、滑り起き	
49-1	15号横穴墓	閉塞部前	环身	10.1	8.6		外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 並走ナダ、静止ナダ	
49-2	15号横穴墓	閉塞部前	环面	—	—	8.5	2.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
49-3	15号横穴墓	閉塞部	环身	—	—	9.8	3.7	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
49-4	15号横穴墓	閉塞部	环面	—	—	8.6	2.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
49-5	15号横穴墓	閉塞部	环面	—	—	8.9	2.0	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
49-6	15号横穴墓	玄門	环面	—	—	8.6	2.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ
49-7	15号横穴墓	玄室	环身	—	—	10.1	5.6	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内室 回転ナダ、静止ナダ
49-8	15号横穴墓	玄室	环面(上部端)	—	—	10.6	3.1	外室 回転ナダ、静止ナダ 内室 回転ナダ
49-9	15号横穴墓	玄室	环	—	—	10.5	4.4	外室 回転ナダ、回転へラ倒り、ヘラ凹 内面 回転ナダ、静止ナダ
49-10	15号横穴墓	玄室	环	—	—	9.7	2.4	外室 回転ナダ、回転へラ倒り 内面 回転ナダ

49-11	15号横穴墓	玄室	平底	6.8	14.0		外壇 両面ナダ、タタキ板 内壇 回転ナダ	縦筋にヘラ記 号
49-12	15号横穴墓	玄室	小形 (短頭)	7.1	7.8	6.7		
49-13	15号横穴墓	玄室	平底	11.2	23.8	8.9		
49-14	15号横穴墓	玄室	長頭底	7.4	15.9	6.7	底部付け板にミラン状の把手 付	
49-15	15号横穴墓	玄室	長頭底	7.4	16.2	8.6	底部にミラン状の粘土盛り付 け 底部にミラン状の粘土盛り付 け	
50-1	16号横穴墓	前庭部	坪蓋	8.0	2.2		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-2	16号横穴墓	前庭部	坪蓋	8.6	2.4		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-3	16号横穴墓	前庭部 (成片)	坪蓋 (残)		2.3		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-4	16号横穴墓	前庭部	坪身	9.7	3.6		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-5	16号横穴墓	前庭部	坪身	9.7	8.9		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-6	16号横穴墓	前庭部	蓋	7.8	4.1		外壇 両面ナダ、ヘラ切り 内壇 両面ナダ	
52-7	16号横穴墓	前庭部	高台付坪		3.7		外壇 両面ナダ、ヘラ切り 内壇 両面ナダ	
52-8	16号横穴墓	前庭部	蓋		10.0		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
52-9	16号横穴墓	前庭部	蓋	12.4	19.2		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ、引て瓦張	
53-10	16号横穴墓	南壁部	平底	7.1	15.3		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り、カキ目 内壇 回転ナダ	縦筋にヘラ記 号
53-12	16号横穴墓	前庭部	坪身	8.8	3.8		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ、静止ナダ	
53-13	16号横穴墓	南壁部	坪蓋	9.6	4.0		外壇 両面ナダ、ヘラ切り後ナダ 内壇 両面ナダ、静止ナダ	
53-14	16号横穴墓	南壁部	坪身	8.6	2.8		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
53-15	16号横穴墓	前庭部	坪蓋	7.8	3.2		外壇 両面ナダ、静止ナダ	
53-16	16号横穴墓	南壁部	高台付	13.8	5.1	7.6	外壇 両面ナダ、ヘラ切り後ナダ 内壇 両面ナダ	縦筋にヘラ記 号
53-17	16号横穴墓	前庭部	高坪		5.7		外壇 両面ナダ、静止ナダ	
53-18	16号横穴墓	南壁部	高坪		9.7		外壇 2万4千個の酒かし、沈降 内壇 両面ナダ	
53-19	16号横穴墓	前庭部	平底	5.2	15.4		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	縦筋にヘラ記 号
53-20	16号横穴墓	前庭部	蓋	14.4	9.1		外壇 両面ナダ、平行タタキ後ナダ 内壇 両面ナダ	
53-21	16号横穴墓	前庭部	蓋	44.8	99.2		外壇 両面ナダ、平行タタキ 内壇 両面ナダ、引て瓦張	横筋浪入 70.8
54-1	16号横穴墓	通道	坪蓋	9.5	3.0		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ、静止ナダ	
54-2	16号横穴墓	通道	坪蓋	15.1	3.5		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ、静止ナダ	
54-3	16号横穴墓	通道	高台付	13.2	5.0	8.4	外壇 両面ナダ、平行みぞり 内壇 両面ナダ	
54-4	16号横穴墓	通道	坪	25.5	27.7		外壇 両面ナダ、平行みぞり 内壇 両面ナダ、ヘケ目	
54-5	16号横穴墓	通道	坪蓋	6.7	3.2		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
54-6	16号横穴墓	玄室	高台付	13.7	7.6	3.5	外壇 2条の沈降 内壇 部材に1条の沈降	縦筋にヘラ記 号
55-1	18号横穴墓	玄室	坪蓋	13.7	4.3		外壇 両面ナダ、静止後切り 内壇 両面ナダ	
55-2	18号横穴墓	玄室	坪身	10.7	4.4		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ、静止ナダ	
55-3	18号横穴墓	玄室	坪蓋	18.0	4.2		外壇 1条の沈降 内壇 部材に1条の沈降	
55-4	18号横穴墓	玄室	坪身	11.2	4.3		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	
55-5	18号横穴墓	玄室	坪身	11.6	4.4		外壇 両面ナダ、回転ヘラ削り 内壇 両面ナダ	

59-5	18号機穴基	玄室	坪蓋	3.0	4.7	内面 端部に1条の沈線	外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
59-7	18号機穴基	玄室	坪身	1.8	4.3		外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
59-8	18号機穴基	玄室	坪身	2.5	4.2	内面 2条の沈線	外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
59-5	18号機穴基	玄室	坪身	1.9	4.1	内面 端部に1条の沈線	外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
59-10	18号機穴基	玄室	短坪蓋	7.8	14.8	内面 2条の沈線、複数文	外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
59-11	18号機穴基	玄室	短坪身	7.5	11.5		外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ
59-27	18号機穴基	玄室	短坪身	12.0	15.7	内面 脊部2条の沈線、複数文 外側 脊部2条の沈線、複数文	外側 回転ナダ、回転へり取り、カキ目 内面 回転ナダ
62-1	21号機穴基	玄室	坪蓋	13.7	4.7	外側 1条の沈線	外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
62-2	21号機穴基	玄室	坪身	12.0	6.2		外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
62-3	21号機穴基	玄室	坪身	1.9	25.9		外側 回転ナダ、静止ナダ、平行引き後 内面 回転ナダ、静止ナダ、並行負担 外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ
66-1	19, 20, 22 号機穴基	前面部	壁板	8.9	5.7	5.5	
66-2	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋	28.0 (底)	17.6 (底)	内面 子持2段窓、底定4箇 内面 内形の透かし	内面 回転ナダ、平行引き後ナダ 内面 回転ナダ
66-3	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	15.4 (底)	19.8 (底)	内面 情報、三角形の透かし 内面 子持2段窓、底定4箇	外側 回転ナダ、平行引き後ナダ 内面 回転ナダ、ナダ、指脱さえ
66-4	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	14.7 (底)	20.7 (底)	内面 子持2段窓、底定4箇 内面 内形の透かし	外側 回転ナダ、平行引き後ナダ 内面 回転ナダ、指脱さえ後ナダ
67-5	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	15.0 (底)	7.7 (底)		外側 回転ナダ
67-6	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	14.7 (底)	6.2 (底)		外側 回転ナダ
67-7	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	8.6 (底)	3.5 (底)		外側 回転ナダ
67-8	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	14.6 (底)	3.5 (底)	内面 2条の沈線 内面 三角形の透かし	外側 回転ナダ 内面 回転ナダ
67-9	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	13.5 (底)			外側 上工具による横方向のナダ 内面 縦方向のナダ
67-10	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	6.7 (底)		内面 2条の沈線	外側 工具による横方向のナダ 内面 縦方向のナダ
67-11	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	14.6 (底)		外側 2条の沈線	外側 工具による横方向のナダ 内面 縦方向のナダ
67-12	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	7.5 (底)			外側 工具による横方向のナダ、箱蓋ナ 内面 縦方向のナダ
67-13	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	10.5 (底)			内面 縦方向のナダ
67-14	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	25.6 (底)	19.6 (底)	外側 2~3条の沈線 内面 2~3条の沈線 内面 三角形の透かし	外側 工具による横方向のナダ、箱蓋ナ 内面 縦方向のナダ
68-15	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	18.3 (底)			外側 2~3条の沈線 内面 2~3条の沈線 内面 三角形の透かし
68-16	19, 20, 22 号機穴基	前面部	長坪蓋	9.0	21.6	9.7	外側 頂部2条の沈線 内面 にタク栓柱上に付け
68-17	19, 20, 22 号機穴基	前面部	口縁+前面部	10.7	5.1	内面 頂部2条の沈線	外側 回転ナダ 内面 回転ナダ、静止ナダ
68-18	19, 20, 22 号機穴基	前面部	脚付箱	8.5	11.1	4.3	外側 回転ナダ 内面 回転ナダ
68-19	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	8.8 (底)	8.8 (底)		外側 回転ナダ 内面 回転ナダ
68-20	19, 20, 22 号機穴基	前面部	子持蓋 箱蓋	12.4 (底)	5.7 (底)	内面 天井部に貼付け教育 内面 大规模中央浮上	外側 ナダ 内面 回転ナダ、ナダ
68-21	19, 20, 22 号機穴基	前面部	裏	31.4	54.2		外側 回転ナダ、タク栓後退いカキ目 内面 回転ナダ、当て具削 外側 回転ナダ、回転へり取り
71-1	20号機穴基	玄門	半框	6.7	16.3	6.3 を1枚取り付け	外側 回転ナダ 内面 回転ナダ
71-2	20号機穴基	玄室	坪蓋	10.2	3.9		外側 回転ナダ、静止ナダ 内面 回転ナダ
71-3	20号機穴基	玄室	坪身	9.2	8.2		外側 回転ナダ、回転へり取り 内面 回転ナダ、静止ナダ
71-4	20号機穴基	玄室	高坪	9.6	10.1	7.3	外側 回転ナダ、静止ナダ、ヘリ切り後 内面 回転ナダ
71-5	20号機穴基	玄室	小形高坪	7.6	7.9	6.9 を3方に切れ込み	外側 回転ナダ 内面 回転ナダ

71-10	30号横穴墓	施道	蓋	4.2 (既)		外蓋 回転ナゲ 内蓋 回転ナゲ
74-1	22号横穴墓	玄室	巧蓋	11.7	4.4	外蓋 回転ナゲ、ヘラ切り後ナゲ 内蓋 回転ナゲ、静止ナゲ
74-2	22号横穴墓	玄室	板身	10.5	3.5	外蓋 回転ナゲ、ヘラ切り後ナゲ 内蓋 回転ナゲ、静止ナゲ
74-3	22号横穴墓	玄室	扉	9.5	11.9	外蓋 滑部1条の芯跡、洞跡 内蓋 2箇の注記
74-4	22号横穴墓	玄室	小型扉	6.6	6.6	外蓋 回転ナゲ、洞跡へ2割り 内蓋 1割ナゲ、静止ナゲ
74-5	22号横穴墓	玄室	長理扉	10.6	22.6	外蓋 回転ナゲ、戸石ナラ削り 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ
74-6	22号横穴墓	玄室	桶瓶	10.5	20.1	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ
74-7	22号横穴墓	玄室	扉	17.2	35.4	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ、当て真積 内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ、内蓋穴の当て真積
79-1	後背積瓦 (1)	北溝	扉	20.3	48.6	外蓋 平行タキ後カヨロ真積、回転ナゲ
81-1	後背積瓦 (1)	南側	平蓋 (既)	11.9	2.5	内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ
81-2	後背積瓦 (1)	東側	禹台付环	3.6	7.3	外蓋 戸石ナゲ、ヘラ切り後ナゲ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ
81-3	後背積瓦 (1)	南側	禹台付环	2.5	7.8	外蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ
81-4	後背積瓦 (1)	東側	かわらけ	11.8	2.7	外蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ
82-1	後背積瓦 (2)	北溝	手持ち蓋の子蓋	9.0	7.5	外蓋 戸石ナゲ、指捺見え 内蓋 戸石ナゲ
82-2	後背積瓦 (2)	北溝	手持ち蓋の子蓋口縁	9.1	3.2 (既)	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ
82-3	後背積瓦 (2)	北溝	蓋の脇部	11.6	8.0	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ
82-4	後背積瓦 (2)	北溝	火	9.1	7.4	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ
89-1	1号墳	土体抵抗上	長理蓋	17.4	9.5	外蓋 戸石ナゲ、回転ヘラ削り、ヘラ切 内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ
89-2	1号墳	土体部	蓋	21.0	31.8	内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ
89-3	1号墳	端刃	蓋	10.9	3.5	内蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 外蓋 戸石ナゲ、ヘラ切り後ナゲ
89-4	1号墳	施道	蓋	11.5	3.0 (既)	内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ
91-1	SX-01	床面	かわらけ	10.3	1.9	外蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 内蓋 戸石ナゲ、指捺見え
91-2	SX-01	端刃	かわらけ	1.8 (既)	6.2	外蓋 戸石ナゲ、ナゲ、回転糸切り頭 内蓋 戸石ナゲ、ナゲ

出土遺物観察表(壁)

(単位:cm)

標印番号	施或	出土地点	器種	大きさ		形態上の特徴	調査	備考
				口径	高さ			
84-1	山野	第83回参照	蓋	39.4 (既)	67.5 (既)	70.4 □頭部外側に沈跡、剥皮文	外蓋 回転ナゲ、平行タキ 内蓋 回転ナゲ、当て真積後カヨロ	
84-2	山野	第83回参照	蓋	33.6	61.8	66.7	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ	火ぶくれ
85-3	山野	第83回参照	蓋	32.6 (既)	73.0 (既)	63.5 □頭部外側に沈跡、剥皮文	外蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ 内蓋 戸石ナゲ、当て真積	
85-4	山野	第83回参照	蓋	18.6 (既)	55.4 (既)	46.2	外蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ、平行タキ 内蓋 戸石ナゲ、当て真積	火ぶくれ
86-5	山野	第83回参照	蓋	59.5 (既)	75.4 (既)	76.6 □頭部外側に沈跡、剥皮文	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ 内蓋 戸石ナゲ、静止ナゲ、当て真積	
86-6	山野	第83回参照	蓋	17.9 (既)	14.0 (既)		外蓋 戸石ナゲ、平行タキ後カヨロ 内蓋 戸石ナゲ、当て真積	自然解
86-7	山野	第83回参照	蓋	27.9 (既)	30.0 (既)	50.1 □頭部外側に沈跡、剥皮文	外蓋 戸石ナゲ、平行タキ 内蓋 戸石ナゲ、当て真積	

出土遺物觀察表（鉄製品）

(単位: cm)

標造番号	遺構	出土地	南極	全長 (既存長)	刀身部(刃部)			剣頭・茎部			備 考
					長	最大幅	厚	最人間	厚	目附孔径	
15-21	2号横穴墓	玄門	鉄劍	7.2	1.1	0.6	0.2	6.1	0.4	0.3	
15-22 1	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	6.2					0.4	0.4	
22-2	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	5.3	1.0	0.8	0.3	4.2	0.4	0.3	
22-3	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	9.1	1.0	0.6	0.3	8.1	0.4	0.3	
23-4	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	7.4					0.4	0.3	
22-5	2号横穴墓	閉塞部左側	鍔鍼	6.8	1.1	0.7	0.3	5.7	0.5	0.4	
15-23-1	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	10.4	1.4	0.8	0.2	9.0	0.4	0.4	
	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	12.8					0.5	0.3	樹皮色、木質残存
23-3	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	11.2	1.0	0.6	0.2	10.2	0.4	0.4	木質残存
23-4	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	9.1	1.0	0.6	0.2	8.1	0.4	0.3	
23-5	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	11.6					0.4	0.4	樹皮色、木質残存
15-24	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	9.8					0.3	0.3	鍔被部、樹皮色や木質に残存
15-25	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	9.0					0.5	0.4	鍔被部
15-26	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	4.2					0.3	0.3	鍔被部
15-27	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	3.3					0.3	0.3	鍔被部
15-28-1	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	2.7					0.3	0.3	茎部
26-2	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	2.0	1.1	0.7	0.2	0.9	0.5	0.3	鍔身部
15-29	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	2.3	1.1	0.7	0.2	1.2	0.5	0.2	鍔身部～茎部
15-30-1	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	1.9					0.3	0.3	茎部
30-2	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄劍	1.2					0.4	0.3	茎部
15-31	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	4.8					0.7	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
15-32	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	4.6					0.5	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
15-33	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	4.3					0.4	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
15-34	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	2.7					0.4	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
15-35	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	2.3					0.3	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
15-36	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	1.6					0.4	0.2	茎部、樹皮色、木質残存
15-37	2号横穴墓	閉塞部左側	鉄鍔	1.6					0.4	0.3	茎部、樹皮色、木質残存
19-8	3号横穴墓	玄室	刀子	20.7	15.2	1.6	0.4	5.4	1.3	0.6	0.3 柄木2枚あわせ、裏面に漆を塗り墨糸を巻く
19-9	3号横穴墓	玄室	刀子	10.2	6.3	1.1	0.4	2.9	0.7	0.3	
25-9	6号横穴墓	玄室	墨標	3.7					0.7	0.3	
46-20	11号横穴墓	玄室	人刀か刀	3.5		2.3	0.2				
49-16	15号横穴墓	玄室	刀子	7.2	6.1	1	0.2	1.1	0.9	0.3	茎部に木質付着
49-17	15号横穴墓	玄室	刀子	8.5	1.7	1	0.2	6.8	0.8	0.3	茎部に木質付着
52-11	16号横穴墓	閉塞部	鋏具	4.2							馬具
54-2	16号横穴墓	玄室	馬箤	2.3							馬の飾り金具、木質付着
59-1	18号横穴墓	玄室	刀子	15.6(既) 10.1	1.4	0.3	3.5	1.1	0.3		木質付着
71-8	20号横穴墓	病院部	人刀	83.2	80.7	3.2		8.6	4.5	2.4	0.3
71-9	20号横穴墓	玄室	刀子	5.1	2.9	1.2	0.2	2.4	0.8		茎部に木質付着

出土遺物觀察表（玉類）

(単位：mm)

辨認番号	遺構	出土地點	器種	材質	色調	長径	短径(幅)	厚さ	表層	面 考
59-10	3号横穴墓	玄室左内壁際	勾玉	翡翠	暗褐色	31.0	11.0	0.0	1.5~2.0	片面穿孔
59-11	3号横穴墓	玄室左内壁際	勾玉	翡翠	淡青色	32.0	11.5	0.0	1.5~2.5	片面穿孔
59-12	3号横穴墓	玄室左内壁際	玉珠	ガラス	褐色	5.0	9.5	7.5	2.5~3.0	片面穿孔
59-13	3号横穴墓	玄室左内壁際の下	勾玉	水晶	半透明	19.0	7.0	6.5	2.0~3.0	片面穿孔
59-14	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	藍色	7.0	7.0	3.0	1.0~1.5	片面穿孔
59-15	3号横穴墓	玄室内部石の下	小玉	ガラス	蓝色	6.0	5.5	2.5	1.5	片面穿孔
59-16	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	5.0	4.0	2.0	1.0	片面穿孔
59-17	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	3.0	2.5	2.0	1.1	片面穿孔
59-18	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	5.0	4.0	3.5	1.5~2.0	片面穿孔
59-19	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	4.0	5.5	2.5	0.7~1.0	片面穿孔
59-20	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	4.5	3.0	3.0	1.0	片面穿孔
59-21	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	3.0	3.0	3.0	1.0~1.7	片面穿孔
59-22	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	4.0	3.5	2.5	1.0	片面穿孔
59-23	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	3.5	3.5	2.5	1.0	片面穿孔
59-24	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	4.0	5.5	2.0	1.0	片面穿孔
59-25	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	淡青色	4.5	4.0	2.0	1.0~2.0	片面穿孔
59-26	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	淡青色	3.0	3.0	4.0	1.0	片面穿孔
59-27	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	明青色	4.0	4.0	2.0	1.0~1.5	片面穿孔
59-28	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	明青色	3.5	3.5	3.0	1.0~1.3	片面穿孔
59-29	3号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	明青色	4.0	3.5	2.5	1.0~1.3	片面穿孔
59-30	3号横穴墓	玄室	小玉	瑪瑙	褐色	6.5(既)	4.5(既)	4.0(既)	2.0	片面穿孔
59-4	8号横穴墓	玄室	小玉	瑪瑙	褐色	0.7	0.6	0.5	1.0~3.0	片面穿孔
59-5	8号横穴墓	玄室	小玉	瑪瑙	褐色	0.7	0.7	0.5	1.0	片面穿孔
59-6	8号横穴墓	玄室	小玉	瑪瑙	褐色	0.7	0.7	0.5	1.0	片面穿孔
48-21	14号横穴墓	玄室内	小玉	ガラス	透通した青緑色	0.5	0.3	0.2	2.5	片面穿孔
48-22	14号横穴墓	玄室内	小玉	ガラス	透通した青緑色	0.4	0.4	0.3	1.0	片面穿孔
59-15	18号横穴墓	玄室	勾玉	瑪瑙	橘紅色	4.0	1.3	1.1	1.0~3.0	片面穿孔
59-16	18号横穴墓	玄室	勾玉	水晶	半透明	3.0	1.2	0.9	2.0~4.0	片面穿孔
59-17	18号横穴墓	玄室	切子玉	水晶	半透明	2.4	1.4	1.0	1.0~4.0	片面穿孔
59-18	18号横穴墓	玄室	切子玉	水晶	半透明	1.6	1.2	1.1	1.0~3.0	片面穿孔
59-19	18号横穴墓	玄室	碧玉	青玉	淡灰绿色	2.1	0.9	0.8	3.0~3.5	片面穿孔
59-20	18号横穴墓	玄室	小玉	土製	深褐色	0.8	0.8	0.5	1.0	片面穿孔
59-21	18号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	8.5	7.5	0.4	2.5	片面穿孔
59-22	18号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	蓝色	0.9	0.6	0.6	1.0	片面穿孔
59-23	18号横穴墓	玄室	小玉	土製	淡灰色	0.7(既)		0.4(既)	1.0	片面穿孔
59-24	18号横穴墓	玄室	漆三	漆	明褐色	1.7	1.0(既)	0.8(既)	2.0	片面穿孔
59-25	18号横穴墓	玄室	漆三	漆	褐色	1.3(既)	1.0(既)	1.0(既)	5.0~6.0	片面穿孔
59-26	18号横穴墓	玄室	小玉	ガラス	透通した青緑色	0.4	0.3	0.2	1.0	片面穿孔
70-1	19号横穴墓	玄室内	漆生	漆	褐色	1.4	1.1	0.9	4.0	

出土遺物觀察表（耳環）

(単位：cm)

辨認番号	遺構	出土地點	器種	内径	外径	厚さ	面 考		
							幅	高さ	
59-12	18号横穴墓	玄室	二重	1.6	2.8	0.6	縫隙付着、鍍金が僅かに残る		
59-15	18号横穴墓	玄室	耳環	1.7	2.7	0.6	縫隙付着、一作鍍金封緘		
71-7	20号横穴墓	玄室	耳環	1.5	2.4	0.7	縫隙付着、一作鍍金封緘		
71-8	20号横穴墓	玄室内	耳環	1.3	2.5	0.7	縫隙付着、一作鍍金封緘		

出土遺物觀察表（石錐・銅錢）

(単位：cm)

辨認番号	由土地点	遺構	量	面 考		
				長	幅	厚さ
93-1	調査区北側	石錐	1.5 (既)	1.1	0.3	門基類似式（半基類似式に近い）、先端、基礎欠損
93-2	調査区北側	石錐	3.0 (既)	2.8	0.8	芦基類似式、基礎欠損
93-3	調査区北側	圓錐	2.2			瓦承通室

## 第6章 薦沢砦跡

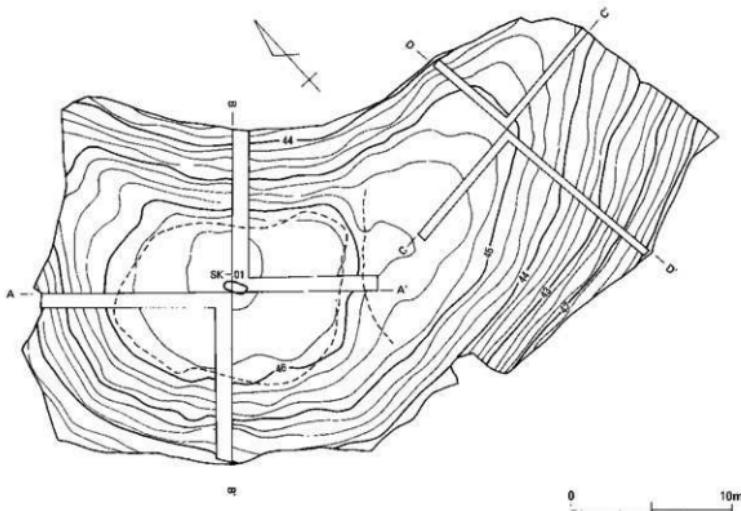
薦沢砦跡は松江市法吉町薦沢に所在する。北山山地から南に派生する丘陵上に位置し、標高は最高点で46.3mを測る。丘陵北西側の尾根上には比較的広い平坦面が確認され、その平坦面は東へと方向を変えていく。北側には毛利、尼子の戦国期の代表的な山城、白鹿城、貞山城が存在し、その位置的環境と地形から曲輪跡もしくは砦跡と考えられた。

**土層堆積状況（第2図）** 地山上の堆積上層は部分的に40cm程度確認されるところもあるが、全体的に少なく10cm程度である。丘陵の所々に土壌状の産みがみられる。形はいびつで床面は凸凹し、根による搅乱もしくは風倒木痕と考えられた。

**SK-01（第3図）** 丘陵北西側の平坦面は長径約14.0m、短径約10.0mを測る。平坦面のほぼ中央から土壙（SK-01）1基を検出した。SK-01は主軸をN-29°-Wに置き、長さ1.6m、幅50cm、深さ22cmを測り、椭円形を呈する。当初墓壙と考えられたが木棺を納めるための裏込め上も確認できず、副葬品も出土しなかったため、明確な確認が得られず土壙とした。

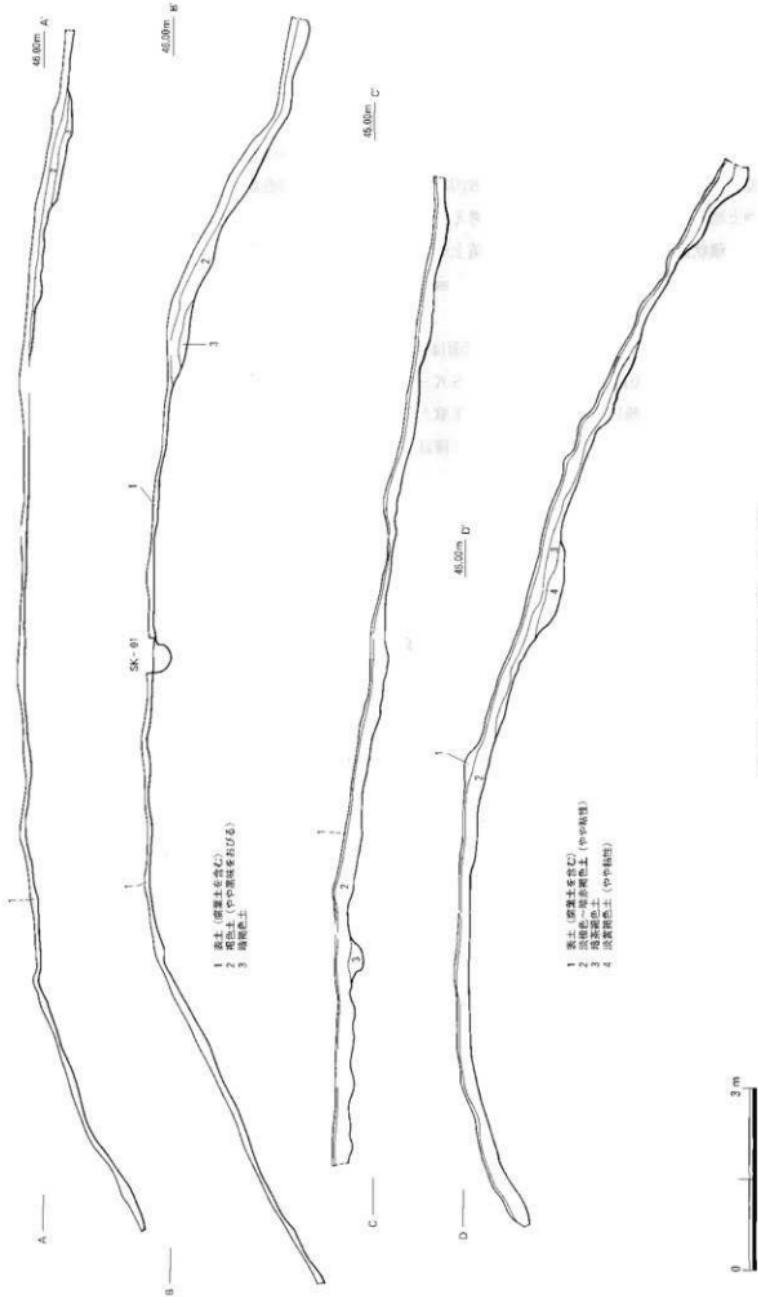
**出土遺物（第4図）** 出上遺物は少なく、表土中や細片を除くと4点だけである。1は地表面から出土した須恵器の残片で外面に平行タキ、内面に当て具痕がみられる。2、3は土壤状の産みから出土した遺物である。2は弥生土器の底部と思われる。3は近世以降の陶器片で淡灰色を呈する。推定口径9.8cmを測る。4は石鐵である。SK-01上面から出土しているが、SK-01に伴う遺物とは考え難い。残存長1.5cm、最大幅1.6cmを測る。

**小結** 遺物も少なく、遺構の性格は不明である。砦跡という考古学的な確証も得られなかった。し

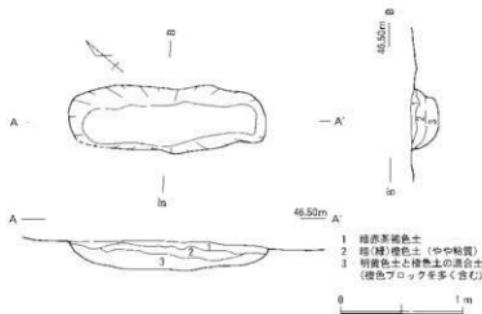


第1図 薦沢砦跡全体図 (S = 1 : 300)

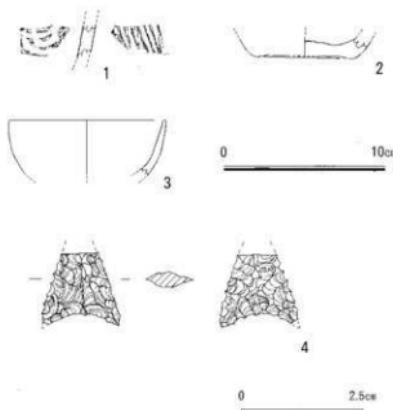
第2圖 土層斷面圖 ( $S = 1 : 80$ )



かし、本遺跡周辺の丘陵には車輪を思わせるような平坦面がいくつもあり、尾根続きの北側には白鹿城、真山城があることなど周辺の環境を考えると、砦であった可能性は否定できない。今後、周辺の発掘調査によって本遺跡の性格が判明するのかもしれない。



第3図 SK-01実測図 ( $S = 1 : 40$ )



第4図 出土遺物実測図 ( $S - 1 : 3, 1 : 1$ )

高沢砦跡出土遺物観察表（土器）

(単位: cm)

挿図番号	出土地点	器種	法量			形態上の特徴	調査	備考
			口径	器高	底径			
4-1	堆積土上	壺片				外面 平行タタキ 内面 当て具裏	残存長 2.2	-
4-2	堆積土 (弥生上器)	壺底部		6.4 (推定)		風化により不明	-	-
4-3	堆積土	陶器	9.8			-	-	-

高沢砦跡出土遺物観察表（石鎌）

(単位: cm)

挿図番号	出土地点	器種	法量			備考
			長	最大幅	厚さ	
4-4	堆積土	石鎌	1.4 (残)	1.6	0.3	凹基無茎式 先端、基端欠損

# 写 真 図 版





菅田横穴墓群  
調査前東側斜面  
(南東より)



調査前南側斜面  
(南より)



1号横穴墓  
閉塞石検出状況



1号横穴墓  
玄室内遺物出土状況



1号横穴墓  
玄室内前壁の割り込み



1号横穴墓  
玄室内完掘状況



2号横穴墓玄門部



2号横穴墓玄室内遗物出土状况



2号横穴墓玄室内遗物出土状况



2号横穴墓玄室内完掘状況



右側天井部ノミ痕



1.2号横穴墓全景（東より）



3号横穴墓  
前底部土層断面  
(南東より)



3, 5, 6号横穴墓  
土層断面 (北東より)



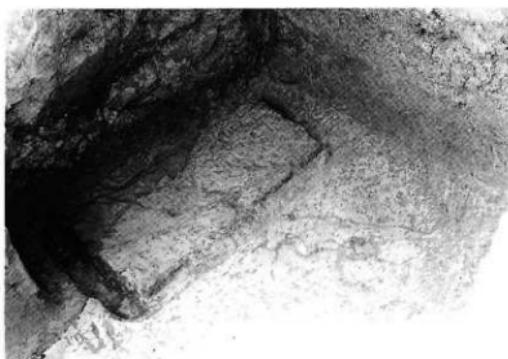
3号横穴墓  
閉塞石検出状況  
(東より)



3号横穴墓玄室内遺物出土状況



3号横穴墓羨道から玄室



3号横穴墓玄室内完掘状況



5号横穴墓閉塞石・石積検出状況



5号横穴墓玄門部

图版 8



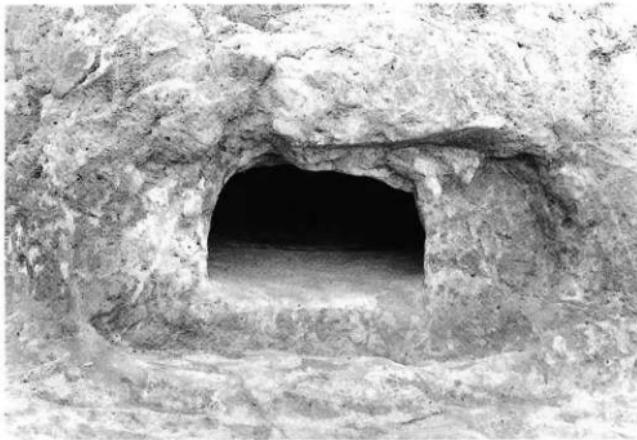
5号横穴墓玄室内



5号横穴墓玄室内石床



5号横穴墓  
玄室内完掘状况



4号横穴墓完掘状况



6号横穴墓  
閉塞石取出状況



6号横穴墓玄門部



6号横穴墓  
玄室内遗物出土状况



6号横穴墓  
玄室内完掘状况



7号横穴墓完掘状况



3～7号横穴墓全景（東より）

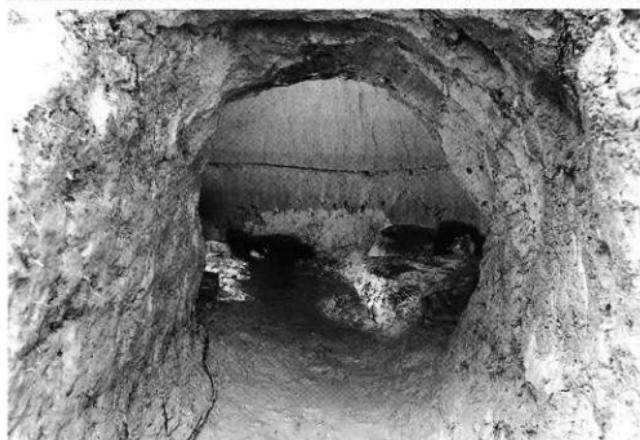


現地指導会

図版12



8号横穴墓玄門部



8号横穴墓玄室内



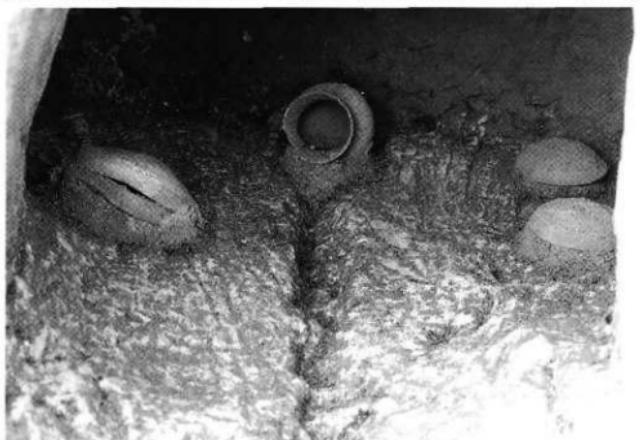
9号横穴墓玄門部



9号横穴墓  
玄室内遺物出土状況



9号横穴墓  
玄室内前壁の割り込み



10号横穴墓  
玄室内遺物出土状況



11号横穴墓  
玄室内遺物出土状況



10.11号横穴墓全景  
(東より)



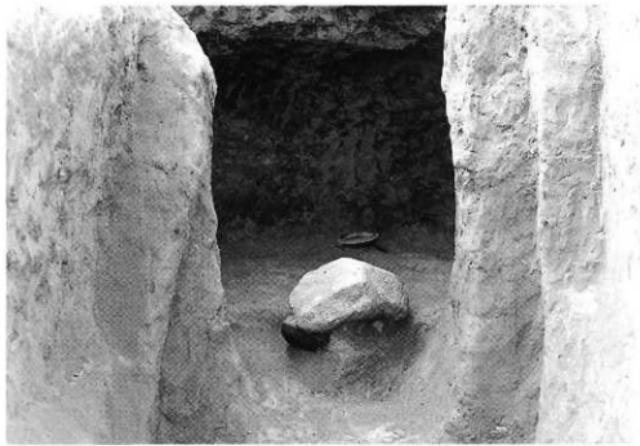
12号横穴墓全景  
(東より)



13号横穴墓土層断面（南東より）



13号横穴墓墓道・閉塞石検出状況



13号横穴墓玄室内遺物出土状況



14号横穴墓  
玄室内遗物出土状况



14号横穴墓玄门部



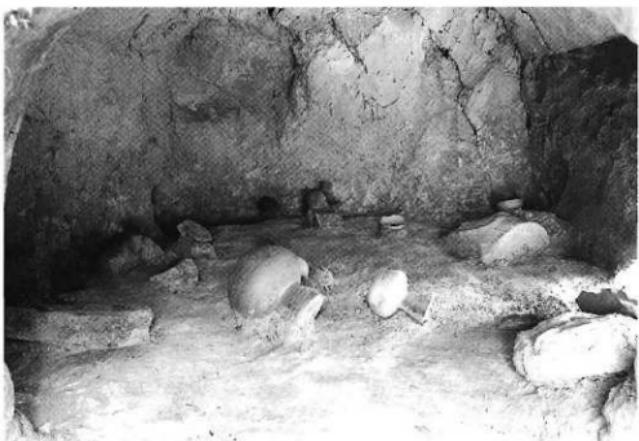
14号横穴墓  
玄室内完掘状况



15号横穴墓土層断面



15号横穴墓  
閉塞石検出状況



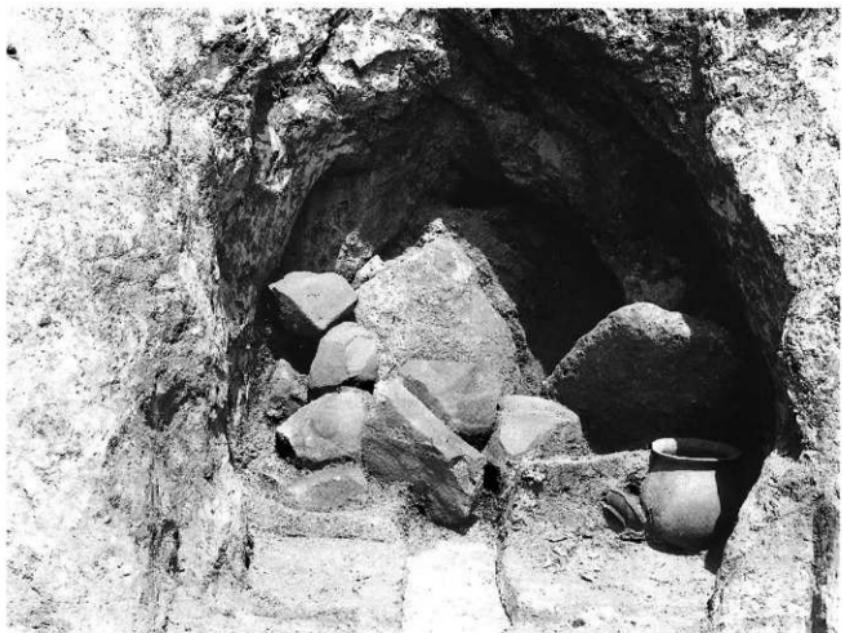
15号横穴墓  
玄室内遺物出土状況



16号横穴墓前庭部甕片出土状況（南より）



16号横穴墓前庭から玄門部



16号横穴墓閉塞石・遺物出土状況



16号横穴墓玄室内石棺検出状况



復元した石棺



16号横穴墓玄室内完掘状况

圖版20



17号横穴墓完掘状况



18号横穴墓玄門部



18号横穴墓  
玄室内遺物出土状况



18号横穴墓  
玄室内完掘状況  
(西より)



21号横穴墓  
玄室内遺物出土状況  
(南より)



21号横穴墓  
玄室内完掘状況  
(北より)